ポケットモンスターカードゲーム
日本一決定戦リザードンメガバトル
公式ドキュメントブック

めざせ！ポケモンカードマスター



元宮秀介&ワンナップ・編著
クリーチャーズ・監修

ポケットモンスター
カードゲーム

めざせ
ポケモンカードマスター

ポケットモンスターカードゲーム日本一決定戦
リザードンメガバトル公式ドキュメントブック



リザードンメガバトルはポケモンカードのイベントの集大成です



強さを競いあうこと。

それはポケモンカードの面白さのひとつです。

これまでのイベントでは、ポケモンカードが競技として、

プレイヤーのみなさんの間で、強さを競いあう遊び方をしてもらえる

雰囲気作りを心がけてきました。

日本一決定戦リザードンメガバトルは、

ポケモンカード・イベントの集大成です。

日本全国から集まってきた選手たちが強さを競うイベントですから、

強いポケモンとして人気の高いリザードンの名前を大会のタイトルにしました。

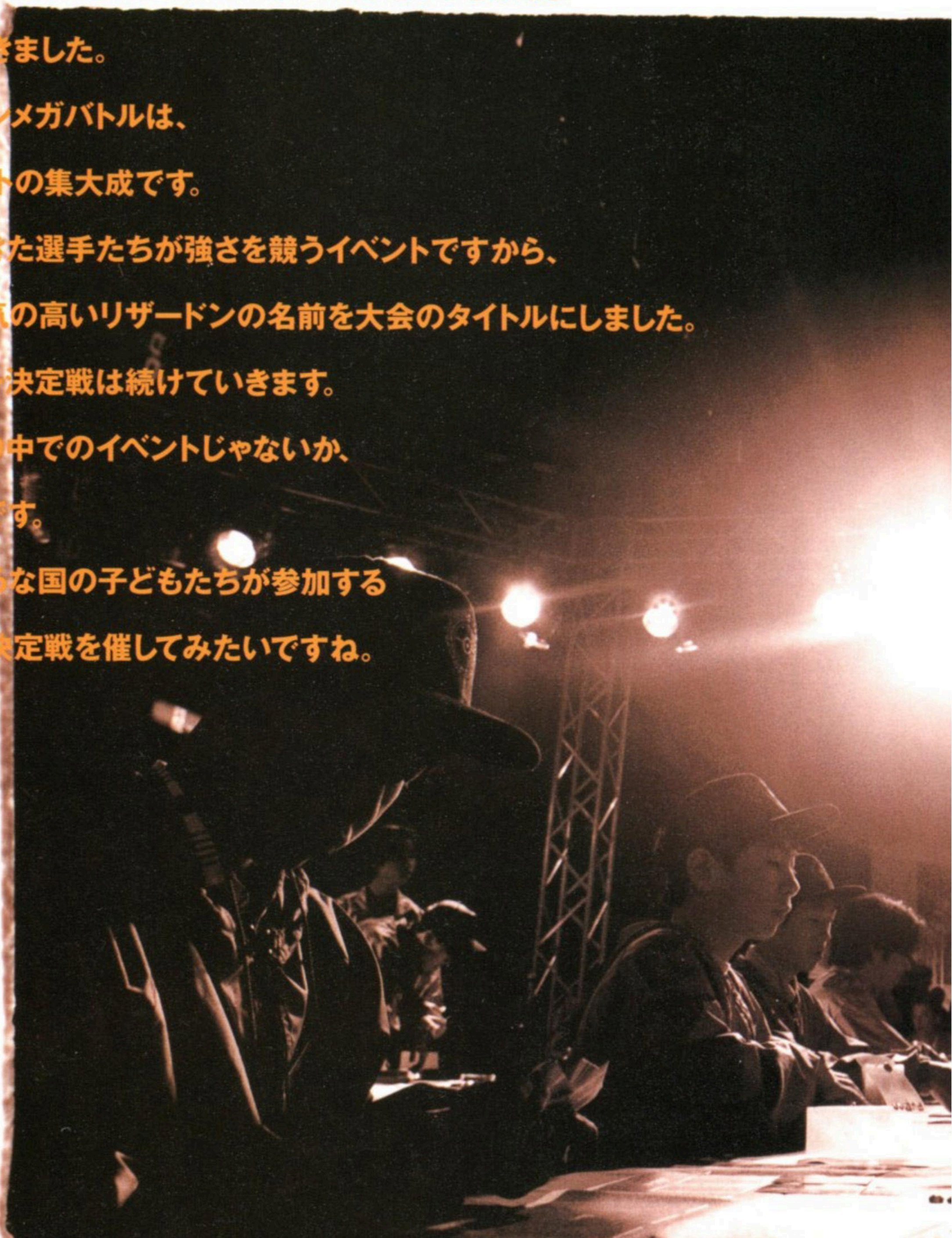
当然、これからも日本一決定戦は続けていきます。

だけど、まだまだ日本の中でのイベントじゃないか、

という気持ちもあるんです。

いつの日にか、いろいろな国の子どもたちが参加する

ポケモンカード世界一決定戦を催してみたいですね。





ポケモン総合プロデューサー
クリーチャーズ代表取締役

石原恒和


TRAINER BATTLE
トレーナー対戦コーナー
BATTLE CORNER
BANDAI
リザードンメガバトルまでの道のり
第2回公式トーナメント
'98年2月8日
シオンカップ
札幌コミュニティドーム
'98年2月15日
クチバカップ
ナゴヤドーム
'97年11月8日
マサラカップ
神戸国際展示場
'98年1月10～11日
ニビカップ
幕張メッセ
'98年2月1日
ハナダカップ
大阪ドーム
'97年12月7日
トキワカップ
福岡ドーム

日本一決定戦 リザードンメガバトル



それはポケモンカードトレーナーの最高の栄誉

日本一決定戦リザードンメガバトルは、全国のポケモンカードプレイヤーの中から、真の日本一を決定する夢のビッグイベントとして企画された。

その前哨戦となったのが、約半年を費やして開催された第2回公式トーナメントだ。北海道、東京、名古屋、大阪、神戸、福岡の6大都市で行われ、1000人に迫る選手が参加した。各大会ともトーナメント形式で進行し、100人を超える参加選手の中から上位入賞者を選抜。1〜3位の選手たちにはリザードンメガバトル予選リーグへの出場資格が与えられ、4位の選手にはチャレンジリーグの参加資格が与えられた。

'98年4月26日、リザードンメガバトルは「ポケモンワールド'98」のメインイベントとして実施され、日本全国から集まってきた代表選手たちが日本一のポケモンカードトレーナーの座をかけて、数々の名勝負を繰り広げた。

はたして栄冠を勝ち取るのは誰だ？

もくじ

contents

序文 クリーチャーズ代表取締役 石原恒和 …… 2
リザードンメガバトルとは …… 4

PART 1 日本一決定戦リザードンメガバトル ドキュメント …… 7

●ブース設営とリハーサル …… 8
●選手到着 …… 10
●開場準備 …… 11
●開場 …… 12
●メディアファクトリーブース …… 14
●ステージイベント …… 19
●第1回ガルーラ親子大会 …… 22
●床上のカードプレイ …… 26
●午後1時の会場風景 …… 34
●リザードンメガバトル公式大会グッズ …… 36
●チャレンジリーグ …… 40
●選手入場 …… 42
●予選リーグ …… 44
●準決勝戦 …… 50
●3位決定戦 …… 62
●決勝戦 …… 68
●ジュニアリーグ優勝者 平田峻選手インタビュー …… 80
●シニアリーグ優勝者 高田康行選手インタビュー …… 81
イマクニ?が見た日本一決定戦 …… 82

PART 2 日本一決定戦リザードンメガバトル 選手名鑑 …… 83

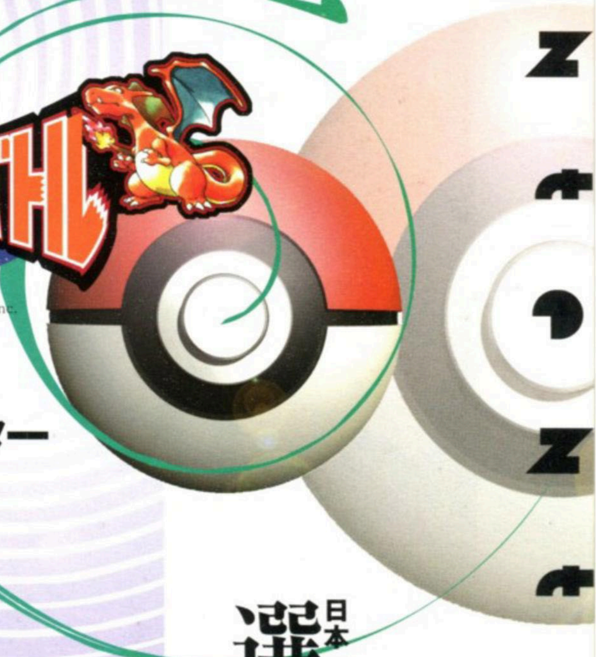
PART 3 インタビュー&座談会 …… 103

●石原恒和ポケモン総合プロデューサー インタビュー …… 104
●スペシャル座談会 〝イベントの愉しみ〟 …… 106
ポケモンカードの歴史 …… 110
参加者からの手紙と声 …… 116
プレイヤーのみなさまへ メディアファクトリー代表取締役 坂本健 …… 117
リザードンメガバトルからカメックスメガバトルへ …… 118

pokemoncard column

ポケモンカードイラストレーターギャラリー …… 18 28 32
ポケモンカードトレーナーという仕事 …… 29
幻のポケモンドラヤキ …… 38
第2回公式トーナメントを振り返る …… 102

第1回 日本一決定戦 リザードン・メガバトル
ポケットモンスター カードゲーム



公式ドキュメントブック
めざせ! ポケモンカードマスター
元宮秀介&ワンナップ編著
クリーチャーズ監修

PART 1

pocketmonsters cardgame

日本一決定戦
リザードンメガバトル

ドキュメント

日時●'98年4月26日(日)
場所●幕張メッセ展示ホール3
総来場者数●2万1500人



祭りの準備

ブース設営とリハーサル


1. 午前9時、会場設営が始まって1時間。会場になんと巨大なクレーン車が入ってきた


2. クレーン車は鉄骨製の天井を持ち上げる


3. 作業員が天井をささえる柱を手早く作る


4. 天井と柱を運んでステージの位置を決定


5. 次は照明とスピーカーを天井に吊り下げる


6. 天井に人がのぼり、手で照明をつけていく


7. 天井に吊られる灯体の数は50個以上!


8. 音響や照明のケーブルや電源を確保する

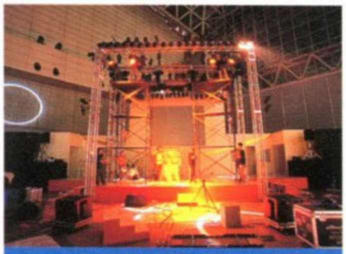

9. 照明とスピーカーのセッティングが完了


10. 天井をもう一度クレーン車で持ち上げる


11. 天井の高さを決定。ついにステージが完成


12. 次はステージの壁面にモニターを設置する


13. 大きなスクリーンが壁面にセットされた

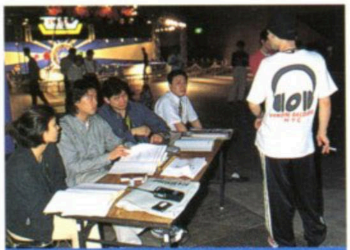

14. 会場を暗くして照明とモニターをチェック


15. これが貴重なメインステージの設計図面


16. 銀色に輝くメインステージ用の灯体。これらがステージの天井に吊り下げられたのだ

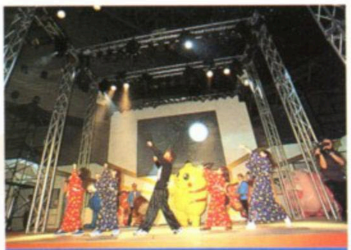
4月25日、日本一決定戦前日。午前8時30分、幕張メッセ展示ホール3。無人のホールに大型トラックと作業員が続々と集まる。日本一決定戦の会場の設営が始まるのだ。たちまち電動ドリルとハンマーの音があちこちで鳴り、ホールは工事現場さながらとなる。ベテランの作業員たちによる、手慣れた仕事でステージやコーナーが続々とできあがった。午前中には会場のほとんどの骨組みが完成。午後になると会場のライトが消され、照明と音響のテストが始まった。ポケモンの形をしたライトが会場の壁を照らし、音楽が流れる。午後6時。できたてのメインステージにイマクニ?とレイモンド、ヒロコが登場。明日のリハーサルが行われるのだ。「♪ピカチュウ、カイリュウ……」『ポケモン言えるかな?』の歌声が観客のいない会場に響きわたる。開場まであと15時間あまり。リハーサルはその日の深夜まで続けられ、会場は眠ることなく日本一決定戦当日を迎えた。

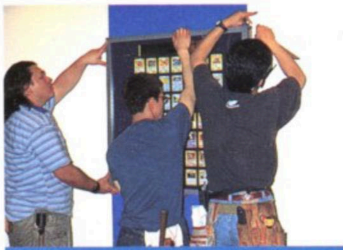
瞬く間にでき上がっていく会場
すべては日本一決定戦のために

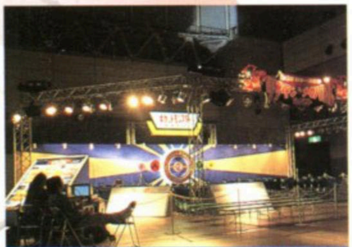

30. リハーサル前。スタッフの最終打合せ


26. タワーのてっぺんに看板は設置された!

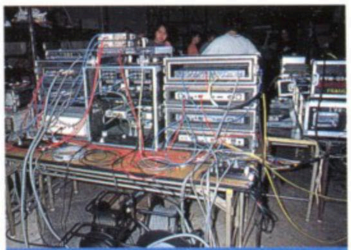

17. 会場の中央、モンスターボール広場では、ポケモンタワーの建設が始まっていた


31.「ポケモン音頭」のリハーサルも行われた

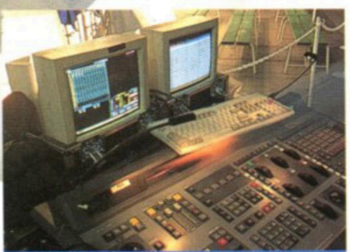

27. ポケモンカードパネルが会場の壁に貼られる


32. 完成したリザードンメガバトル予選会場


28. 午後5時。出演者が続々と会場に到着する


22. いよいよ音響の操作盤も運び込まれた!


18. ポケモンタワーによじ登って照明を設置


33. メインステージ裏は装置でぎっしりだ

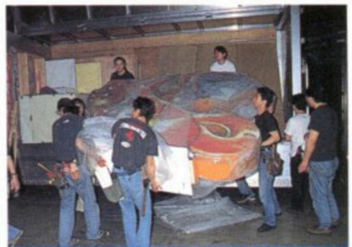

29. イマクニ?、レイモンド、ヒロコのリハーサル


23. 予選会場では看板の取りつけが行われる

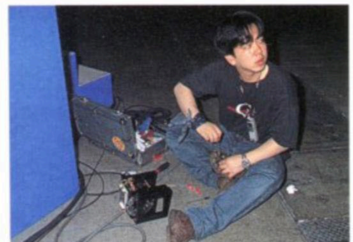

19. スタッフが照明の光の当たる方向を確認


34. 深夜午前1時すぎ。誰もいない予選会場。今は明日の選手たちの対戦を静かに待つ


24. エネルギーシンボルの風船が会場に浮かぶ


20. ポケモンタワーに巨大な看板が運ばれる


25. ポケモンタワーと巨大なリザードンの看板


21. 電球が点灯するか、照明を最終チェック



日本一決定戦の前日 対戦は始まっていた

ホテルのロビーはポケモンカードの対戦場。日本一決定戦用のデッキで対戦している選手もいた。

選手到着 興奮の予感

4月25日、午後3時45分。宿泊地の幕張プリンスホテルに日本一決定戦の出場選手がついに姿を見せた。一番乗りは中田康友選手だ。午後4時をまわると、続々と選手がホテルに到着し始めた。中田選手は、その選手たちにトレーディングをさっそく申し込む。ホテルのロビーに座ると、トレーディング開始。多くの選手たちがそれに加わり、ロビーのあちこちでポケモンカードの対戦が始まった。午後5時。選手たちは対戦の場を宿泊する部屋に移し、対戦を続行。手当たりしだいにホテルのドアをノックしては「ポケモンカードの選手の人ですか？　対戦しませんか」と対戦を誘う大胆な選手もいる。選手たちの部屋があるホテルの31階は、日本一決定戦の前哨戦会場となっていた！



受付では会場までの地図と、リザードンメガバトル専用の真っ赤なパーカーが渡された



午後4時をまわり、選手が続々と来場。受付を待つ選手に対戦を申し込む選手も現われた



ホテルに一番乗りした神戸マサラカップ優勝者の中田康友選手。大阪を朝6時に発ったそうだ

guidance

日本一決定戦リザードンメガバトル
出場への道のり

第2回公式トーナメント

1 コロコロコミックを読んで応募ハガキを送る

第2回公式トーナメントの出場者は月刊コロコロコミック'97年10月号から'98年1月号にわたって募集された。応募者が多数の場合、出場者は抽選で決定される。



コロコロコミック97年12月号

2 第2回ポケモンカード公式トーナメントに上位入賞する

大会はトーナメント戦で行われる。見事に4位までに入賞した出場者には特製トレーナーカードとチャンピオンキャップが贈られる。これが日本一決定戦への出場資格となる。

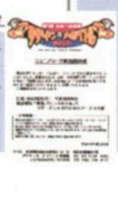
リザードンメガバトル



リザードンメガバトル出場選手ガイド

3 ポケモンカードイベント事務局から招待状が届く

第2回公式トーナメントで4位までの選手には、リザードンメガバトル出場選手ガイド、参加招待状が郵送される。選手はこれを'98年4月26日、幕張メッセに持参する。



ジュニアリーグ参加招待状

開場2時間前

開場準備

4月26日、午前7時。会場の中では早くもスタッフが準備を始めていた。メインステージへと続く、チャレンジロードには真新しい真っ赤なカーペットが敷かれ、それぞれのテーブルの上には、鮮やかな緑のプレイマットが広げられる。メインステージでは、数多くのスタッフが照明とサウンドの最終確認を始めていた。音響のスタッフがマイクチェックをし、スピーカーから『めざせポケモンマスター』のイントロが流れだした。その音楽の中、会場中央のフリースペースでは、ポケモンカードトレーナーが集合し、黄色のスタッフジャンパーに着替えていた。これから始まる大会への緊張感からか、スタッフ全員の顔がキリリと引き締まって見える。いよいよ開場1時間前。準備は完了だ。会場にはまだ観客も選手も入っていないにもかかわらず、熱気が立ちこめていた。



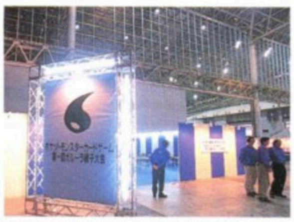












会場のそれぞれのブースには、エネルギーシンボルがマークとして使われている。

スタッフの緊張感が会場に立ち込める

リザードン メガバトル 会場マップ

●メディアファクトリー
日本一決定戦当日に発売となったポケモンジムシリーズ第1弾「ニビシティジム タケシ」「ハナダシティジム カスミ」を販売。また、ポケモンカードの全シリーズ、各種アイテムを販売した。

●対戦コーナー
5人勝ち抜きチャレンジコーナー
来場者同士が勝ち抜き戦でポケモンカードの対戦をするコーナー。2人または5人勝ち抜くと賞品をもらうことができる。

ポケモンカード四天王に挑戦!!
4人の最強のポケモンカードトレーナーが挑戦者を待つコーナー。この4人に勝つと、豪華賞品を手にすることができる。

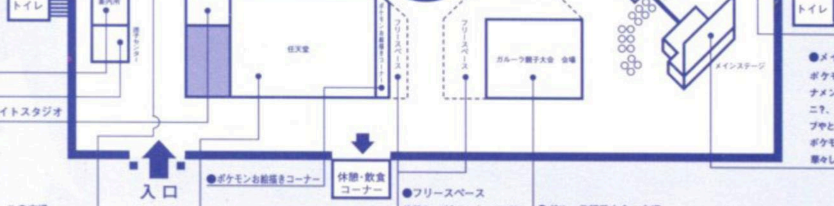
●ティーチングコーナー
ポケモンカードトレーナーが、ポケモンカードの遊び方、ルールをわかりやすく初心者に教えてくれるコーナー。

●イラストレーターギャラリー
ポケモンカードのイラストを描いているイラストレーターに焦点をあてたコーナー。イラストレーターの全員の顔写真とイラストを紹介。

●第1回ポケットモンスターカードゲーム 日本一決定戦 リザードン メガバトル会場
日本一決定戦のチャレンジリーグ、予選がこの会場で行われた。デッキチェックをするための選手受付もここにある。

●フリートレーディングスペース
カードのトレーディング希望の人が集まり、自由にポケモンカードをトレードするための広場。

●メインステージ
ポケモンカード日本一決定戦の決勝トーナメントが開催されるステージ。イマクニ?、レイモンド&ヒロコ、松本梨香のライブやとりかえっこブリーズダンスコンテスト、ポケモン音頭などのパフォーマンスがここで華々しく行われた。



●案内所

●迷子センター

●ポケモンアワー サテライトスタジオ

●ポケモンお絵描きコーナー

●モンスターボールの広場
日本一決定戦の優勝者だけが手にすることができるリザードントロフィーや賞品が飾られている。

●任天堂
任天堂ポケモンリーグ東京特別大会を実施。ゲームボーイの『ポケットモンスター』による通信対戦で最強のポケモントレーナーを決定した。

●フリースペース
休憩や、ポケモンカードの対戦をするためにテーブルが設けられたコーナー。ポケモンカードトレーナーによるティーチングはここでも行われた。

●ガルーラ親子大会 会場
親子でペアを組んで行うガルーラルール。そのルールを使ってプレイする第1回ガルーラ親子大会が開催された。

ポケモンワールド'98



開場

012

2万1500人の行進



開場が待ちきれずに、道ばたでポケモンカードの対戦を始める人が続出。プレイマット持参の人もいた

開場寸前、あちこちでは早くも対戦が行われている！

4月26日、午前7時20分。会場となる幕張メッセの入場口の前には、開場の2時間前にもかかわらず、すでに500人もの行列ができていた。

行列の先頭にいるのは午前6時30分に会場に到着したというお父さんと小学4年生の男の子の親子連れ。その後ろにいるのは、はるばる名古屋からこの日のために上京してきたカップルだ。みんなそれぞれが自慢のデッキを手にして、ポケモンの話に夢中。道ばたで中学生のグループがポケモンカードの対戦を始め、行列の中では初対面の人同士がトレーディングをする、という光景があちこちで見られた。

開場時間の午前9時には、来場者の熱気は最高潮。スタッフが入場ゲートを開けると、来場者はせきを切ったように走りだした。彼らの最初の目当ては販売コーナーとポケモンカードトレーナーとの対戦コーナー。「走らないでください」というスタッフの声と、来場者の声が入り交じり、会場は早くもちょっとしたパニック状態となった。



「ポケモンワールド'98」のパンフレットをみている家族。どこのコーナーに行くか相談をしている様子





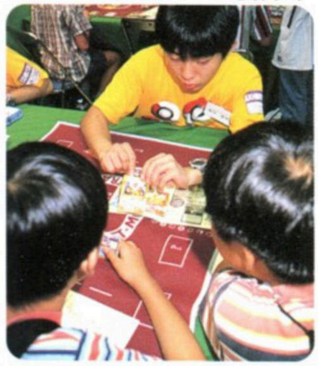
さあ、いよいよ開場だ。行列が一気に動き始める。
次から次へとやってくる来場者のために列が途切れることはない



時間が9時になり、スタッフがゲートを開けると、うずうずしていた来場者はお目当てのコーナー目指して一目散に走り出した



ルールの解釈に悩んだプレイヤーが大きな声でカードトレーナーを呼び、質問を投げかける。誰もがカードの知識を増やすことに意欲的だ。





「デッキ診断」のポイントは、楽しく遊べるデッキを作ること。テクニックの伝授は、あくまでヒント程度。





ティーチングを受けるもよし 対戦に熱中するもよし ここはポケモンカードファンが集う遊び場だ

ポケモンカードファンの祭典

ALL pokemon booths

メディアファクトリーブース

ティーチングコーナー

「ティーチングコーナー」は、初心者を対象にポケモンカードの遊び方をくわしく解説するコーナーだ。第1回目のイベントから継続され、誰でも気楽に参加できるコーナーとして、常に高い人気を集めている。

この日も開場からわずか40分程度が過ぎた段階で、早くも長蛇の列ができあがった。ゆっくりと消化されていく列に待ちきれずに、持参したプレイマットを敷いて対戦を始めるプレイヤーたちもいる。

ここに流れているのは、自由な空気だ。真剣にティーチングを受けるもよし、気ままに対戦をするもよし。テーブルからテーブルへと渡り歩いて、対戦相手を探しているプレイヤーもいる。床を見ればトレーディングをしているファンたちでいっぱいだ。「トレーナー対戦コーナー」と同様に、ティーチングコーナーから終日人だかりが消えることはなかった。

また、この日の企画として、「デッキ診断」コーナーが設けられた。自作のデッキを持参すれば、カードトレーナーによって、デッキの改良ポイントを伝授されるという内容に、デッキを強く磨くことに余念がない男の子たちの注目が集まった。

5人勝ち抜きチャレンジコーナー





「勝った!」と歓声を上げるファンもいた。対戦に勝利すると、そのしるしに参加証にスタンプが押されていた。

対戦コーナー

腕自慢のカードプレイヤーが集まる場所。それが対戦コーナーだ。通常のイベントでは、カードトレーナーがファンたちと対戦し、勝てばエネルギーシンボルをあしらったバッジがプレゼントされるというスタイルだった。しかし、この日は特別な企画が立てられていた。ファンたちに自由に対戦してもらい、2人の対戦相手に勝った時点で『拡張シート第1弾』を1枚プレゼント。さらに5人のプレイヤーに勝てば『ポケモンジム』ほか豪華賞品がプレゼントされた。カードトレーナーは基本的には勝敗のチェックやルールへの質問に答えるだけ。そう、すべてがファンたちに開放された遊び場だったのだ。



君はもう3回負けたから列に並びなおして再挑戦。次はアイツがチャレンジする番だというふうに、プレイヤーたちの間でルールがしだいに生まれていった。

最強のデッキを操るポケモンカードトレーナーと対戦できる「四天王に挑戦コーナー!」は最高の人気ぶり。午前11時を過ぎる頃には、整理券の配布はすべて完了。しかし、参加希望者はあとを絶たず、ポケモンカードトレーナーたちは「午後の整理券はないの?」と続々と詰めかけるファンたちの対応に追われている。今日はひとりで遊びにきたという小学3年生の男の子は、引き締まった表情で、四天王と対戦をしている。小学6年生の男の子が対戦しているわきでは、連れ添ってきた仲間たちがそのまわりを囲み、「がんばれっ!」とにぎやかに声援を送っていた。

四天王に挑戦!!

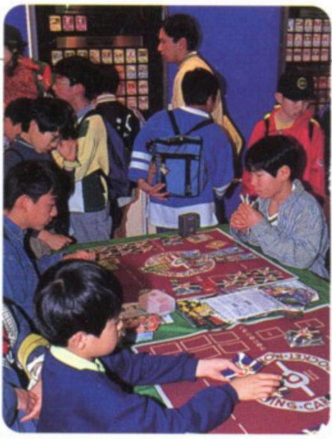


四天王たちが使用するデッキの強さは、最強クラス。それでも勝利するプレイヤーたちがあとを絶たないのだからスゴイ。



ズラリと並んだ四天王たち。ロケット団の「R」をあしらったTシャツがユニフォームだ。

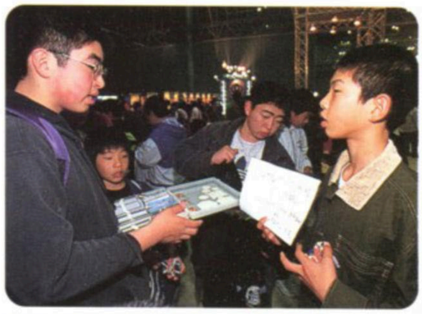
今日1日でいったいどれくらいの数のトレーディングが成立したのだろう？



試合を終えた選手もやってきた。チャンピオンキャップが目じるしとなって大勢の子どもたちに囲まれる。

フリートレーディングスペース

来場者同士のカードのトレーディングを目的にしたフリースペース。「誰か交換してぇ」とある男の子が声を上げれば、今度はどこからか負けじと「リザードンをトレーディングに出してくれる人いませんか！」という大声が聞こえてくる。誰もが目当てのカードをゲットするために必死なのだ。しかも、この日は大勢のポケモンカードファンが集まってくる絶好の機会だ。ライチュウとフシギバナ。キュウコンと「エネルギー回収」。かっこいいポリゴンとフシギバナ……。4月26日の幕張メッセ。今日1日でいったい、どれくらいの数のトレーディングが成立したのだろう？









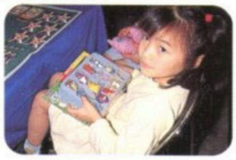


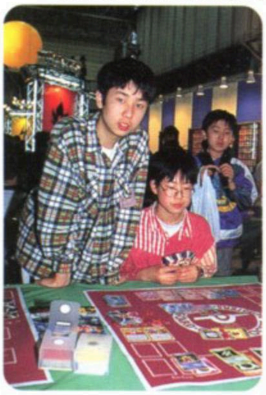
ありったけのカードをケースにギッシリ詰めこんで、会場に持ってきた。そんな気合十分のファンが多い。



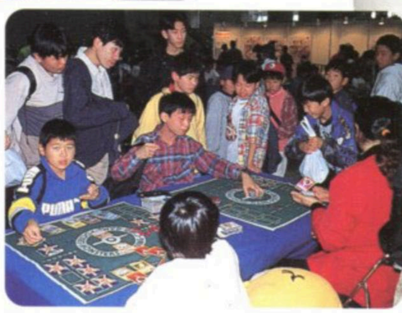
シャイな子どもに代わって、自らがトレーディングをするお父さんお母さんもたくさんいた。













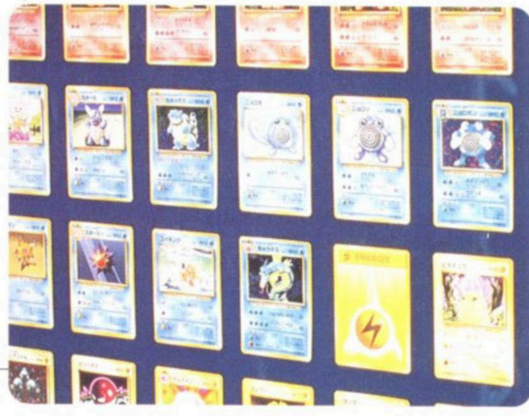


「ポケモンカード博物館」をバックにして、記念撮影をする家族も多かった。

ポケモンカード博物館

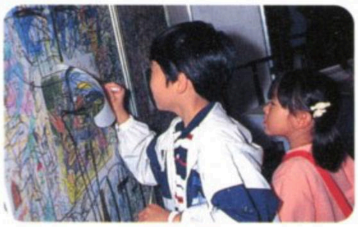
ポケモンカードの美しさをクローズアップした新しい試み。『第1弾』から『ロケット団』、そして最新の『ポケモンジム』シリーズまで、合計500枚にせまるカードがすべて展示されている。ガラスケースに収められたカードたちは、ふだんとは異なった表情を見せている。その嬉しくなるような意外さに、しばし歩みを止めて見入る人たちがたくさんいる。中でもひときわ注目度が高いのは、やっぱりスペシャルカード。「これ持ってる！　あれ欲しい！」と自分のコレクションを友だちに自慢しながら、いつの間にか鼻先がガラスにスレスレになるほどに近づいているファンもいた。





ポケモンお絵描きコーナー





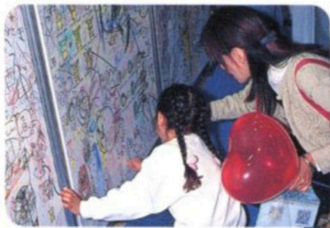
ポケモンクレヨンを使用したらくがきコーナー。キャンバスに見たてた白い壁に、好きなだけポケモンを描くことができる。右を見れば、絵描き歌『ポケモン描けるかな?』の通りに描かれたピカチュウがいる。左を見れば、自己流で描かれたニャースがいる。その楽しげな筆致から、ポケモンが本当に好きなんだという気持ちがひしひしと伝わってくる。白い壁がらくがきでいっぱいになると、待機しているスタッフがその上に紙を貼って、新たなキャンパスを作る。だけど、子どもたちの描くスピードのあまりの速さに、その作業はなかなか追いつかないほどだった。





楽しげな筆致から「ポケモンが好き!」という気持ちが伝わってくる

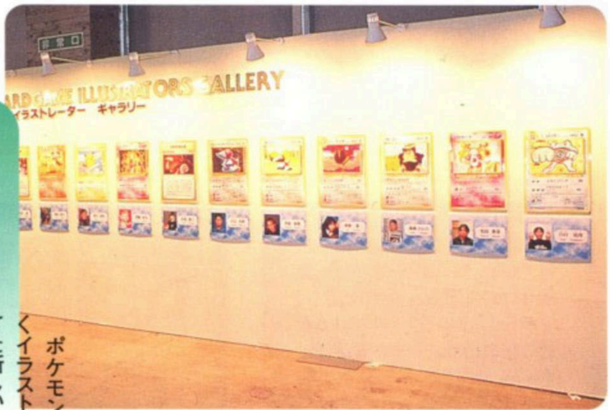






小さな女の子がお母さんに連れられて、らくがきを楽しんでいる。その姿が何ともほほ笑ましい。お父さんは隣の休憩所でひと休み。

描かれたポケモンは、ダントツにピカチュウが多かった。さすがというべきか。



ポケモンカードイラストレーターギャラリー

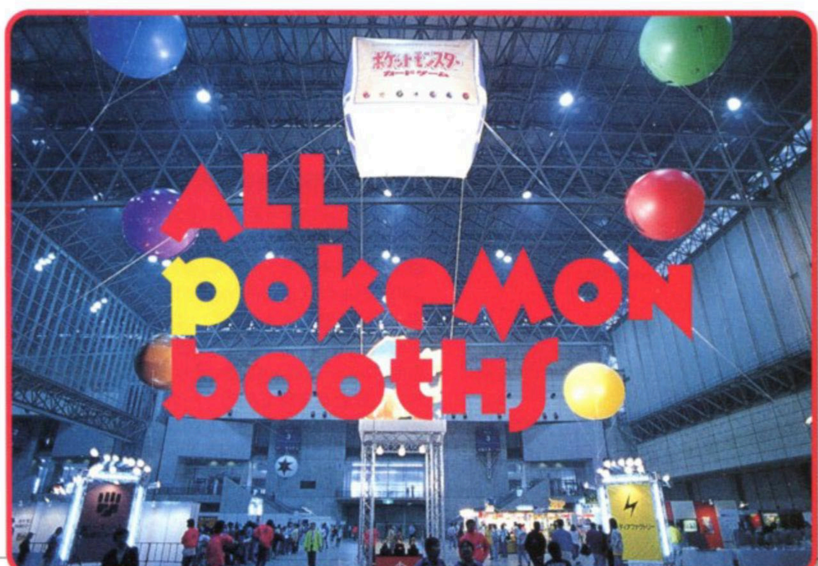
ポケモンカードのイラストを描くイラストレーターにスポットを当てた新しい展示。

イラストレーターひとりにつき代表的な作品と顔写真が展示され、その数は総勢19人にのぼった。ポケモンカードのイラストレーターにはそれぞれにファンがいて、お気に入りのイラストレーターのカードだけを集めたデッキを作って楽しんでいるファンも多い。

イラストレーターの素顔を興味深そうに眺めたり、お気に入りのイラストレーターのパネルをバックに記念撮影をしたり。ファンたちはそれぞれの方法で、この展示を楽しんでいた。



この展示の模様は本書のコラム「ポケモンカードイラストレーターギャラリー」で誌上再現している。



ポケモンカード イラストレーターギャラリー Vol.1

pocketmonsters cardgame illustrators

杉森 建
Sugimori Ken



①福岡県②'66年1月27日③最近は中国気功などのマッサージに行くことが楽しみです④ゲームボーイ『ポケットモンスター』のデザインとグラフィック。公式イラスト⑤ニドキング、ギャラドスほか⑥「にせオーキドの逆襲」⑦Gペンで線を描いて『Photoshop』やカラーインクで着色します⑧ポケモンは、公式イラストとは違う表情やポーズで、トレーナーカードは能力をうまく表現するようにしています⑨カラカラ。ひとりでいるのが好きなんですよ(笑)



「にせオーキドの逆襲」（ロケット団）

有田満弘
Arita Mitsuhiro



①愛知県②'70年1月12日③インターネット④ポケモンえほん『サイホーンとちきゅうのへそ』ほか⑤モンジャラ。なぞめいた雰囲気が好き⑥『第1弾』ピカチュウ。この方向でいけるという手応えを感じられた作品です⑦ウインドウズの『Painter』⑧ポケモンらしい温かみを出す。奥行きのある世界を作りたいですね⑨モンジャラ
（有田さんのホームページ
http://menber.nifty.ne.jp/MIT）



ピカチュウ（第1弾）

杵渕敬二
Kinebuchi Keiji



①東京都②'56年2月14日③ラジコン飛行機④CG、ゲーム制作⑤プリン、ラプラス⑥『化石の秘密』の「なにかの化石」。化石の古い感じがうまく出せたと思います⑦3Dモデリングには『Light wave3D』、『Organica』を、2Dペイント・レタッチには『Photoshop』を使っています⑧描いている絵を大好きになるように心がけています。そうすればみんなもその絵が好きになってくれるから⑨ゲンガー。怪しくて、なまいきで、さびしがりやだから



「なにかの化石」（化石の秘密）

姫野かげまる
Himeno Kagemaru



①神奈川県②7月24日③セーラーカラーの服集め④マンガ『ポケモンカードになったワケ』、ポケモンえほん『おばけをみちゃったヒトカゲくん』ほか⑤コダック、ルージュラ、マンキー⑥『ロケット団』のミニリュウ。マンガではじめてこのカードのストーリーを描いたので⑦色鉛筆はイーグルカラー、エアブラシはエアロフラッシュを使っています⑧イメージをくずさないようにと思っています⑨コダック。いつも悩みをかかえている自分の姿が似ているので(笑)



ミニリュウ（ロケット団）

今国智章
Imakuni Tomoaki



①東京都②'70年3月16日③水泳でしょ、やっぱり。すっげー気持ちいいんだもん④特になし、マザーさんという1コママンガをどこかで連載しているかも⑤サイホーン。ひびきがいい⑥『第1弾』のポリゴン。うまくいったから⑦ウィンドウズの『Imagine』という3DCGソフト⑧ひとめでポリゴンだとわかるように描きました⑨んー、黒くて、耳があって、うたって、おどって、かわいらしいポケモンっていなかったっけ?



ポリゴン（第1弾）

伊藤紅丸
Itoh Benimaru



①東京都②'50年クリスマス③仕事(おもしろいから)④『ポケモンスタジアム』などのテレビゲーム、ポケモンえほん『イワークのトンネルめぐり』ほか⑤ウィンディ⑥おまけカードのミュウツー⑦CGは『Imagine』、『Photoshop』ほかを。ペンはオスミロイド、彩色にはコピックやルマ・カラーインクを使っています⑧ポケモンの世界観をこわさないこと。自分の世界も出すこと⑨ニャース(うるさいから)、ルージュラ(異様だから)

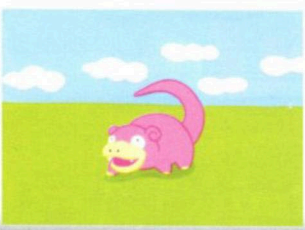


ミュウツー（月刊コロコロコミックふろくカード）

田中未樹
Tanaka Miki

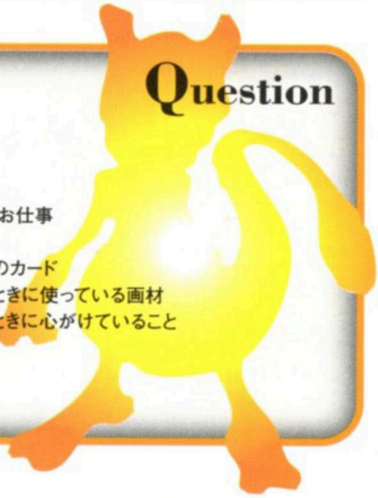


①東京都②'71年9月22日③旅行先で犬とその飼い主を写真で撮ること④ポケモンえほん『ヤドンのおおあくび』ほか⑤カラカラ。唯一(?)哀愁がただよっていて、ジ〜ンとするから⑥『化石の秘密』のヤドン。一番最初に描いたし、性格に親近感を持てる⑦ターナーのガッシュという不透明水彩絵の具、ラファエルの筆、MO紙を使っています⑧色をキレイに!⑨コダック。頭痛持ちだから



ヤドン（化石の秘密）

Question



① 出身地
② 生年月日
③ 趣味
④ ポケモンカードのイラスト以外のお仕事
⑤ お気に入りのポケモン
⑥ 自分で描いた中で、お気に入りのカード
⑦ ポケモンカードのイラストを描くときに使っている画材
⑧ ポケモンカードのイラストを描くときに心がけていること
⑨ 自分をポケモンにたとえると?

ステージイベント

松本梨香「」



演奏曲

『めざせポケモンマスター』『おやすみ 僕のピカチュウ』以上2曲とも／歌 松本梨香／作詞 戸田昭吾／作曲 たなかひろかず／『ポケットモンスター』CDシングルに収録／ピカチュウレコード
『From me to you』
歌 松本梨香／作詞 松本梨香
作曲 坂上正俊／ソニーレコード

午前10時頃、メインステージ前の観客席はすでに満員で、ステージ周辺の通路まで人で埋め尽くされていた。

お父さんに肩車をせがむ子ども、カメラをかまえるお母さん。誰もが開演を首を長くして待っている。

「ポケモンゲットだぜ！」のかけ声と同時に松本梨香さんが登場し、観衆のボルテージも一気に高まった。

梨香さんは、第2回公式トーナメント大会すべての会場でライブを行ってきた。そのファイナルとなるステージのためか、歌声にもいっそう気合がこもっている。

「みんな一緒に！」という梨香さんのかけ声にあわせ、観客も一緒になって歌いだす。

続く2曲目「おやすみ 僕のピカチュウ」を歌い終わり、梨香さんが観客に向かって語りはじめる。

「『めざせポケモンマスター』をみんなが一緒に歌ってくれる。そのパワーが私のエネルギーになるんです！」

ステージと観客がひとつになり新しいパワーを生み出す





Profile

松本梨香

本名 松本梨香（まつもと りか）
出身地 神奈川県横浜市／血液型 O型／身長 160cm 体重 48kg／特技 日本舞踊、ヤリ投げ、スキー2級／趣味 旅行、犬グッズ集め
●アニメ『ポケットモンスター』のサトシ役、歌手、俳優、ラジオのパーソナリティとしても活躍中。

ポケモン言えるかな？



破天荒なアクションで、ステージはもちろん観客席までかけまわるイマクニ？とレイモンド。子どもたちはポケモンの名前を一緒に大合唱。歌の最後、ミュウの名前を呼ぶとき、会場はひとつになった。









Profile

イマクニ？

生年月日 '70年3月16日／出身 東京都マチダ市／職業 シンガー／血液型 AB型
好きなもの ニワトリとかの卵／好きな言葉 まあいいんじゃないですかねえ？／尊敬する人物 謎の男 ドメスク・ジャンボーヤ／趣味 絵を描くこと／将来の夢 穴の中で歌うこと●1997年正月、波止場でサングラスをかけた男に肩をたたかれ、振り向いたのをきっかけに歌手デビューを果たす。

レイモンド

本名 レイモンド ジョンソン(RAYMOND JOHNSON)／生年月日 12月28日／出身 アメリカ合衆国 ボストン／血液型 O型
身長 184cm ／体重 77kg
●クラシックバレエからジャズダンスまであらゆるダンスを学ぶ。現在テレビ東京系列で「おはスタ」(月曜～金曜 朝6:45～7:25)に出演中。

ヒロコ

本名 大橋ひろこ
●全国を縦断した第2回公式トーナメントでは司会役も務めていた。『ポケモン言えるかな？』では、コーラスとナレーションを担当している。

演奏曲

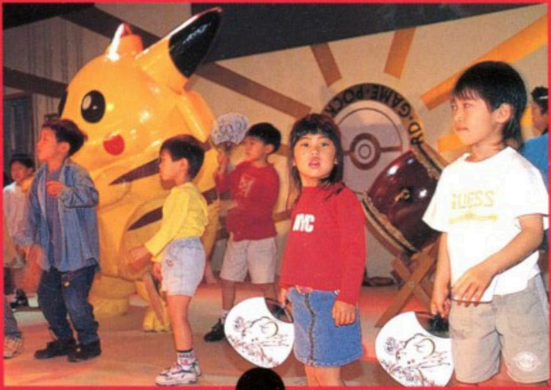
演奏曲『ポケモン言えるかな？』
歌 イマクニ？
作詞 戸田昭吾／作曲 たなかひろかず／『ポケットモンスター』CDシングルに収録／ピカチュウレコード

みんなでおどろう！ポケモン音頭

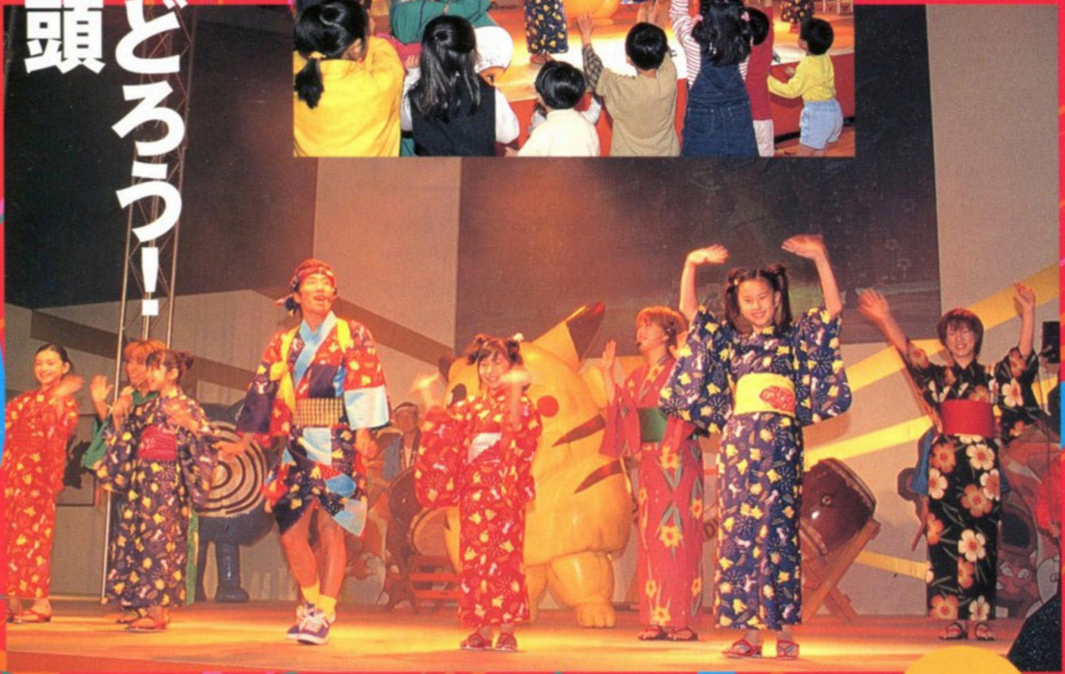
この日、初のお目見えの『ポケモン音頭』ライブ。ステージでは、西沢モト&音頭ガールズによる踊り方のレクチャーが行われた。ピカチュウ、ラッキー、ニョロゾの着ぐるみも登場し、夏を先取りしたムードの中で観客も一緒に踊り出した。

演奏曲

演奏曲 『ポケモン音頭』
歌 ガルーラ小林／作詞 戸田昭吾／作曲 たなかひろかず／CDシングル『とりかえっこプリーズ』に収録／ピカチュウレコード







Profile

西沢モト

生年月日'63年12月25日／出身 ハワイ／特技 ADI認定エアロビクスインストラクター、SAJ公認スキー正指導員、ほか

●テンションが高く、臨場感あるスポーツDJとしてテレビなどで活躍中。『ポケモン音頭』の振りつけを子供たちに教えている。

ポケモン音頭ガールズ

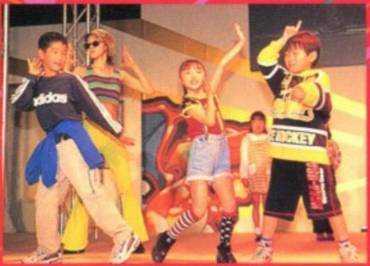
秋谷希／生年月日'85年2月6日
出身 愛知県
稲坂亜里沙／生年月日'87年7月7日
出身 千葉県
内田莉紗／生年月日'89年2月12日
出身 神奈川県
村本安奈／生年月日'87年9月11日
出身 神奈川県
●『ポケモン音頭』の踊りで西沢モトをバックアップするガールダンサー。

とりかえっこプリーズダンスコンテスト

テレビCMで流れる独特のダンス。あの『とりかえっこプリーズ』の全振りつけがついに公開された。参加者もKAORUCO先生にレクチャーを受けて踊りにチャレンジ。最後にはテレビCMさながらのダンス&トレーディングが行われ、ピカチュウとヒトカゲのトレーディングが成立した。

演奏曲

演奏曲『とりかえっこプリーズ』
歌 スズキサン／作詞 戸田昭吾
作曲 たなかひろかず／CDシングル『とりかえっこプリーズ』に収録／ピカチュウレコード







Profile

KAORUCO

本名 五十嵐薫子（いがらし かおるこ）
生年月日'57年4月23日／身長 168cm
●多数の日本のアーティストや、TVCMの振りつけを担当。その数は300を超える。そのほか舞台、TV、ビデオでも活躍中。『とりかえっこプリーズ』ではキレのある独特のダンスの振りつけを行っている。







ほほ笑み、苦笑、照れ笑い

第1回ガルーラ親子大会







親子2人のチームプレイ

親子でポケモンカードを楽しんでいる。そんな数多くのプレイヤーの要望に応えて生み出されたのが「ガルーラルール」だ。親と子の2人がチームを組んで対戦するこの新しい遊び方を使って「第1回ガルーラ親子大会」が開催された。

午前11時47分、「ガルーラ親子大会」コーナーに38組の親子チームが集まった。くりかえし、くりかえしコイントスを練習するお母さん。パートナーのお父さんに一生懸命ルールを説明する子ども。デッキの中身を一枚一枚確認する親子。どのチームも、大会を前に落ち着かない様子だ。だけどそれ以上に親子でポケモンカードの大会に参加する楽しさを味わっているようだ。

午後12時39分、大会がスタート。試合は対戦相手との握手から始まる。見知らぬ親子との慣れない握手に、親たちの表情に照れ笑いが浮かぶ。

しばらくすると会場内のあちらこちらでは、声に出さない会話が盛んに行われている。「ガルーラルール」では、試合中にパートナーにアドバイスをしてはいけない。そのため選手たちは、身振り手振りを使って会話をする。パートナーがピンチの時はお互いに顔を見つめあって苦笑し、チャンスの時には自然と微笑みあう。「ガルーラ親子大会」でしか味わうことのできない楽しさがそこには生まれていた。

第1回 ガルーラ 親子大会

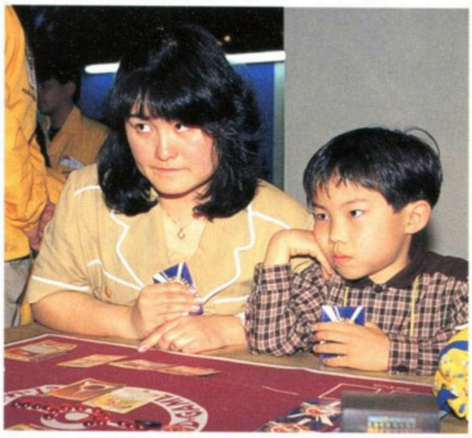

SKATES
27



決勝



決勝戦まで息のピッタリあったプレイで、対戦相手に勝ち進んできた梶原良一さん＆泰仁くんの親子チーム。お互いの手札を見ながら作戦を練る。



梶原親子チームの動向をじっと見つめる藤本英子さん＆木幡幸貴くんの叔母、甥チーム。準決勝では、幸貴くんのガルーラの「れんぞくパンチ」が決まり、決勝戦の切符を手に入れた。

「第1回ガルーラ親子大会」の試合形式は、前半の4回戦と、後半の決勝トーナメントに分けられる。まず全チームが4回対戦を行う。そして得た勝ち点の合計によって上位8チームを選出する。選ばれた8チームは、トーナメント戦を行って、優勝チームを決定する。

午後2時59分、「ガルーラ親子大会」決勝戦が始まった。試合は、藤本英子さん＆木幡幸貴くんの叔母、甥チームと梶原良一さん＆泰仁くんの親子チームで行われた。さすがに7回もの対戦を勝ち抜いてきただけあって、カードをさばくテンポがいい。

「甥に教えられて、去年の夏休みには200回ぐらい対戦しました」

と藤本栄子さん。

「いつも息子のデッキを負かすようなデッキを作ろうと考えています」

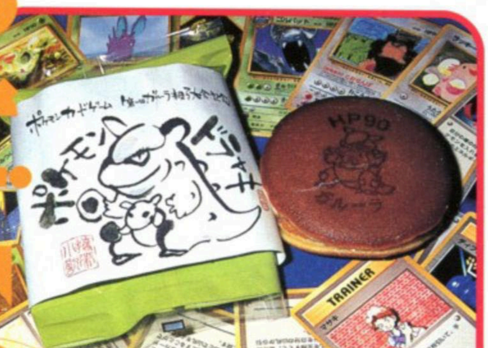
と梶原良一さん。

対戦テーブルの周囲には決勝戦まで残れなかった親たちが、他のコーナーにも行かずに集まってくる。勝ち進んだチームがどんな対戦をするかということに、興味津々のようだ。

結果は、梶原親子チームの優勝となった。参加したすべての親は、親子対戦の面白さに満足そうな顔をしている。お互いの住所を交換しあう親も多く見られ、なかなか知り合うことができない親同士のポケモンカード仲間の輪が広がっていった。

Prize

第１回
ガルーラ親子大会
の景品



参加賞
ポケモンドラヤキ

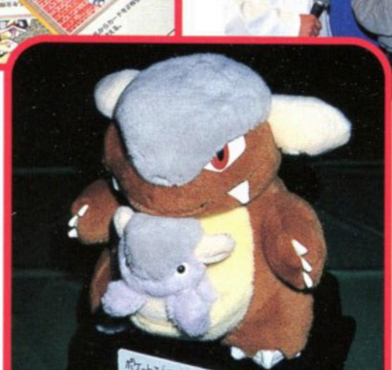
特製の「ポケモンドラヤキ」。参加者賞として全員に配られた。中のあんこは、生クリームあん。



優勝した梶原親子チームには、Dr.オーヤマから特製ガルーラぬいぐるみトロフィーが手渡された。

1位
ガルーラぬいぐるみトロフィー

大山功一さんデザインによる特製トロフィー。この大会の優勝者のために特別に発注されたもので、すべてが手作り。台座にぬい付けられたプレートまでが手ぬいでできている。



「日頃の特訓の成果が出ました」（梶原良一さん）

「めっちゃうれしい！」（梶原泰仁くん）

ガルーラルール解説





「タッチ交代!」カード

あなたはあなたのパートナーとタッチ交代する。相手プレイヤーは、相手プレイヤーのパートナーとタッチ交代する。

1 チームを組む

ガルーラルールの対戦では、親と子の2人がチームとなります。チームごと1つのデッキを使うことになります。そして、チーム対チームの対戦となります。チームとなる2人は親子でなくてもかまいません。お友だちどうしでも、兄弟姉妹でもOKです。ただし、親子でない場合、どちらが親で、どちらが子どもになるかを決めます。子どもとなったほうが最初の対戦プレイヤーになります。親となったプレイヤーは、タッチ交代のタイミングまで待機していることになります。

2 デッキを用意する

ガルーラルールで使うデッキは、64枚のデッキです。そのうちの4枚は、トレーナーカード「タッチ交代!」でなければいけません。チームで1つのデッキを使うことになるので、どんなデッキなのか、どんな風にカードを使うか、チームを組んだ2人はお互いに知っておいたほうがいいでしょう。

3 対戦の準備をする

1

手札となるカードをひく前に、対戦プレイヤー(子)は自分のチームのデッキを良く切ってから、相手チームの対戦プレイヤー(子)にも切ってもらいます。それが済んだら、まず対戦プレイヤー(子)がデッキからカードを5枚ひいて手札にして、次に待機プレイヤー(親)が5枚ひいて手札にします。

2

チーム内の2人の手札に「たねポケモン」のカードがないときは、2回まで、手札の取り直しができます。取り直しは2人ともおこないます。1人だけが取り直しをすることはありません。

3

手札が決まったら、サイドカードを6枚セットします。

4

最初のポケモンを場に出すときは、チーム内のどちらの手札から出してもかまいません。対戦プレイヤー(子)の手札からバトル場のポケモンを出して、待機プレイヤー(親)の手札から控えポケモンを出してもかまいません。

5

最初に場に出すことのできるポケモンの数は、対戦ポケモン1匹と、控えポケモン1匹だけです。(控えポケモンは、出さなくてもかまいません)。



4 対戦をする

直接の対戦は、1対1で、対戦プレイヤーどうしが行います。待機しているプレイヤーは、それを見ていることしかできません。待機プレイヤーが、対戦プレイヤーにアドバイスなどをしてもいけません。(どんなときでも、待機プレイヤーが対戦に直接かかわることはありません。待機プレイヤーにできるのは、対戦プレイヤーと手札を見せ合うことだけです)

タッチ交代のルール



●どちらかのポケモンが1匹「きぜつ」するごとに、両チームの対戦プレイヤーは、それぞれ、自分のチームの待機プレイヤーと「タッチ交代」します。(タッチ交代は、必ず、両方のチームが同時におこないます。片方のチームだけがタッチ交代することはありません)。タッチ交代とは、それまで対戦プレイヤーだった人が待機プレイヤーとなり、それまで待機プレイヤーだった人が対戦プレイヤーになることをいいます。なので、対戦する組み合わせ(親対親、子対子)は変わりません。

●相手のポケモンが「きぜつ」したとき、サイドカードを取るのはチーム内のどちらのプレイヤーでもかまいません。また、自分のポケモンが「きぜつ」して、ベンチからバトル場にポケモンを移動させるとき、移動するポケモンを選ぶのはチーム内のどちらのプレイヤーでもかまいません。

●一度に2匹以上のポケモンが「きぜつ」したとき(対戦ポケモンとベンチのポケモン)でも、タッチ交代は1回しかおこないません。

●トレーナーカード「タッチ交代!」を使ったときも、タッチ交代がおこなわれます。

Part 1 026 日本一決定戦リザードンメガバトルドキュメント

床上のカードプレイ

battle

会場の中央に設けられたフリースペース。来場者はここで自由にポケモンカードで対戦ができるようになっていた。しかし、会場に訪れた大勢のポケモンカードファンは、そのスペースでは収まりきらなかった！　開場と同時に、通路や販売コーナーの裏側がファンの対戦場となり、対戦を楽しむ声が響きはじめたのだ。仲間同士で対戦しているグループもいれば、その場で知り合った人に対戦を申し込む人もいる。正午を過ぎると、会場はさらに混雑を極め、会場の床のスミからスミまでをポケモンカードファンたちが埋め尽くしてしまった。

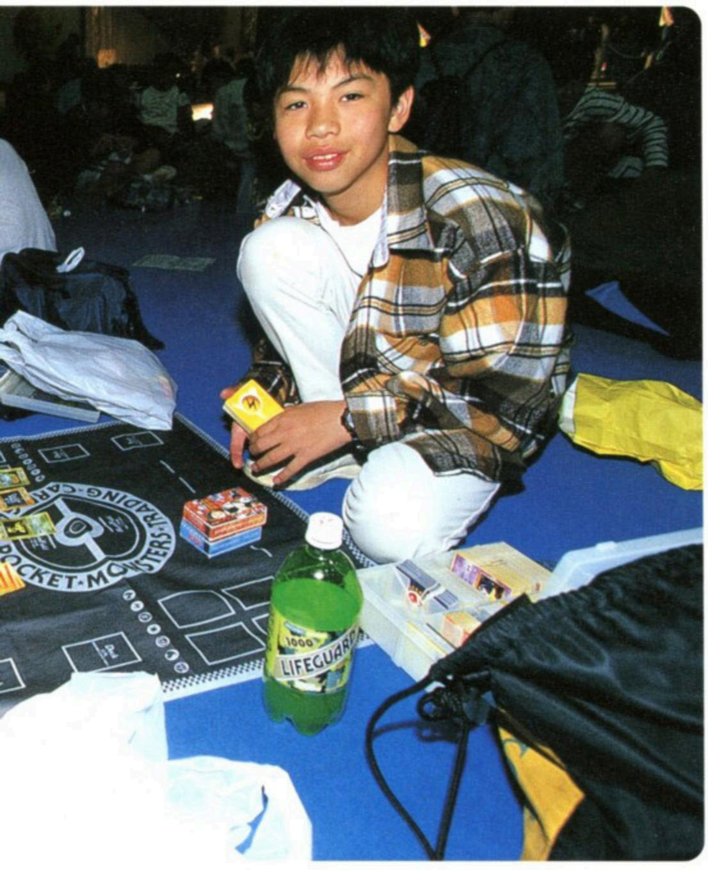
対戦ばかりでなく、カードの交換を申し込むファンも多い。幻の「ロケット団参上！」をリザードンとカメックスのカードと交換で手に入れた超ラッキーな中学生。勇気を振り絞って男の子にカードの交換を申し込む女の子。中学生とトレーディングして、キラカードを6枚もゲットした小学生。

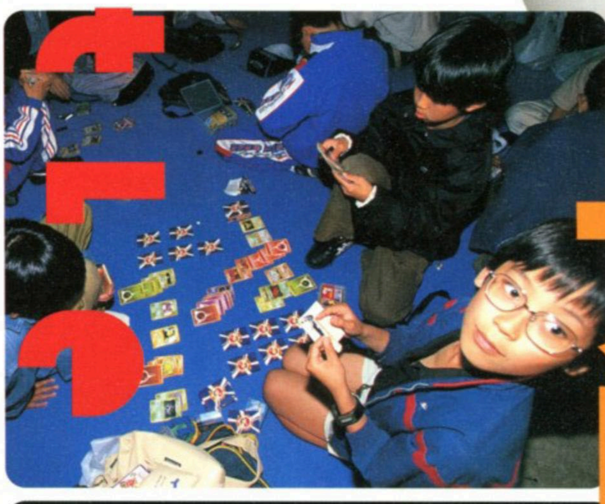
日本一決定戦会場の床の上では、次々と新しいポケモンカード仲間が生まれていた。















trading

対戦や交換とともに
ポケモンカード仲間までゲットできる!











COLUMN POKEMON CARD

ポケモンカード イラストレーターギャラリー Vol.2

pocketmonsters cardgame illustrators



青木俊直
Aoki Toshinao

①東京都②'60年8月18日③スノーボード④テレビのCG制作。ポケモンえほん『ピカチュウげんきでちゅう』ほか⑤ピカチュウ、コダック、ヤドン⑥月刊コロコロコミックふろくカードのなみのりピカチュウ⑦作品制作はコンピュータ上で行っています。マッキントッシュの『Illustrator』を使っています⑧できるだけシンプルな絵で、かつ、オリジナルのキャラクターデザインのよさが出るように⑨カビゴンかな。よく寝るから(笑)



なみのりピカチュウ（コロコロコミック・ふろくカード）



杉山宏真
Sugiyama Hiromichi

①茨城県②'72年1月16日③部屋をうす明るくして寝る。部屋をほの明るくしてゲームをする。理由は外がまぶしいから④朝から晩までCG⑤ニャース⑥ニンテンドウ64「Wゲットだぜ!キャンペーン」のかっこいいポリゴン⑦CGは『Imagine』という3DCGソフトを、鉛筆はステッドラーBを使っています⑧頂点……かな⑨ゼニガメ。理由はグレたいから。



かっこいいポリゴン（Wゲットだぜ!キャンペーンカード）



西田敦子
Nishida Atsuko

①東京都②'73年2月8日③競馬をきっかけに、馬が好きになりました④ゲームボーイ『ポケットモンスター』のデザインとグラフィック⑤マダツボミ、ライチュウ、ピカチュウ、リザードン、ハクリュウ、そしてギャロップ！⑥『拡張シート第1弾』のギャロップ。ギャロップの身軽さがうまく表現できました！⑦『Photoshop』⑧ポケモンが暮らしている世界のイメージを大切にしています⑨マダツボミ。見ていると他人とは思えないんですよ(笑)



ギャロップ（拡張シート第1弾）



木月すみよし
Kizuki Sumiyoshi

①神奈川県②'67年5月14日③休日は埴輪を見て歩いています④朝日小学生新聞、ポケモンえほん『へんしんメタモン』ほか⑤メタモン⑥「バトル場は穴だらけ！」。ちからの入った題名に、まぬけな画面のギャップが表現できたと思います⑦アクリルガッシュやA.W.FABERの色鉛筆で描いています⑧公式イラストに、つかず離れず。メカは弱そうに⑨よく眠るのでケーシィ。…でもケーシィは眠っていてもカシコそうなので…ヤドンかな？



「バトル場は穴だらけ！」（ロケット団）



吉田振一
Yoshida Shinichi

①東京都②'70年12月23日③散歩④CGムービーの製作など⑤サンドパン⑥『拡張シート第2弾』のサワムラーです。多少てこずったので、愛着もあります⑦作品制作はすべてコンピュータで行っています。『Photoshop』や『Painter』を使っています⑧もともとリアリズム志向なので、そうならないよう注意しています。誰にでも愛されるよう、わかりやすい絵柄にしているつもりです⑨ミュウツー。やせていて、青白くて、ハチュウ類顔をしているからです



サワムラー（拡張シート第2弾）



楠部 文
Kusube Aya

①埼玉県②'66年2月20日③植物、昆虫の観察④ポケモンえほん『ちいさなゴースト』、『'98ポケモンカレンダー』9～10月の絵⑤ケーシィ、ワンリキー⑥『拡張シート第1弾』のキャタピー。イモムシが葉をかじっているのを見るのが好きなので⑦パイロットのDRAWING PEN(0.05～0.3mm)とDr.Ph.Martin'sのカラーインクを使っています⑧ポケモンの性格を表現すること。私の個性をだすこと。面白い構図にすること



キャタピー（拡張シート第1弾）



栗原 愛
Kurihara Ai

①埼玉県②'75年12月10日③クラゲに夢中④働くおねえさんです⑤ニョロゾとゲンガー⑥『拡張シート第1弾』のドードリオ。私を背中に乗せて高速で走ってほしい。世界一周も夢じゃない⑦色画用紙とハサミとカッター、デザインボンド⑧自分が欲しくなるようなポケモンにする。特徴をめいっぱい出すようにしています⑨ヤドン。ボーッとしているところが似ていると思う。なんかとぼけててドジそうだし。色はピンクだし



ドードリオ（拡張シート第1弾）

Question

① 出身地
② 生年月日
③ 趣味
④ ポケモンカードのイラスト以外のお仕事
⑤ お気に入りのポケモン
⑥ 自分で描いた中で、お気に入りのカード
⑦ ポケモンカードのイラストを描くときに使っている画材
⑧ ポケモンカードのイラストを描くときに心がけていること
⑨ 自分をポケモンにたとえると？

COLUMN POKEMON CARD

ポケモンカードトレーナーという仕事

pocketmonsters cardgame trainers

全国各地で行われているポケモンカードのイベント。そこへ遊びにきてくれたプレイヤーに対して、すこしでも楽しい時間を過ごしてもらえるようにバックアップしているのが、ポケモンカードトレーナーと呼ばれる人たちだ。彼らがどのようにしてイベントを支えているか、彼らの仕事のほんの一部をのぞいてみよう。

ポケモンカードのイベントを支えるスタッフたち。1度でもイベントに足を運んだことのある人なら、イベント会場を時に楽しそうに、時に忙しく動き回る彼らの姿を見たことがあるだろう。彼らを総称して「ポケモンカードトレーナー」という。

ポケモンカードトレーナーは厳正な審査によって選ばれる。現在トレーナーの数は、全国で185人。彼らはふだんは学生やアルバイト、社会人というふうにそれぞれ仕事を持っている。しかし、ひとたびポケモンカードのイベントが行われると、全国各地の会場に集まりポケモンカードトレーナーとして活躍するのだ。

トレーナーの仕事には、公式トーナメントやガルーラ親子大会のジャッジ(審判)、ティーチングコーナーのティーチャー、トレーナー対戦の対戦役などがある。

ジャッジを担当するトレーナーは、カードマスターと呼ばれる。カードマスターは、大会の時、それぞれの対戦テーブルについて、試合がスムースかつ公平に進むように見守る。ジャッジとして正確で素早い判定を要求されるため、もちろんルールについては熟知している。

ポケモンカードティーチャーは、初心者のプレイヤーを対象にポケモンカードの遊び方を丁寧に説明することが役目だ。

どの仕事を担当しているトレーナーも、ポケモンカードの面白さを伝えようと一生懸命だ。もしもイベントの会場でトレーナーを見かけたら気軽に話しかけてみよう。

プレイヤーとじかに接する大切な役目



プレイヤーと対戦するときは、あくまで真剣(写真は第1回公式トーナメントより)



ティーチャーは、やさしく語りかけるようにルールを解説する(写真は第2回公式トーナメント ハナダカップより)

ポケモンカードトレーナー・インタビュー
トレーナーは本当に面白いですよ

97年11月8日に神戸で開催されたマサラカップから、ポケモンカードトレーナーとして参加している吉田亨さんに、代表してお話を伺った。

——トレーナーになったきっかけを教えてください。

吉田　もともと自分でポケモンカードを買って遊びこんでいたんですよ。あるとき神戸で大会があるという話を聞いて、どうしても一度トレーナーとしてお手伝いしたいなと思い、参加させていただきました。

——トレーナーになって面白かったことはどんなことですか?

吉田　子どもとじかに対戦ができたり、デッキの中身を見てお話をするというのはすごく楽しいですね。もともと僕がトレーナーをやってみたかったのは、子どもたちと対戦をしてみたかったからなんです。メインのプレイヤーである子どもたちがどういうデッキを組んで、どう対戦するのか、興味がありましたから。

——ポケモンカードトレーナーとして、心がけていることを教えてください。

吉田　プレイヤーの方と対戦するときは、楽しく教えるというのが仕事だと思います。強すぎず、弱すぎないデッキを使って、限られた時間の中でも、なるべく色々な遊び方があるんだって理解してもらえるように心がけています。確かに勝ち負けのあるゲームなんですが、それを超えたところの面白さをぜひ体験してほしいですね。



ポケモンカードトレーナー**吉田亨**さん
テレビゲームソフト開発会社に勤務。個人的にもポケモンカードが大好きで、ホームページを開設している。「民営ヨシダジム」 http://www.vc-net.or.jp/~kerorin/index.html



data

① 青ジャンパー／'96年12月開催の第5回次世代ワールドホビーフェア他で着用／M、L、LL／生地はナイロン100%

② 黒・シルバージャンパー／'97年11月8日開催の神戸マサラカップから着用／L、LL／生地はナイロン100%

③ 黄色ジャンパー／'97年12月7日開催の福岡トキワカップで、全スタッフが着用。／M、L ／表地はナイロン100%、裏地は綿100%

④ オレンジジャンパー／'98年1月10、11日の東京ニビカップ～'98年2月15日開催の名古屋クチバカップまで、カードマスターが着用。／L、LL／生地はナイロン100%

⑤ 黄色Tシャツ／'97年6月14、15日開催の第6回次世代ワールドホビーフェアから着用／KM(キッズのM)、KL(キッズのL)、M、L／生地は綿100%

⑥ ロケット団Tシャツ／'98年11月22、23日開催のNINTENDO スペースワールド'97「ロケット団体験コーナー」で着用／KL、M、L／生地は綿100%

■登場した主なイベント/サイズ／素材

会場いっぱいの笑顔



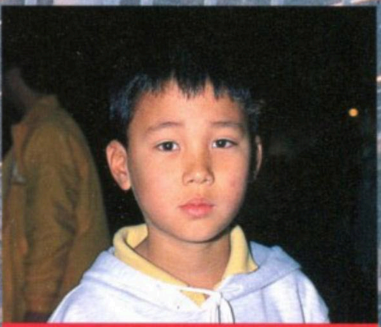
常見雅也くん 14歳

2、3カ月前にポケモンカードを始めたばかり。だけど、**カードは2000枚以上持ってる。**ぜひ、いろんな人と対戦して自分がどれくらい強いのか、試してみたいです



和久津将裕 くん 14歳

3カ月前からポケモンカードを始めました。カードゲームは戦略的で面白い。できることなら、**いつか日本一になってみたい。**



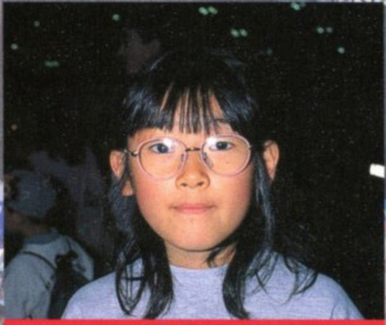
重田純輝くん 9歳

任天堂のポケモンリーグの招待選手だったんだけど、負けてしまった。実はもうポケモンジムを買ってしまったので、次はポケモングッズを買おうかなと思ってます



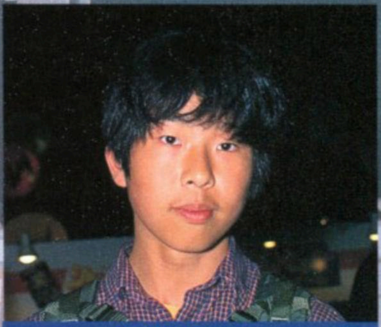
小笠原麻衣 さん 12歳

今日は家族みんなで来ました。ポケモングッズを集めるのが好きです。**私が好きなポケモンはシャワーズとプリンです。**



松浦奈穂 さん 9歳

今日はピカチュウのぬいぐるみを見にきました。ゲームもカードも両方持っています。**カードは集めるのが好きです。**カードは学校の男の子たちの間で流行っています



鈴木貴雄 くん 14歳

ポケモンカードの対戦がしたくて来ました。ポケモンカードを始めたのは学校で友だちに教えてもらったことがきっかけ。**対戦は100人100通りの戦略**があって、思い通りにならないところがすごく楽しい。



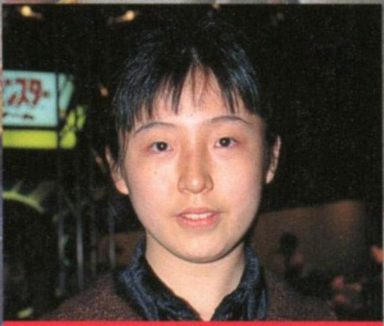
小笠原恭子さん 41歳

親子そろってポケモンが大好きです。今日は娘を連れてきました。ポケモンの中では私はコダックが好きです、ぬいぐるみがいいですね。



小笠原奈保さん 7歳

ゲームボーイのソフトは3色とも持っています。**ポケモンをお姉さんと一緒に151匹、全部集めました。**カードはまだ遊んだことはありません。できれば遊んでみたいと思っています。



秋野風子 さん 16歳

松本梨香さんの歌を聴きに来ました。
ポケモンはアニメが大好き。カードには興味はあるけど、対戦するのが恥ずかしくてできないんです。



小笠原梨紗 さん 16歳

ポケモンのイベントには、いつも参加しています。私はとるとるマスコットのキーホルダーを集めていて、最新のものを除けば全部持っています。

ポケモンワールド'98 来場者インタビュー

全国からやってきた2万1500人を越す来場者で、ポケモンワールド98会場は大盛況。お昼ごろともなると、来場者の数はピークを迎え、大混雑となった。会場のあちこちで開催されたイベントやメインステージ前には見物客があふれ、ポケモングッズの販売ブースにはのきなみ行列ができていた。家族連れから、友だち同士、カップル、ひとりで訪れる小学生など、来場者の年齢層が幅広く、性別を問わないのがポケモンのイベントの一つの特徴。また、来場者の目的も千差万別だ。会場でのみ限定販売されるポケモングッズを購入しにきたグッズコレクター。ポケモンカードの対戦相手を探しにきたカードファン。カードのトレーディングをしにきたコレクター。もちろんゲームボーイの『ポケモン』ファンやアニメのキャラクターのファンもいる。来場者それぞれがポケモンを自分の思いのままに楽しんでいるのだ。

そこで会場がもっともにぎわっているお昼どき、会場中央のフリースペースや、会場ホールの壁ぎわで休憩している来場者のみなさんに「今日はこの会場にどんな目的で足を運んできたのか?」「ポケモンのどんなところが好きか?」という質問を試みることにした。



安部幸一 くん 13歳

まだ、**ポケモンカードは始めて1カ月くらいしか経っていない**けど、楽しんでいます。まだ、公式の大会に参加することよりも対戦を楽しんでいたいと思っています。



加藤由紀夫 くん 13歳

今日はポケモンジムを買いに来ました。友だちとポケモンカードのトレーディングをしています。



野内恵子 さん 16歳

カードは10枚ぐらい持っているけど対戦したことはありません。**ポケモンはグッズ集めとアニメが好き。**



宮島ひろたけ くん 13歳

友だちとポケモンカードで対戦するために来ました。**ふだんは近所の公園のベンチで友だちと対戦しています。**一度、始めると3～4時間は遊び続けてしまいます。



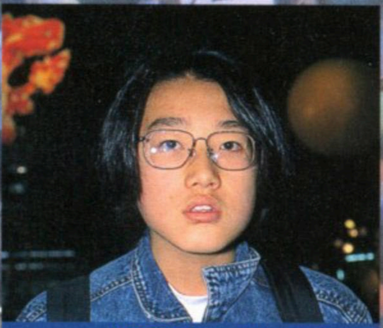
新井祐次 くん 13歳

今日は友だちと一緒です。ポケモンカードは週に1回くらいしか遊ばないけど、**一度、対戦を始めると、ずーっと遊び続けてしまいます。**



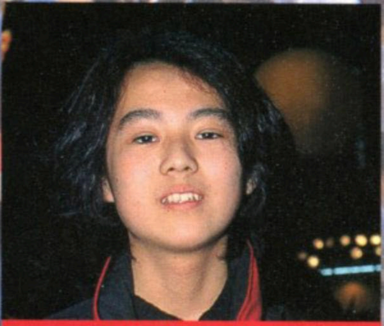
大熊優貴 くん 13歳

今日は友だちと来ました。**学校ではポケモンカードを一緒に対戦する友だちが15人ぐらいいます。**みんな強いですよ。



神戸竜也 くん 13歳

ポケモンジムの購入が目的で来ました。**ポケモンカードトレーナーとの勝ち抜き戦**に出てみたいと思っています。公式トーナメントにも次回はぜひ参加したいな。今、カードは1000枚ぐらい持っています。



野寄昌義 くん 13歳

ポケモンカードの公式トーナメントに出てみたい。出場できれば3位か4位ぐらいには入賞する自信がありますよ。



渕田健 くん 13歳

友だちとポケモンカードのトレーディングにきました。**今日の収穫はわるいスリーパーをトレーディングで手に入れることができたこと!**



山田安人 くん 14歳

今日はポケモンリーグに出場しにきました。ポケモンカードも大好きです。弟とよく対戦するんだけど、今年は受験だからあまりできないのが残念。**公式トーナメントにも、いつか参加してみたい。**

ポケモンカード イラストレーターギャラリー Vol.3

pocketmonsters cardgame illustrators

こみやトモカズ

Komiya Tomokazu



① 東京都 ②'73年2月14日 ③ お酒を飲むこと。または映画を見ること ④ 某ファッション雑誌にイラストを描いています。ポケモンえほん『ドードーよーいどん!』ほか ⑤ メタモン ⑥ 月刊コロコロコミックふろくカードのカモネギ ⑦ アクリルガッシュ。固めの筆で色を塗ります ⑧ いい意味で子どもの期待を裏切りたい。かっこいいキャラクターをかっこ悪く見せたりしてみたいですね



カモネギ（月刊コロコロコミックふろくカード）

高橋慶多

Takahashi Keita

（第1回イラストアーティストコンテスト最優秀賞受賞者）



① 長野県 ②'88年12月2日（小4） ③ 野球。大きくなったら野球選手になりたい ⑤ カビゴン ⑦ クレヨン、クーピーペンシル ⑨ ニャース。性格が似てるかな? ⑩ 野球選手 ⑪ カビゴンが大好きだから ⑫ とってもうれしかったです ⑬「いいなあ」とか、「すごいねえ」とほめてくれました



カビゴン（拡張シート第1弾）

松田香澄

Matsuda Kasumi

（第1回イラストアーティストコンテスト最優秀賞受賞者）



① 静岡県 ②'80年9月11日（高3） ③ ポケモンカードの対戦です。知らない人と対戦をすると友だちになれるから ⑤ ルージュラ ⑦ カラーインクを使っています ⑨ コダックでしょうか? 調子にのっているので ⑩ プログラマーか絵本作家になりたいです ⑪ 友だちの描いたバリヤードがかわいかったので、自分も描いてみたくなったからです ⑬ カード友だちが増えました。サインを求められたときは、びっくりしました



バリヤード（拡張シート第1弾）

川村祐輝

Kawamura Yuki

（第1回イラストアーティストコンテスト最優秀賞受賞者）



① 東京都 ②'86年4月20日（小6） ③ プロ野球カードを集めること。カードを集めるのが好きだから ⑤ メタモン ⑦ えんぴつとクレヨン ⑨ ワンリキー。筋肉があるから ⑩ サッカー選手 ⑪「メガトンパンチ」というワザがポケモンカードにピッタリだと思ったからです ⑫ 自分の絵がカードになったのがうれしかったです ⑬ みんな「すごい!」とびっくりして、その後「カードをちょうだい」と言ってきました



ニョロボン（拡張シート第1弾）

羽生信之

Habu Nobuyuki



① 佐賀県 ②'61年12月24日 ③ 海外 漫画や絵本集め ④ ゲームソフト開発会社でムービーパートのディレクター ⑤ ピカチュウ ⑥『拡張シート第2弾』の「シェルダー」。ぱっと見にインパクトがあり、目がかわいいからです ⑦『Painter』と『Photoshop』を使っています ⑧ ポケモンのかわいさを大切にしつつ、いかに自分らしさを出すか ⑨ 私はスポーティーなエビワラーと言ったのですが、奥さんはおなかを見て、髭の生えたニョロモだと言いました（泣）



シェルダー（拡張シート第2弾）

木村直代

Kimura Naoyo



① 福岡県 ④ 本や雑誌の挿絵描き、ポケモンえほん『でておいでよゼニガメくん』ほか ⑤ キャタピー、パウワウ、コダック ⑥『拡張シート第2弾』のパウワウ。『ポケモンえほん』向けに描いているうちに愛着がわいてきました ⑦ アクリルガッシュ、4〜6号程度のナイロン筆 ⑧ ポケモンを描くときには、キャラクターへのいとおしさを大事にしています ⑨ フシギダネ、トランセル



パウワウ（拡張シート第2弾）

小池 光

Koike Hikaru



① 長野県 ②'67年3月13日 ③ 今夢中になっているのは『鉄拳3』です ④CD-ROM『Jungle Park』のディレクション&プログラミング、「カメックスメガバトル」ロゴデザイン ⑤ ルージュラ ⑥『拡張シート第2弾』の「げんきのかたまり」。ハリウッド的SFXな感じに仕上がったので ⑦ コンピュータを使っています。『Lightwave』でモデリング、『Strata Stadio Pro』でレンダリング、『Photoshop』で調整をしています ⑧ やりこみすぎること



「げんきのかたまり」（拡張シート第2弾）

Question

① 出身地
② 生年月日
③ 趣味
④ ポケモンカードのイラスト以外のお仕事
⑤ お気に入りのポケモン
⑥ 自分で描いた中で、お気に入りのカード
⑦ ポケモンカードのイラストを描くときに使っている画材
⑧ ポケモンカードのイラストを描くときに心がけていること
⑨ 自分をポケモンにたとえると?
⑩ 将来の夢
⑪ 受賞したカードに描いたポケモンを選んだ理由
⑫ 自分がイラストを描いたカードを見たときの感想
⑬ 受賞後のまわりの反応は?



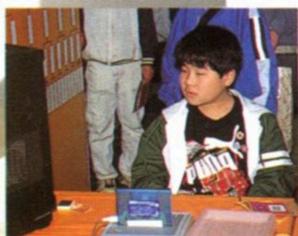
もうひとつの対戦

任天堂ポケモンリーグ東京特別大会



優勝は、マルマインの「だいばくはつ」をうまく使った松本選手。勝利のひけつは「ポケモンをこつこつと育てること」





予選リーグは8つのトーナメントに分かれて行われた。今こそ、自分が育て上げたかわいいポケモンの実力を発揮するときだ



決勝戦は午後1時にスタート。「今日のために毎日1時間ポケモンを育ててきた」という松本宙之選手と「151匹中、もっとも強い6匹を調べ上げて選びだしました」と自信満々の吉竹泰明選手の2人がステージ上で向かいあった

自分で育てたポケモンで関東最強の座を目指す

任天堂ブースでは、ゲームボーイの『ポケットモンスター』による任天堂ポケモンリーグ東京特別大会が開催された。この大会に出場したのは、抽選によって選ばれた関東の256名の選手。それぞれの選手が腕によりをかけて育てたポケモンを持ち寄り、優勝を目指して対戦を行った。決勝戦はメインステージ上にて開催。多くの観客が見守るなか、トーナメントを勝ち残った松本宙之選手と吉竹泰明選手の2人が対戦した。松本選手のマルマインは吉竹選手のポケモンをことごとく倒し、圧倒的な強さで松本選手に優勝をもたらした。

任天堂ポケモンリーグとは

ポケモンリーグとはゲームボーイの中で育てあげたポケモンを使って、全国のポケモントレーナーが対戦する大会のこと。第1回は97年に開催。全国各地のトレーナーたちがその実力を競った。優勝は北陸地区代表の宮沢徹選手。決勝戦で使用したポケモンはマルマイン、ケンタロス、ルージュラの3匹だった。続く98年には第2回を開催。ルールが改定され、ニンテンドウ64の『ポケモンスタジアム』が使用された。





スーパーゲームボーイによる通信対戦画面。シンプルながらも想像力をかきたてる画面だ



『ポケモンスタジアム』ではポケモンたちが3Dグラフィックスで表示される。その迫力と、愛くるしい仕草はポケモンが本当にいるかのようだ

ポケモンリーグルール解説

第2回ポケモンスタジアムカップからポケモンリーグはルールが大きく改定された。まず、使用できるポケモンの種類は33匹。その中から6匹のポケモンを選びエントリーする。使用できるすべてのポケモンのレベルは、レベル30までに限定される。対戦中は、相手のポケモンを2匹以上眠らせたり、凍らせることは禁止。対戦の制限時間は15分。時間を過ぎると試合の結果は審判による判定となる。このルール変更により、プレイヤーにとっては、ポケモンの育てかたがより重要となった。



午後1時の会場風景

4月26日、日曜日。午後1時を過ぎた幕張メッセの光景だ。どこを見渡しても人だらけ。手前に見えるは協賛各社のブース。各社とも選りすぐりのポケモングッズを販売している。草エネルギーのバルーンの下では、決勝ステージ進出をかけ、「リザードンメガバトル」予選リーグが最高潮に盛り上がっている。超エネルギーのバルーンの下では、「第1回ガルーラ親子大会」がスタートし、親子チームが2回戦にチャレンジしている。ポケモンタワーの彼方に光るメインステージでは、「任天堂ポケモンリーグ東京大会」の決勝戦がそろそろ始まろうとするところだ。

来場者たちの勢いはやまず、広かった会場がしだいに狭く感じられてくる。販売ブースで『ポケモンジム』を手に入れて嬉しそうな親子連れ、トレーディングにすっかり夢中な中学生、そして対戦を通じてたくさんの友だちを得た小学生の男の子。楽しみ方はまさに人それぞれ。ただひとつ共通しているのは、誰もがゆっくりとこの場を楽しんでいるということだ。足早に帰ろうとする人はいない。訪れた人しか味わえない至福の時間が過ぎていく。



リザードンメガバトル
公式大会グッズ

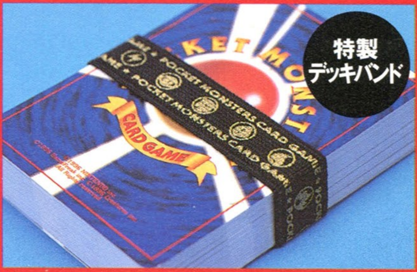
数々のおまけカードをはじめとして、『ポケモンカード』にはコレクション心をくすぐるレアなアイテムがたくさんある。ここでは日本一決定戦リザードンメガバトルのためだけに制作されたアイテムに加え制作されながらも残念ながら幻となってしまった超レアアイテムを紹介しよう。



リザードンメガバトル出場選手だけにプレゼントされた
超レアアイテム



リザードンメガバトルにおいて、予選リーグ参加選手に与えられる特製パーカー。炎ポケモンのシンボルといえるリザードンにちなんだ真紅の色合いが美しい。デザインは清水雄介氏（SLP DESIGNS）。



デッキをたばねるためのバンド。本を携帯するためのブックバンドのいわばデッキ版だ。サイズはデッキにジャストフィットしている。デザインはミルキィ・イソベ氏。



色は金、銀、銅の3色。材質は亜鉛合金。表面はメッキ加工。ふたを開けると、デッキが収まるスペースがある。トロフィーと同様に、上位入賞者にプレゼントされる予定だった幻のアイテム。



リザードンメガバトルのロゴをあしらった特製ケース。材質はビロード。なめらかな手触りが心地よい。デッキやダメージカウンターなど、さまざまなアイテムを入れることができる。リザードンメガバトル上位入賞者全員にプレゼントされた。



第2回公式トーナメントの上位入賞者に贈られたキャップ。リザードンメガバトルでは、着用が義務づけられていた。正面にはシンボルマーク、裏面には7色のエネルギーシンボルがあしらわれている。



リザードンメガバトル3位入賞者に贈られたトロフィー。すべてがハンドメイドで、2体しか存在していない。サイズは高さ270ミリ、幅150ミリ、奥行き220ミリ。制作は株式会社トミー。



決勝ステージで使用された特別のプレイマット。シンボルマークや文字がすべて黒で描かれている。市販のものよりシックで落ち着いた雰囲気。リザードンメガバトル上位入賞者に贈られた。デザインはミルキィ・イソベ氏。



リザードンメガバトル準優勝者に贈られたトロフィー。サイズはヒトカゲトロフィーよりひと回り大きく、高さ310ミリ、幅220ミリ、奥行き210ミリ。材質はラテックス。制作は株式会社トミー。



リザードントロフィー

リザードンメガバトルの優勝者にのみ贈られる最高に栄誉あるトロフィー。サイズは高さ440ミリ、幅350ミリ、奥行き290ミリ。重量は約5キロ。大人が持ってもズッシリとした重さを感じるほど。材質はラテックス。制作は株式会社トミー。

ポケモンカードテーブル

盤面に本皮が使用された最高級の対戦テーブル。サイドテーブルは引き出し式になっており、飲み物など置くことができる。テーブルを支える足の中心には、キャリングケースを置くことができる。本来はリザードンメガバトルの決勝ステージで使用されるはずだった幻のアイテム。デザインはミルキィ・イソベ氏（ペヨトル工房）。

幻のポケモンドラヤキ

WHAT IS POKEMON DORAYAKI?

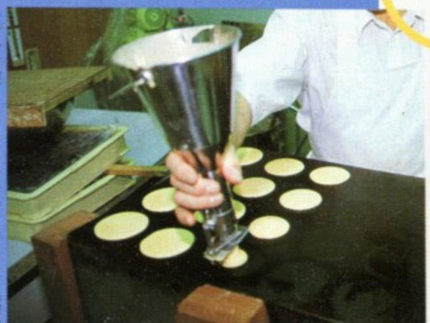


「第1回ガルーラ親子大会」の参加賞として、出場者の親子に配られたポケモンドラヤキ。このドラヤキ、実はポケモンの生みの親のクリーチャーズ、ゲームフリークから関係者に向けて、お中元やお歳暮の時期に配られていた幻のお菓子だったのだ。ついに、幻のポケモンドラヤキの秘密が大公開される！

しっとりとした皮にポケモンの絵が描かれ、その中にふんわりとしたあんこが入っているポケモンドラヤキ。なんとこのドラヤキのひとつひとつ、すべてが手作り。何度もスタッフが味見をして作り上げられたこだわりの作なのだ。このたび東京日本橋のポケモンセンタートウキョーでの販売も始まり、全国のポケモンファンの注目の的にもなっている。このドラヤキのできるまでをお菓子屋さん、蛸八(たこはち)のご主人、今国順市さんに初公開してもらった。

ポケモンドラヤキができるまで

1 鉄板の上にタネをしく



小麦粉で練られたドラヤキの皮のタネを鉄板に流し込む。しっとりとした歯触りを出すため、普通のドラヤキよりもタネは濃い目

2 タネが焼けたら、ひっくり返す

強い火力で熱しているので1〜2分でタネが焼き上がる。ヘラで返すと、美味しそうなドラヤキの皮が現われる

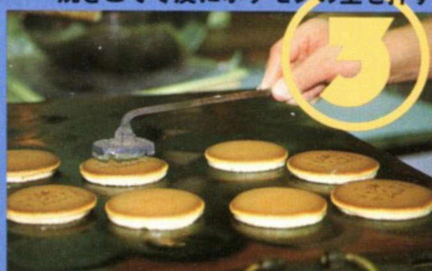




あんこは2種類

小倉あんに栗を混ぜた栗あんと、小倉あんに生クリームを混ぜた生クリームあんの2つ。ご主人が満足いくまで追求した絶妙の味わいだ。

3 焼きごてで皮にポケモンの型を押す



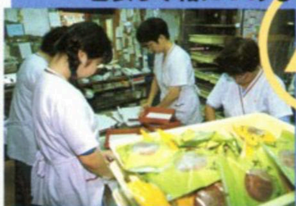
ガスバーナーで熱したポケモンの焼きごてを、皮に焼きつける。さすが創業38年の蛸八のご主人。見事なヘラさばきだ



ポケモンの焼きごては全部で18種類

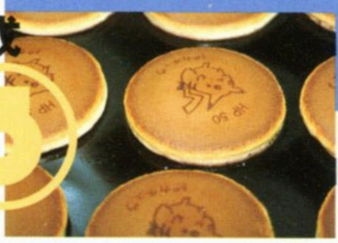
ピカチュウ、ニョロゾ、コイキング、コダック、ダグトリオ、ピッピ、ミニリュウ、ラッキー、ガルーラ、イーブイ、クサイハナ、ドガース、ミュウツー、メタモン、アーボ、プリン等。浅草にすむ金型職人が作り上げた世界で一つの貴重品だ。

4 包装して箱につめる



蛸八の従業員が、できあがったドラヤキを箱につめる。ここまで全部が手作り

5 完成



甘すぎずさっぱりとした味は絶品。冷凍して食べても美味しい。

幻のポケモンドラヤキコレクション

これまでポケモンドラヤキは関係者のあいだで何度か配られたことがあった。そのポケモンドラヤキが違う点は、パッケージとドラヤキに焼いてあるポケモンの種類。今はもう見ることができない、幻のポケモンドラヤキを大公開しよう。



ポケモン映画化記念

ミュウツー、ニャース、ニョロゾの栗あんとピカチュウ、プリン、ピッピの生クリームあんの2種類。パッケージはミュウツー。



クリーチャーズ、ゲームフリークからのお歳暮

クサイハナ、ドガース、コイキングの栗あんとアーボ、メタモン、ポリゴンの生クリームあんの2種類。変ったポケモンが多い。

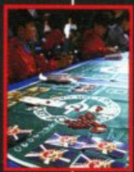


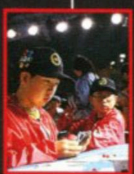
クリーチャーズ、ゲームフリークからのお中元

ニャース、ニョロゾ、ラッキーの栗あんとピカチュウ、プリン、ピッピの生クリームあんの2種類。パッケージに「携帯小獣」と刻まれている。

リザードンメガバトル

日本一決定戦

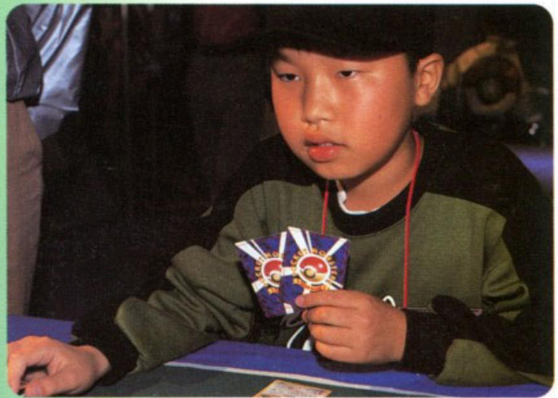







Part 1 040 日本一決定戦リザードンメガバトルドキュメント









決定戦の火ぶた

日本一決定戦 リザードンメガバトル チャレンジリーグ

ポケモンカード日本一決定戦はチャレンジリーグから始まる。チャレンジリーグとは全国の6大会で4位に入賞した選手が、日本一決定戦予選への出場をかけて対戦するリーグ戦のこと。選手全員が会場に入ると、祈るような面持ちでデッキを切り、静かに座席で開始を待つ。午前9時5分。ステージに上がった、高橋伸哉カードマスター代表がチャレンジリーグの試合開始を告げた。本日最初の対戦リーグ、チャレンジリーグの始まりだ。

対戦がスタートして3分を過ぎると、早くも決着がつきはじめた。緊迫した空気が少しずつ、和らいだものになりはじめる。リザードンメガバトルの唯一の女の子、長谷川綾子選手は一回戦に勝って、自信満々。試合後、対戦相手の光延幸紘選手とデッキの見せあいっこをしている。家村貴行選手は自分の対戦が終わると、隣に座っていた坂井祐介選手と川島功三選手の試合を楽しそうに観戦。久保田悟朗選手は次の試合に備えてデッキの山を切っている。一方、シニアリーグでは制限時間の10分ギリギリまで熱戦が続く。杉本信一選手と小田稔也選手の試合は引き分け、じゃんけんにより小田選手の勝ちで決着がついた。試合を終えたばかりの清水幹雄選手はじっとデッキを見つめている。心の中は次の試合に向けての闘志でいっぱいなのかもしれない。すべての試合を終え、結果発表。高橋カードマスター代表が名前を告げると、ガッツポーズや喜びの声が会場のあちこちから飛びだした。

あっという間の1時間。12人の選手が挑んだチャレンジリーグからは、全部で5人の選手が予選に進むこととなった。



胸おどるセレモニー

日本一決定戦 リザードンメガバトル 選手入場

午前9時28分。日本一決定戦の出場選手がチャレンジロードに集まった。ここにいるのは全国各地で行われた第2回公式トーナメントで1位から3位に入賞した41人。「撮影してよ！」とカメラマンにピースサインを送る選手。第2回公式トーナメントで知り合ったライバルとの再会を喜ぶ選手。入場直前になると、多くの選手がひんぱんにトイレに駆け込み、そのため出発が遅れるといった、小さなハプニングも起こった。

9時40分。「さあ、選手の皆さんの入場です」という司会の声に続き、会場に「めざせポケモンマスター」が流れはじめた。選手たちは、その音楽にあわせてチャレンジロードの真っ赤なカーペットの上を進む。選手たちはステージに上がると整列をする。巨大なスクリーンに選手ひとりひとりの顔が映し出され、名前が呼ばれる。41人もの選手が並ぶ姿は壮観だ。

選手たちに抱負を聞くと「がんばります」「自信があります」「早く対戦をしたい！」という元気な声ばかり。チャンピオンキャップの下から自信満々の顔をのぞかせている。

どの選手も今日のために、カードを研究し、対戦でテクニックを磨き、最高のデッキを組み上げてきた。ステージを降りれば、予選リーグが始まる。選手たちは、これからどんな勝負を繰り広げるのか。さあ、日本一決定戦の幕が切って落とされる。



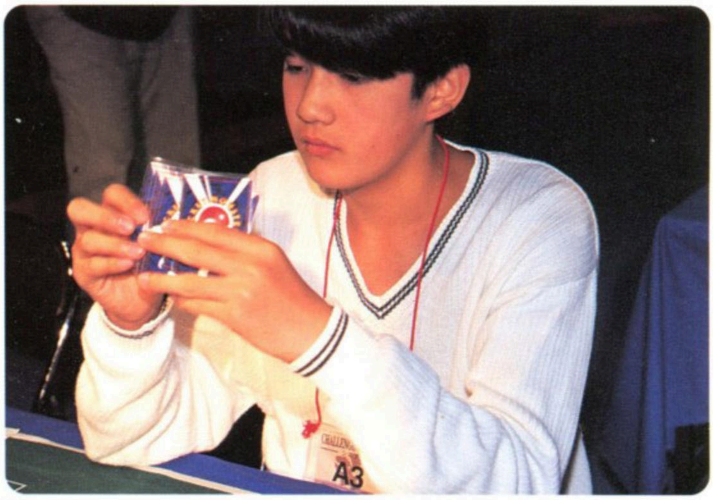


選手たちは、選りすぐった60枚のカードを組み上げたデッキを持ち、この会場に望む。予選会場の入口で受付をすませ、デッキとデッキリストを提出。同時にここでポケモンカードトレーナーによる厳正なデッキチェックを受ける。

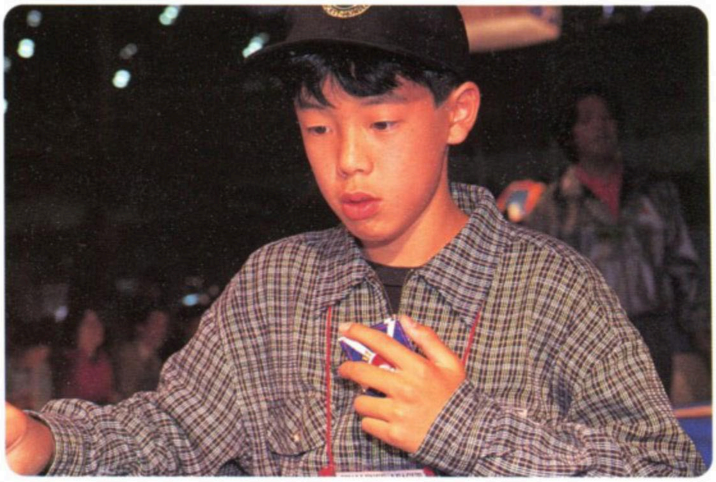














チャレンジリーグから予選リーグへ

チャレンジリーグを突破した5人の選手たち

ジュニアリーグ

今西徹 選手
マサラカップ4位。闘ポケモンで対戦相手の弱点をうまくついて、Aブロックで2勝して予選へ。

坂井祐介 選手
クチバカップ4位。「プラスパワー」を上手に使い、Bブロックで3連勝して1位で予選進出。

家村貴行 選手
シオンカップ4位。炎ポケモンを中心としたデッキを使い、Bブロックで2勝1敗で予選に進む。

シニアリーグ

宮寺啓祐 選手
ニビカップ(1/11)4位。水ポケモン主体のデッキでうまく相手の弱点をついて4連勝。

藤森研伍 選手
シオンカップ4位。バトル場のポケモンを巧みにいれかえ、見事に3勝1敗で予選へ進出。

新たなるステージ

予選リーグへ進む

チャレンジリーグに出場することのできる選手は、第2回公式トーナメント各大会において4位に入賞した選手。ジュニアリーグから7人。シニアリーグからは5人の選手が出場した。ジュニアリーグは人数が多いため、AとBの2つのブロックに選手を分けて対戦が行われた。選手全員は各リーグごとに総当たり戦を行い、その中で勝ち星を一番多くあげた選手が予選リーグに進むことができるのだ。

チャレンジリーグから予選へと進出できるのはジュニアリーグ3人、シニアリーグ2人の選手だけ。どの選手とも実力はほぼ互角、どの対戦も接戦ばかり。結果として勝敗を分けたのはカードの運の差によるもののようだ。

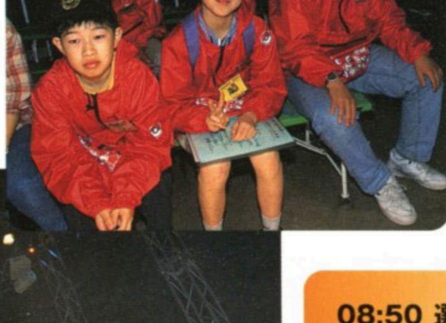
ジュニアリーグからは今西徹選手、坂井祐介選手、家村貴行選手。シニアリーグからは宮寺啓祐選手、藤森研伍選手が予選へと進んだ。



赤いチャレンジロードを力強く進む41人の選手たちの横顔は輝いて見える



ジュニアリーグの窪慎太郎選手とシニアリーグの一海達郎選手はともにニビカップの優勝者。日本一決定戦での再会を喜び合っていた





ステージから予選会場へ。緊張した表情の選手も多い



リザードンメガバトル進行タイムテーブル

08:50 選手集合
09:00 チャレンジリーグ出場選手デッキチェック
09:15 チャレンジリーグスタート
予選リーグ出場選手デッキチェック
09:30 予選リーグ出場選手入場
11:00 予選リーグスタート
14:30 決勝トーナメント出場選手入場
決勝トーナメントスタート
15:00 決勝戦
15:20 表彰式＆フィナーレ



一人目の対戦相手

日本一決定戦 リザードンメガバトル 予選リーグ

全国の主要都市で行われた「第2回公式トーナメント」から、選び出された46名の選手。ポケモンカードトレーナーのシンボル、リザードントロフィーを目指して、彼らの静かで熱い戦いが始まった！


選手といってもポケモンカード仲間。仲よく応援しあう姿も見られた


開始直前。フェアプレーを誓い対戦相手とガッチリと握手をかわす


真っ赤なパーカーの選手たちが勢ぞろいした。さあ、試合が始まる




予選会場のまわりには多くのポケモンカードファン、選手のご家族がつめかけた。夢中になって試合結果を追っている

待ちに待った日本一決定戦が始まる 選手は握手をかわす

真っ赤なパーカーを着た選手たちが、予選会場を埋め尽くす。午前11時。いよいよポケモンカード日本一を決める試合が始まるのだ。予選リーグの出場者はチャレンジリーグからの5名を加えたジュニアリーグ28名、シニアリーグ18名の計46名。その中から決勝トーナメントに進むことができるのは、わずか8名となっている。

選手たちは会場の椅子につくと、デッキをプレイマットの上にセット。手札を引いて、いつでも対戦が始められる状態で試合の開始を待つ。自分の手札をじっと見ては、作戦に思いを巡らせている選手。チャンピオンキャップを何度もかぶりなおす選手。試合への緊張感が徐々に高まってくる中、司会の松波利佳さんと高橋伸哉カードマスター代表がステージに登場した。ルールの説明と簡単な大会の紹介が終わり、午前11時20分、「予選リーグ、用意、スタート！」のかけ声とともに、選手たちの対戦が始まった。

まず、選手同士は固く握手。「よろしくお願いします」と元気に声をかけあいながら、バトル場のカードをめくって、おもてにする。選手たちのしなやかなカードさばきはスポーツ選手さながらだ。

予選会場のまわりに置かれたベンチには、出場選手のご両親が座っている。そのご両親の視線も真剣そのもの。息子の一挙一動をじっと見守る、お父さん。息子がガッツポーズをすると、拍手で応えるお母さん。来場したポケモンカードファンたちも、対戦を一目見ようと予選会場を取り囲んでいた。そのいくつもの視線の中、選手たちは素早く冷静にカードを使っていく。

試合が終わると、席を移動。選手たちは次に対戦をする相手と目をあわせては、お互いにほほ笑みあっている。大好きなポケモンカードを思う存分プレイできるこの場を十分に楽しんでいるようだ。

リザードンメガバトル大会ルール紹介

試合の方法

- 試合の方法は「サイドカード４枚戦」です。
- 対戦の時間が制限されています。１試合10分で行います。
- 「ロケット団」カードは６枚までしかデッキに入れることができません。
- 「拡張シート第１弾」のカードは、４枚までしかデッキに入れることができません。
- 「ポケモンジム」のカードは、今回の大会では使えません。

98年からの新ルール

- ポケモンが進化すると特殊状態（「どく・ねむり・マヒ・こんらん」状態）から回復する。
- 「こんらん」状態で「にげる」ときは、まずにげるのに必要なエネルギーをはがしてからコイン判定をする（にげられなくてもエネルギーははがしたまま）。
- ポケモンチェックでは特殊状態（「どく・ねむり・マヒ」状態）のチェックだけ行う。
- お互いの最後のポケモンが同時にきぜつした場合は、サイドカードを１枚にして、もう一度対戦を最初からやり直し、先にサイドカードをめくったプレイヤーの勝ち。

～『出場選手ガイド』より～



コイントス！　はたして結果は表か裏か。予選リーグを勝つにはテクニックだけでなく運も必要とされる



Bブロックは、どの選手も元気がよかった。中でも中田康友選手の鋭い視線は印象的だ



加藤和人選手対、浅倉誓選手。両者ともに5連勝中、Aブロックの1位を決める決勝戦となった



ジュニアリーグ

一試合平均5分30秒 テンポよく対戦が続く

ジュニアリーグの選手は全部で28名。AからDまで、4つのブロックに分かれて対戦は行なわれた。どの選手もすばやいカードさばきで、あっという間に決着をつけてしまう。Aブロックは力と力のぶつかりあい。阿部壮太選手がエビワラーを出せば、対する浅倉誓選手はヒトカゲをわるいリザードンに進化させて反撃。ダメージがたまると「ポケモン回収」で引き上げるという、トレーナーカードの上手な使い方が光った。Bブロックは元気がいい。「いけー」と叫びながらコイントスをするのは平野拓哉選手。同じ大阪出身で友だち同士の国分荘輔選手と山添弘晃選手はこのブロックで顔をあわせた。2人ともよく対戦している仲ということもあり、対戦は白熱した。一方、Cブロックは大混戦。予選リーグで唯一、ゴーストなどの超ポケモンを使う武田理志選手は、浜口聖士選手の速攻のデッキに苦戦。Dブロックはハイレベルなテクニックがあちこちで連発。中でも3匹のメタモンをデッキに組み込んだ山本高弘選手と、じっくりカードを選ぶ清水理俊選手の対戦は見ものだった。

対戦リーグ表

Cブロック

	平田峻	武田理志	町田敬	古市真一郎	浜口聖士	小野亘	家村貴行
平田峻	＼	○	○	○	○	○	○
武田理志	×	＼	×	×	×	×	×
町田敬	×	○	＼	○	×	○	×
古市真一郎	×	○	×	＼	×	○	○
浜口聖士	×	○	○	○	＼	○	○
小野亘	×	○	×	×	×	＼	○
家村貴行	×	○	○	×	×	×	＼

Aブロック

	加藤和人	野正雄亮	浅倉誓	谷口一平	加瀬将仁	粕谷久矢	阿部壮太
加藤和人	＼	○	○	○	○	○	○
野正雄亮	×	＼	×	×	○	×	×
浅倉誓	×	○	＼	○	○	○	○
谷口一平	×	○	×	＼	○	○	×
加瀬将仁	×	×	×	×	＼	○	×
粕谷久矢	×	○	×	×	×	＼	○
阿部壮太	×	○	×	○	○	×	＼

Dブロック

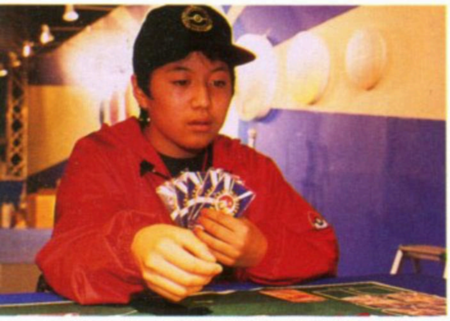
	神田一憲	山田航己	清水理俊	山口知紀	山本高弘	窪慎太郎	今西徹
神田一憲	＼	○	×	×	×	×	○
山田航己	×	＼	×	×	×	×	×
清水理俊	○	○	＼	×	×	×	○
山口知紀	○	○	○	＼	×	×	○
山本高弘	○	○	○	○	＼	×	○
窪慎太郎	○	○	○	○	○	＼	○
今西徹	×	○	×	×	×	×	＼

Bブロック

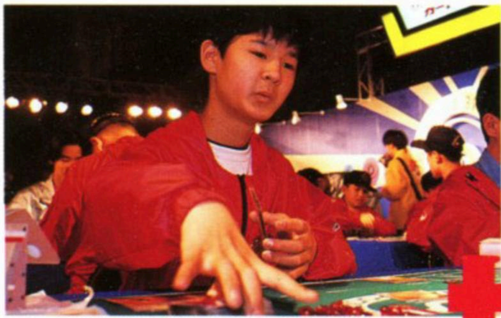
	吉野直樹	平野拓哉	国分荘輔	小栗一輝	山添弘晃	中田康友	坂井祐介
吉野直樹	＼	○	×	○	○	○	○
平野拓哉	×	＼	×	×	○	×	○
国分荘輔	○	○	＼	○	○	○	○
小栗一輝	×	○	×	＼	×	○	○
山添弘晃	×	×	×	○	＼	○	○
中田康友	×	○	×	×	×	＼	○
坂井祐介	×	×	×	×	×	×	＼

接戦につぐ接戦 シニアリーグ

一瞬を見逃せない



大乱戦のAブロック。その中で榎本壮平選手は落ち着いてプレイ



Cブロックはテンポよく進んだ。クチバカップの野中聡選手が対戦中

シニアリーグの選手は全部で18名。ジュニアリーグ同様AからDまで4つのブロックに別れて対戦は行われた。どの選手もポケモンカードを知り尽くしたハイレベルプレイヤーばかり。時間ギリギリまで決着がつかない、白熱した対戦が多く見られた。Aブロックは大混戦。ほとんどの選手が雷ポケモンを使っていたため、勝負は互角。なんと2勝1敗で同点の選手が、伊東丈太選手、西川仁選手、高田康行選手と3人も出てしまったのだ。急きょ、その3人によって決勝トーナメント出場をかけた決定戦が組まれることになった。また、Bブロックも乱戦気味。試合前「興奮しています」と言っていた松本恵太選手は、プクリンをメインにして大活躍。また、阪口篤史選手も多色デッキを活かしながら力いっぱいがんばっていた。一方、Cブロックはスピーディに試合が進んでいく。中でも、チャレンジリーグから上がってきた宮寺啓祐選手が大健闘。試合を終えるたびに、予選会場のまわりの友だちにVサインを送っていた。Dブロックは激戦区。大熱戦の末、ブーバーを使う小田直輝選手と、カメックスを使う高塚祐輔選手がともに3勝1敗で決定戦を行うことになった。

対戦リーグ表

Aブロック

	伊東文太	榎本壮平	西川仁	高田康行
伊東文太	＼	○	○	×
榎本壮平	×	＼	×	×
西川仁	×	○	＼	○
高田康行	○	○	×	＼

Bブロック

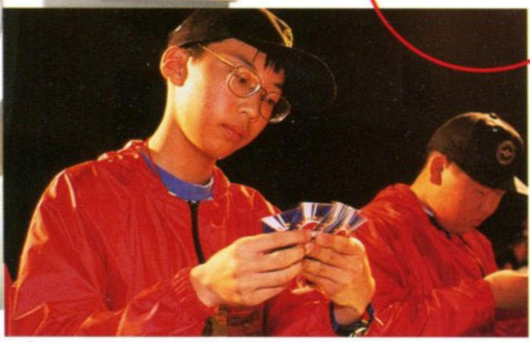
	谷野宏彰	阪口篤史	竹原祐介	松本恵太
谷野宏彰	＼	○	○	○
阪口篤史	×	＼	×	×
竹原祐介	×	○	＼	×
松本恵太	×	○	○	＼

Cブロック

	野中聡	興敏博	安徳仁	一海達郎	宮寺啓祐
野中聡	＼	○	○	×	×
興敏博	×	＼	×	×	×
安徳仁	×	○	＼	×	○
一海達郎	×	○	○	＼	○
宮寺啓祐	×	○	×	×	＼

Dブロック

	高塚祐輔	阿部航	小田直輝	亀山誠司	藤森研伍
高塚祐輔	＼	○	×	○	○
阿部航	×	＼	×	×	×
小田直輝	○	○	＼	×	○
亀山誠司	×	○	○	＼	×
藤森研伍	×	○	×	○	＼



Dブロックは実力伯仲の激戦区。亀山誠司選手は熱いプレイを見せた



予選リーグから決勝トーナメントへ

予選リーグを突破した8人の選手たち

ジュニアリーグ

加藤和人選手
シオンカップ3位。予選リーグでは1枚もサイドカードを引かせない、という圧倒的な強さを見せた。

国分荘輔選手
ハナダカップ優勝。「パソコン通信」と「オーキドはかせ」を組み合わせたコンボを得意とする

平田峻選手
ハナダカップ3位。ラッキー、プリン、プクリンのいるデッキで見事に全勝をとげる。

窪慎太郎選手
ニビカップ優勝。第1回公式トーナメントでも3位入賞した実力をおおいに発揮した。カメックスで全勝。

シニアリーグ

高田康行選手
マサラカップ優勝。決定戦では伊東選手、西川選手の2人を破った。雷ポケモンでじっくりと攻める。

谷野宏彰選手
シオンカップ2位。フシギバナをうまく使って連勝。決勝トーナメントに進んだ。

一海達郎選手
ニビカップ優勝。第1回公式トーナメントでも優勝は経験済み。カードさばきは選手の中での最速。

小田直輝選手
クチバカップ2位。決定戦で高塚選手と対戦、見事に決勝トーナメント進出を決めた。

リザードントロフィーへの最初の一歩

決勝トーナメントへはジュニア、シニアあわせて8つのブロックでそれぞれ1位になった選手が進むことができる。

ジュニアリーグは試合数が多かったにもかかわらずブロックの1位となる選手は全勝者ばかり。しかも、ハナダカップの選手が2人と関西勢の強さを感じさせる結果となった。

シニアリーグは全勝者は2人、残りの2人は乱戦を勝ち抜いてきた選手だった。出場者のレベルの高さを感じさせる結果といえるだろう。46人の中から勝ち残った8人は以下の通り。ジュニアリーグは加藤和人選手、国分荘輔選手、平田峻選手、窪慎太郎選手の4人。シニアリーグは高田康行選手、谷野宏彰選手、一海達郎選手、小田直輝選手の4人。彼らはメインステージで行なわれる決勝トーナメントにコマを進めることになった。

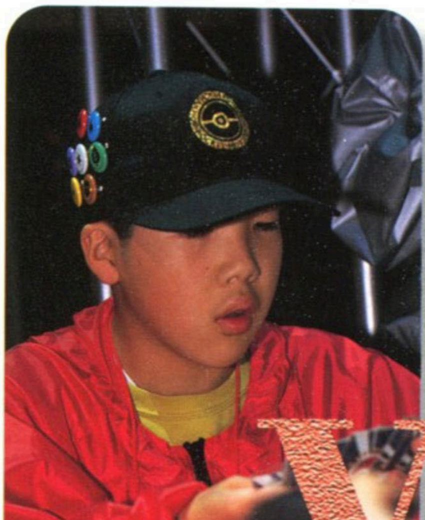


そして舞台はメインステージへ

日本一決定戦 リザードンメガバトル 準決勝戦

午後2時36分、舞台をメインステージに変えて、決勝トーナメントが始まろうとしている。周囲を大勢の観客が取り囲み、ステージ中央のスクリーンでプレイ風景が映し出されるほどの大舞台だ。「僕のほうが緊張しそうです。選手のみなさんは緊張しないで、実力を出し切って、がんばってほしい」と石原プロデューサーが選手たちにエールを送る。決勝トーナメントは準決勝戦、3位決定戦、そして決勝戦と3つの試合から成り立っている。最初に行われるのは、準決勝戦。決勝戦へ駒を進められるのか、それとも3位決定戦へと進むのか。ある意味では決勝戦よりも重要な試合なのかもしれない。

銀色に輝くシルバーテーブルに座ったのは北海道シオンカップ3位の加藤和人選手と、大阪ハナダカップ優勝の国分荘輔選手。そして大阪ハナダカップ3位の平田峻選手と、東京ニビカップ優勝の窪慎太郎選手が向かい合った。4人の選手たちはみな真剣な表情。しかし、試合前の握手になると、とたんにニコリと笑顔になった。「制限時間は10分間です」。司会者が試合開始を高らかに告げた。



加藤和人選手 VS **国分荘輔選手**

加藤和人選手のデッキの主力ポケモンは、ラッキーとくいしんぼカビゴン。トレーナーカードでは「エネルギー・リムーブ」がメイン。



国分荘輔選手のデッキの主力ポケモンは、ストライク、エレブー、そしてエビワラー。

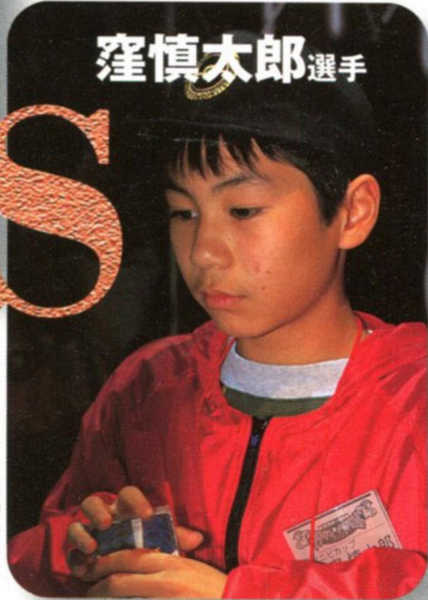






平田峻選手のデッキの主力ポケモンはプクリン。ワザ「ともだちのわ」のパワフルさがお気に入り。

平田峻選手 VS 窪慎太郎選手



窪慎太郎選手のデッキは水ポケモン中心。カメックスの特殊能力「あまごい」を活かした戦術が狙い。



ステージ奥に設置された解説席。左からウッチーの愛称でおなじみの内山雅子さん。ポケモン総合プロデューサー、石原恒和氏。高橋伸哉ポケモンカードマスター代表。



スピーディな試合展開
解説がまるで追いつかない

国分選手はストライクとエビワラーを育て、さらに「プラスパワー」をつけるなど、ひたすら攻めの一手。対する加藤選手も同じようにストライク、ラッキー、ガルーラなどHPの高いポケモンを交互にバトル場に出して応戦をする。

もうひとつのテーブルでは、平田選手が手早くプリンをプクリンに進化させ、ワザ「ともだちのわ」を使う。窪選手はそれに対抗するために、トレーナーカードをフルに使って、ゼニガメを手早くカメックスに進化させようとしている。

何人ものカメラマンが対戦テーブルのまわりを囲み始めた。選手たちの後ろには対戦の内容を記録するために、スタッフがデジタルカメラをかまえている。さらに2台のテレビカメラも加わって、メインステージの上はにわかにあわただしくなってきた。しかし選手たちは動揺することもなく、マイペースで対戦を進めている。

解説席にいる高橋カードマスター代表が、両方のテーブルを交互に見まわし、対戦の模様を伝えている。しかし、どちらの試合とも流れるようなスピードで進み、そのため実況は遅れがちになる。「あれっ終わってますよ！」と最初に気づいたのは内山雅子さん。試合開始から5分を待たずに加藤和人選手と国分荘輔選手の試合が終了した。「僕らがふだん遊ぶときより、3倍くらい速いですよ」と石原プロデューサーは苦笑する。続いて平田峻選手と窪慎太郎選手の試合も終了した。このとき試合時間は、7分をまわろうとしていた。

Junior League ジュニアリーグ

ジュニアリーグ決勝トーナメント進出者

	氏名	大会名
Aブロック1位	加藤和人選手	シオンカップ 午後の部3位
Bブロック1位	国分荘輔選手	ハナダカップ 午後の部1位
Cブロック1位	平田峻選手	ハナダカップ 午後の部3位
Dブロック1位	窪慎太郎選手	ニビカップ 1/10午前の部1位

ジュニアリーグ準決勝戦

決勝トーナメントハイライトシーン解説①

国分荘輔選手（ジュニア予選リーグBブロック1位）VS **加藤和人選手**（ジュニア予選リーグAブロック1位）

山札からほしいカードがいかに早くひけるか

国分選手はスタート時の手札にストライクしかポケモンがいないため、バトル場にストライクを出す。対する加藤選手はバトル場にストライク、ベンチにはラッキーを出す。国分選手の手札は充実しているが、ポケモンの数が少ないデッキなので、この手札でどう対戦を進めていくかが重要になる。加藤選手は手札にベトベター、ベトベトンの進化ポケモンを一組残している。ポケモンの数に不足はないが、それをサポートするカードが少ない。特にエネルギーカードが少なく、それをひいてくるためのトレーナーカードも手札にはない。そのため山札からひいてくるカードが頼みの綱となる。デッキの相性としては、どちらかが有利ということは特にない。セット状態では手札の良さで、国分選手が一歩リードしている。

スタート時のセット状態



国分荘輔選手

手札
「オーキドはかせ」
「パソコン通信」
「リサイクル」
「いいきずぐすり」
「ロケット団のおねーさん」
「なんでもなおし配合エネルギー」

バトル場
ストライク

加藤和人選手

手札
ベトベター
ベトベトン
「エネルギー・リムーブ」
「突風」
「草」エネルギー

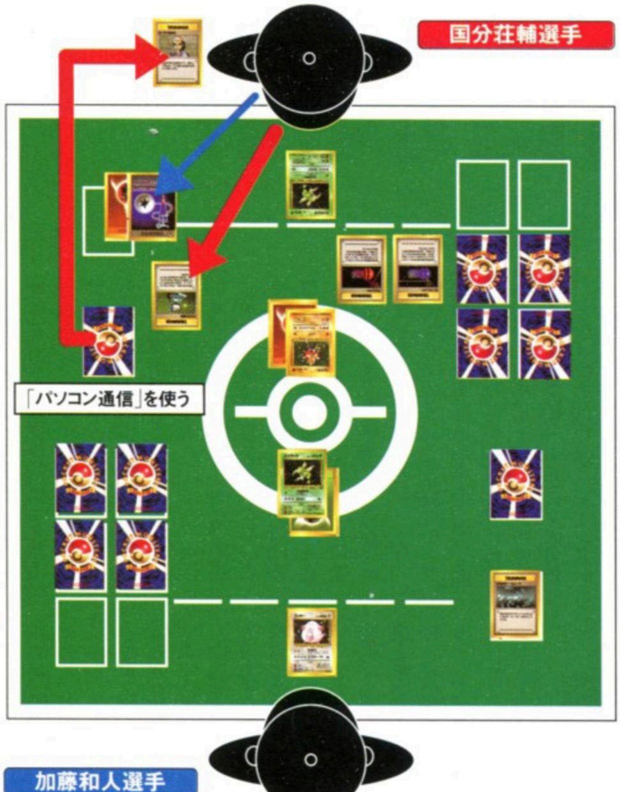
バトル場
ストライク

ベンチ
ラッキー

2手目 国分荘輔選手の番

「パソコン通信」を使い、「オーキドはかせ」をひく

1手目「オーキドはかせ」を使い、手札を一新した国分選手。対する加藤選手は、「エネルギー・リムーブ」を使い、国分選手のバトル場のストライクについている「雷」エネルギーをトラッシュさせる。2手目、国分選手は、バトル場のストライクとベンチのエビワラーをいれかえる。次に「プラスパワー」と「ディフェンダー」をエビワラーにつけてから「パソコン通信」を使い、山札から「オーキドはかせ」をひき、使う。



2手目スタート時の国分荘輔選手のカード

手札		「プラスパワー」、「ディフェンダー」、「パソコン通信」、「闘」エネルギー、「無色2個エネルギー」、「なんでもなおし配合エネルギー」
バトル場	ストライク	
ベンチ	エビワラー	

国分荘輔選手の行動

❶山札から「闘」エネルギーをひく。
❷バトル場のストライクとベンチのエビワラーをいれかえる。
❸エビワラーに「闘」エネルギーをつける。
❹エビワラーに「プラスパワー」、「ディフェンダー」をつける。
❺「パソコン通信」を使う
（「なんでもなおし配合エネルギー」、「闘」エネルギーをトラッシュして、山札から「オーキドはかせ」をひいて手札に加える）。
❻「オーキドはかせ」を使う
（エビワラー、「ダウジングマシーン」2枚、エネルギー回収」、「リサイクル」、「雷」エネルギー、「突風」をひく）。
❼「突風」を使い、加藤選手のバトル場のストライクとベンチのラッキーをいれかえさせる。

ワザを使う

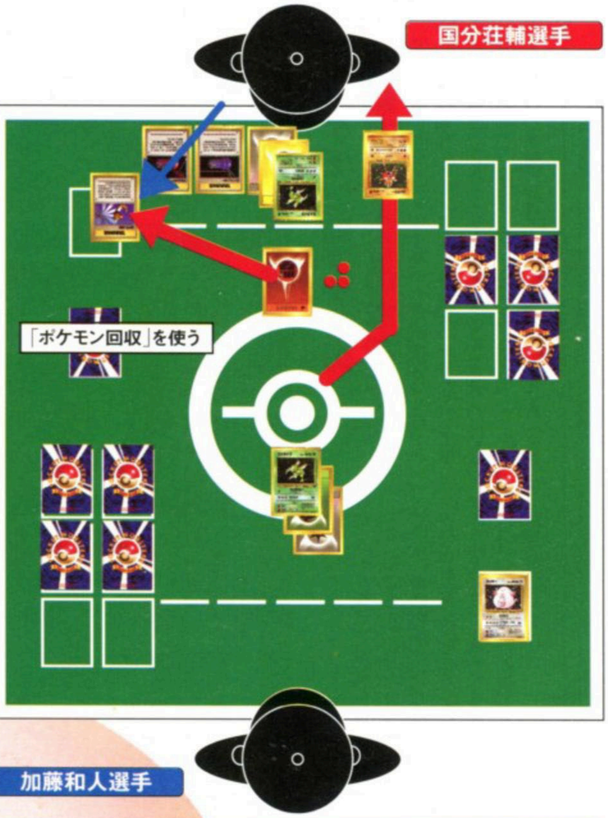
エビワラーのワザ「ジャブ」で加藤選手のバトル場のラッキーに50ダメージを与える。

解説

「パソコン通信」で「オーキドはかせ」をひいて使った国分選手のプレイは正解。「プラスパワー」、「ディフェンダー」を大切にしたいがため「オーキドはかせ」を使うのをためらいがちだが、使っておくべき。その後のカードで「オーキドはかせ」が使いにくくなってしまうかもしれないしね。（高橋伸哉ポケモンカードマスター代表）



※文中のマークはそれぞれ（　）＝「ポケモンジャングル」、（　）＝「化石の秘密」、(R)＝「ロケット団」、（　）＝「拡張シート第1弾」のカードであることを表します。



5手目 国分荘輔選手の番

「ポケモン回収」を使い、エビワラーを手札に戻す

国分選手は、2手目、3手目でエビワラーのワザ「ジャブ」を使い、加藤選手のバトル場のラッキーにダメージを与え、そしてついに4手目で「きぜつ」させる。対する加藤選手は、国分選手のバトル場のエビワラーに、ストライクのワザ「きりさく」を使い、30ダメージを与える。

5手目、手札にエネルギーカードのない国分選手は「ポケモン回収」を使い、エビワラーを手札に戻してストライクをバトル場に出す。

5手目スタート時の国分荘輔選手のカード

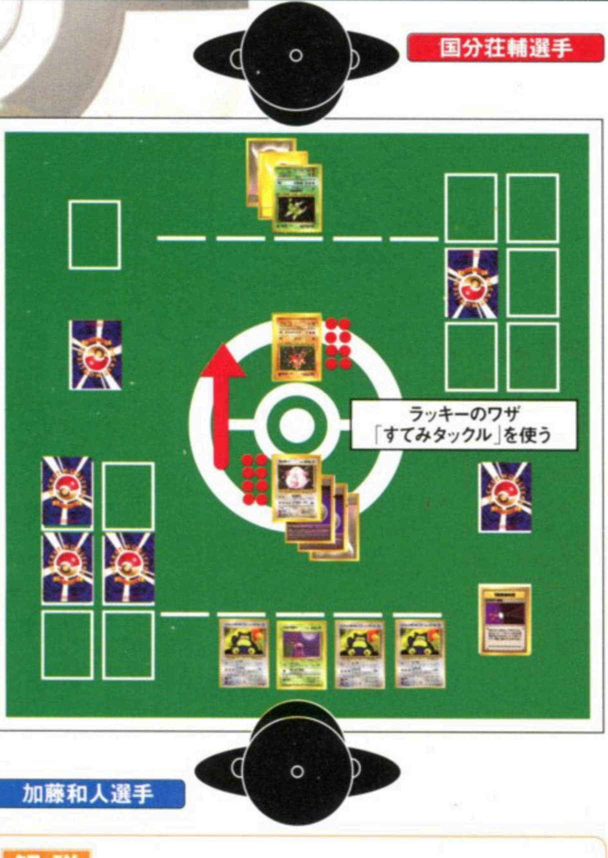
手札		「プラスパワー」、「ディフェンダー」、「ダウジングマシーン」、「リサイクル」
バトル場		エビワラー（ダメージ30、「闘」エネルギー×1）
ベンチ		ストライク（「雷」エネルギー×1、「無色2個エネルギー」×1）

国分荘輔選手の行動

1. 山札から「雷」エネルギーをひく。
2. 「プラスパワー」、「ディフェンダー」をベンチのストライクにつける。
3. 「ダウジングマシーン」を使う（「リサイクル」、「雷」エネルギーをトラッシュし、「オーキドはかせ」をトラッシュからひいて、手札に加える）。
4. 「オーキドはかせ」を使う（「ポケモン回収」、「プラスパワー」、エレブー2枚、「ダウジングマシーン」、「闘」エネルギー、「パソコン通信」をひく）。
5. **「ポケモン回収」を使い、エビワラーを手札に戻す**（「闘」エネルギーをトラッシュする）。
6. ストライクをバトル場に出す。

ワザを使う ストライクのワザ「きりさく」を使い、加藤選手のバトル場のストライクに40ダメージ与える。

解説 「ポケモン回収」を使った後、すぐに回収したポケモンをベンチに出してしまう人もいるけれども、この番の国分選手のように出さない方がよいときもある。エビワラーをもう一度出していたら、「突風」で狙われていたかもしれない。エネルギーが不足しているし、バトル場のストライクのHPの高さを信頼して様子を見るのは正しいぞ。（高橋）

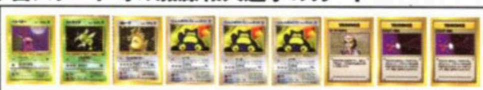


8手目 加藤和人選手の番

ラッキーのワザ「すてみタックル」で逆転をねらう

8手目までにラッキー、ストライク、ガルーラの3匹のポケモンが「きぜつ」させられた加藤選手。国分選手のサイドカードは残りあと1枚。加藤選手はこのピンチを切りぬけるため、「エネルギー回収」を使い、「無色2個エネルギー」をトラッシュからひき、バトル場のラッキーにつける。続いてラッキーのワザ「すてみタックル」を使い、国分選手のバトル場のエビワラーを「きぜつ」させる。

8手目スタート時の加藤和人選手のカード

手札		ベトベター、ストライク、ガルーラ、くいしんぼカビゴン×3、「オーキドはかせ」、「エネルギー回収」×2
バトル場		ラッキー（「なんでもなおし配合エネルギー」×2）
ベンチ		ベトベター

加藤和人選手の行動

1. 山札から「なんでもなおし配合エネルギー」をひく
2. くいしんぼカビゴンを3枚ベンチに出す。
3. 「エネルギー回収」を2枚使う（ガルーラ、ベトベターをトラッシュして、「無色2個エネルギー」と「草」エネルギー2枚をトラッシュからひいて手札に加える）。
4. 「無色2個エネルギー」をバトル場のラッキーにつける。

ワザを使う **ラッキーのワザ「すてみタックル」を使い、国分選手バトル場のエビワラーを「きぜつ」させる**（「すてみタックル」の効果で、ラッキーにも80ダメージ）。

解説 加藤選手は、次の国分選手の番に「プラスパワー」を使われることを予測して、ワザを使う前に「オーキドはかせ」を使って最後の最後まで粘ってみるべきだろう。これに似た状況はいっぱいあるんじゃないかな？　もし「デフェンダー」や「エネルギー・リムーブ」が入っていて、ひければ勝てるかもしれない。あきらめないのが重要だ。（高橋 ）

ジュニアリーグ準決勝戦

決勝トーナメントハイライトシーン解説②

ジュニア予選リーグDブロック1位 窪慎太郎選手 VS ジュニア予選リーグCブロック1位 平田峻選手

進化ポケモン対プテラの特殊能力「げんしのちから」

窪選手は手札のフリーザーをバトル場に出す。スタート時に場に出せるポケモンはこの1匹のみ。デッキとしてはカメックスが中心となるので、スタート時にゼニガメがいないのが少しつらい。窪選手としては手札にあるトレーナーカードを使い、少ない手数で山札からゼニガメをひき、カメックスへと進化をさせるのが目標となる。対する平田選手は、バトル場にプリン、ベンチには「なにかの化石」を出す。手札にはすでにプテラがあり、トレーナーカードもそろっている。平田選手はベンチの「なにかの化石」を守り、最短でプテラに進化させることが目標となるだろう。お互いに弱点、抵抗力は特に影響はないため、どちらが先に目標を達成するかが勝負となる。

スタート時のセット状態



※窪選手のスタート時の手札は、窪選手がスタート直後に「オーキドはかせ」を使ったため、一部確認することができませんでした。

2手目 窪慎太郎選手の番

ベンチのゼニガメ(◐)に「水」エネルギーをつける

ベンチに控えポケモンがいない窪選手は、「マサキ」、「オーキドはかせ」、「ダウジングマシーン」を使い、ゼニガメ(◐)をひき、ベンチに出す。対する平田選手は、1手目にプリンのワザ「こもりうた」を使い、窪選手のバトル場のフリーザーを「ねむり」状態にする。窪選手はポケモンチェックでコイン判定を行うが成功せず。迎えた2手目を窪選手は「水」エネルギーをゼニガメ(◐)につけるだけで終了する。



2手目窪慎太郎選手のスタート時のカード

手札	バリヤード(◐)、「オーキドはかせ」、「水」エネルギー×2
バトル場	フリーザー(「ねむり」状態、「水」エネルギー×1)
ベンチ	ゼニガメ(◐)

窪慎太郎選手の行動

❶ 山札から「突風」をひく。

❷ ベンチのゼニガメ(◐)に「水」エネルギーをつける。

ポケモンチェック

コイン判定に成功し、窪選手のバトル場のフリーザーが「ねむり」状態から回復する。

解説

窪選手は、エネルギーをつけるだけで自分の番を終えている。ここは平田選手のベンチの「なにかの化石」からプテラへの進化に注意し、手札を充実させるために「オーキドはかせ」を使っておくべき。先に「突風」を使って「なにかの化石」をバトル場に出させておくのもひとつの手だぞ。(高橋伸哉ポケモンカードマスター代表)





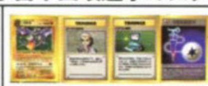
2手目 平田峻選手の番

プテラへの進化完了。「げんしのちから」でカメックスへの進化を止める

2手目を迎えた平田選手は、まず「パソコン通信」を使ってプクリンをひく。そしてバトル場のプリンをプクリンに進化させる。次にスタート時からベンチに出していた「なにかの化石」をプテラに進化させる。これによりお互いの選手は、たねポケモンを進化させることができなくなる。平田選手は、さらに「オーキドはかせ」を使い、山札からひいたポケモンをベンチに出し、バトル場のプクリンのワザ「ともだちのわ」を使い、フリーザーを「きぜつ」させる。



2手目平田峻選手のスタート時のカード

手札		プテラ、「オーキドはかせ」、「パソコン通信」「なんでもなおし配合エネルギー」
バトル場		プリン（「無色2個エネルギー」×1）
ベンチ		くいしんぼカビゴン「なにかの化石」

平田峻選手の行動

1. 山札から「草」エネルギーをひく。
2. 「パソコン通信」を使う（「草」エネルギー、「なんでも直し配合エネルギー」をトラッシュして、プクリンを山札からひいて手札に加える）。
3. プリンをプクリンに進化させる。
4. 「なにかの化石」を、プテラに進化させる。
5. 「オーキドはかせ」を使う（ラッキー、プクリン、くいしんぼカビゴン2枚、「草」エネルギー2枚、「ダウジングマシーン」をひく）。
6. くいしんぼカビゴン2枚、ラッキーをベンチに出す。
7. 「ダウジングマシーン」を使う（プクリンと、「草」エネルギーをトラッシュして、「オーキドはかせ」をトラッシュからひき手札に加える）。
8. 「オーキドはかせ」を使う（「夜の廃品回収」、「きずぐすり配合エネルギー」、「ポケモンいれかえ」、「プラスパワー」、「ダウジングマシーン」、「超エネルギー回収」、「なんでもなおし配合エネルギー」をひく）。
9. 「プラスパワー」と、「きずぐすり配合エネルギー」をプクリンにつける。

ワザを使う

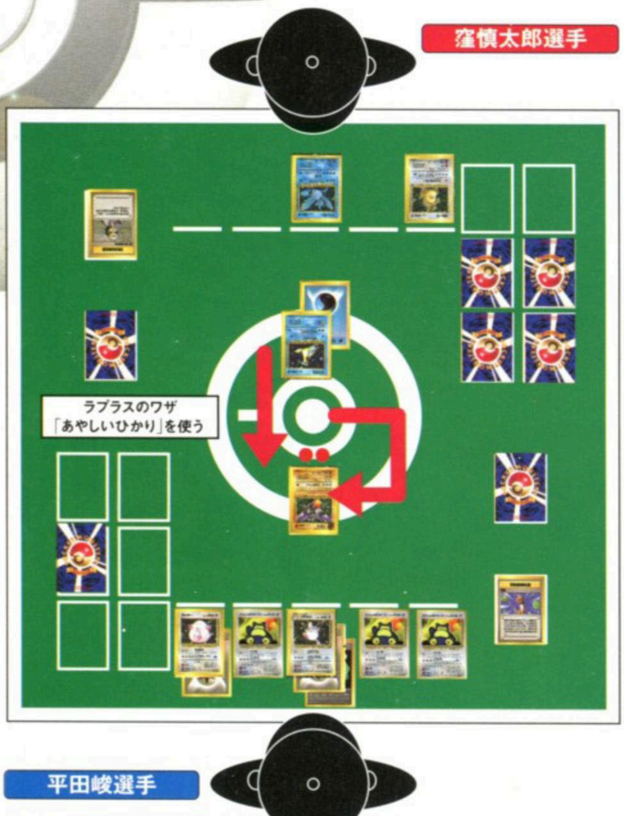
プクリンのワザ「ともだちのわ」を使い、窪選手のバトル場のフリーザーを「きぜつ」させる。

解説 平田選手はプテラの登場で、進化ポケモンを中心としたデッキの窪選手よりまず一歩リードした感じだ。この番の平田選手は手札の使い方がすごくうまい。思い切りのよい「オーキドはかせ」の使い方と、テクニカルなトレーナーカードを確実に使うことにより、場と手札を一気に理想の形にしている。点数をつけると90点のうまさだ。（高橋）

5手目 窪慎太郎選手の番

プテラを「こんらん」状態にし、「げんしのちから」を止める

プテラの特殊能力「げんしのちから」により、主力のポケモンであるゼニガメを、カメール、カメックスへと進化させることができない窪選手。続く3手目、4手目に窪選手のバトル場の2匹のゼニガメは「きぜつ」させられる。平田選手のサイドカードは残り1枚。5手目、窪選手は「突風」を使い、平田選手のバトル場のプクリンとベンチのプテラをいれかえ、ラプラスのワザ「あやしいひかり」を使いプテラを「こんらん」状態にする。



5手目窪慎太郎選手のスタート時のカード

手札		カメックス、「突風」、「まきちらせベトベトガス」、「オーキドはかせ」
バトル場		ラプラス（「水」エネルギー×1）
ベンチ		フリーザー

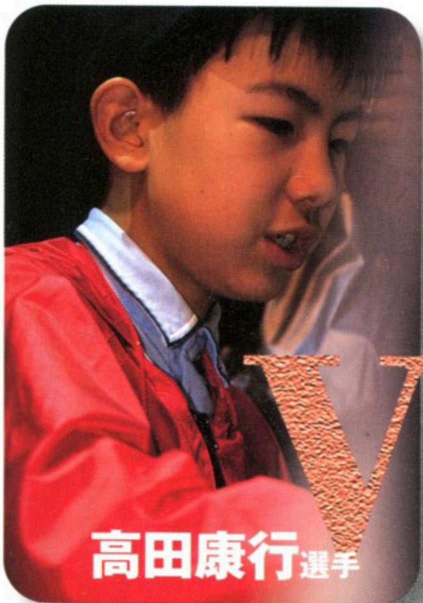
窪慎太郎選手の行動

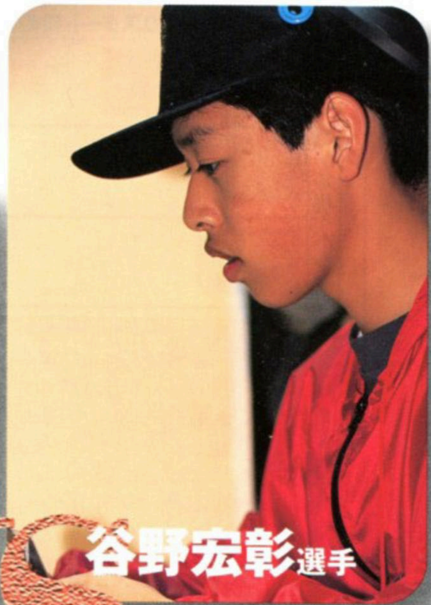
1. 山札からゼニガメをひく。
2. 「突風」を使い、平田選手のバトル場のプクリンとベンチのプテラをいれかえさせる。
3. 「オーキドはかせ」を使う（ガルーラ、「ポケモンいれかえ」、「プラスパワー」2枚、「ポケモン交換おじさん」、「水」エネルギー、「超エネルギー回収」をひく）。
4. ガルーラをベンチ場に出す。

ワザを使う

ラプラスのワザ「あやしいひかり」を使い、平田選手のバトル場のプテラに10ダメージを与え、「こんらん」させる。

解説 ふつうならあきらめてしまいがちな窪選手のこのシーンだが、あきらめは感じられず見習いたいもの。ラプラスに最後の望みをたくしワザ「あやしいひかり」を成功させた。プテラの特殊能力もうまく消すことができた。このチャレンジ精神こそ、すべてのポケモンカードプレイヤーに持ってもらいたい。（高橋）





VS

谷野宏彰選手

谷野選手のデッキのキーとなるポケモンはフシギバナ。特殊能力「エナジートランス」で草ポケモンを一気に育てる戦術だ。無色ポケモンとしてメタモンが入っている。

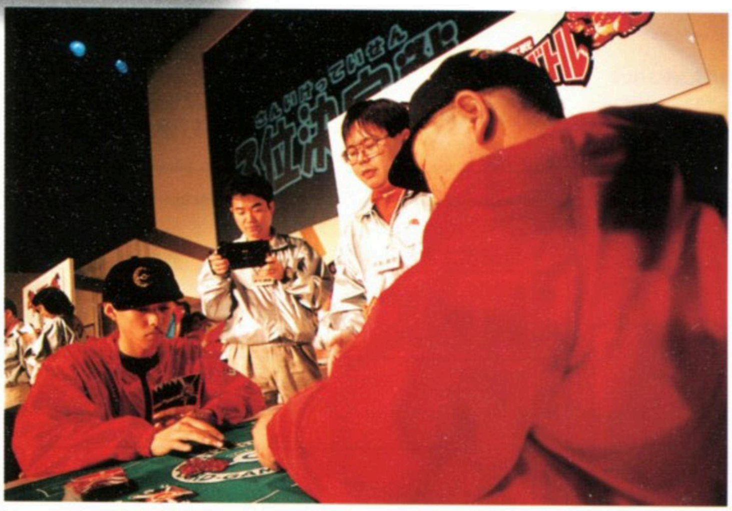
高田康行選手

高田選手のデッキの主力ポケモンはエレブーと『ロケット団』のビリリダマ。とりわけ雷エネルギーひとつで20ダメージを与えられるビリリダマがお気に入り。



2つの対戦テーブルの模様は、天井のカメラを通じて、解説席手前のモニターに映し出される。





心は熱く頭は冷静に

4人の選手には気合いがみなぎっている

日本一決定戦
リザードンメガバトル
準決勝戦

Senior League
シニアリーグ

高田康行選手と谷野宏彰選手。一海達郎選手と小田直輝選手。シニアリーグの選手たちがシルバーテーブルに着席すると、ジュニアリーグのとき以上の緊張感が漂い始めた。高田選手は挨拶をするかのように頭を下げて、山札を相手に差し出す。一海選手は気合を入れるために、両手で頬を何度も叩く。勢いのあまり、チャンピオンキャップが後ろへ飛んでしまう。どの選手もジャンケンをする腕に力がみなぎっている。

ステージを照らすライトがイエローからブルーへと、パッと切り替わった。試合開始だ。

「もうちょっとゆっくりプレイしてほしいですね」。解説席にいる石原プロデューサーが冗談交じりに言う。しかし、シニアリーグの選手たちの手さばきは、先ほどにも増して速い。選手たちはさすが中学生ということだけあってゲームのマナーがいい。自分の番が終われば、手のひらを相手に差し出して、それを伝える。受けた相手はしっかりと頷いて、それから山札からカードを1枚引く。そんなふうにすべての行動が落ち着いている。

シニアリーグ決勝トーナメント進出者

	氏名	大会名
Aブロック1位	高田康行選手	マサラカップ 午後の部1位
Bブロック1位	谷野宏彰選手	シオンカップ 午前の部2位
Cブロック1位	一海達郎選手	ニビカップ 1/11午前の部1位
Dブロック1位	小田直輝選手	クチバカップ 午前の部2位



一海選手のデッキは『化石の秘密』のブーバーを中心にHPの高いポケモンが多い。ガルーラは、第1回公式トーナメント大会出場時から欠かさず入れている。

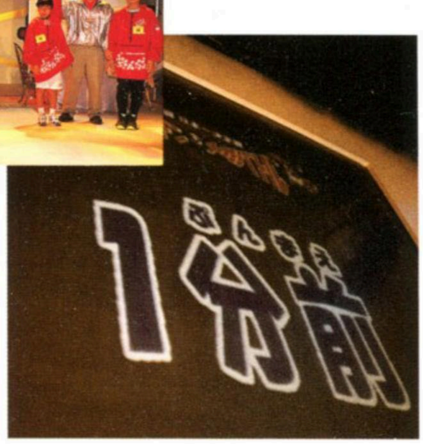


小田選手のデッキの主力ポケモンは『化石の秘密』のブーバー。炎ポケモンの中で唯一、「どく」効果のあるワザを使えるところがお気に入りの理由だ。





準決勝を終えたところで、簡単なインタビューが行われた。こちらはジュニアリーグ





決勝進出を果たした選手の腕を、ポケモンカードマスターが高く上げる。こちらはシニアリーグ

高田選手は谷野選手のメタモンに対し、オニスズメをバトル場に出す。すでに60ダメージを受けていたメタモンは、くいしんぼカビゴンからHP50のオニスズメへと「へんしん」して、その場で「きぜつ」となる。谷野選手はストライク、ケンタロスとバトル場のポケモンを的確なタイミングで入れ替えて、逆転のチャンスを狙っている。テクニカルなプレイの応酬に、解説席から驚きの声が上がる。「谷野くんが非常にいいねばりを見せています」。感心したように石原プロデューサーが言う。「本当に高度なプレイですね」と高橋カードマスター代表が受ける。

一海選手と小田選手の対戦は一進一退。お互いにエレブーやブーバー、ストライクを主力にしたデッキを使っているために、まさに正面からぶつかりあっている。

圧巻なのは、一海選手のカードさばきの速さ。山札を引くやいなや、何枚ものトレーナーカードを使い、エネルギーカードをポケモンにつけ、そしてワザを使う。その間に要する時間は、ほんの数秒なのだ。その迫力に負けじと小田選手もスピーディなプレイに徹している。

先に結果が出たのは、一海選手と小田選手の試合だ。「5、4、3……」。司会者のカウントダウンとともに、高田選手と谷野選手の試合も終了する。「非常に戦略性が高い試合でした。こうなれば、どっちが勝ってもおかしくはないですね」。石原プロデューサーの温かな言葉で、準決勝は幕を閉じた。

準決勝の結果

準決勝戦から決勝戦へ

ジュニアリーグ
国分荘輔選手
平田峻選手

シニアリーグ
高田康行選手
一海達郎選手

準決勝戦から3位決定戦へ

ジュニアリーグ
加藤和人選手
窪慎太郎選手

シニアリーグ
谷野宏彰選手
小田直輝選手

シニアリーグ準決勝戦

決勝トーナメントハイライトシーン解説③

高田康行選手　シニア予選リーグAブロック1位

VS

谷野宏彰選手　シニア予選リーグBブロック1位

「雷」デッキと「草」デッキ。トレーナーカードが勝負のカギ

高田選手はバトル場にエレブーを出す。スタート時に場に出せるポケモンはこの1匹のみ。手札には「マサキ」、「オーキドはかせ」と、サポートできるトレーナーカードがある。対する谷野選手はバトル場にメタモン、ベンチにフシギダネを出す。ひとまずはメタモンの特殊能力「へんしん」で高田選手のバトル場のポケモンに対抗し、その間にベンチのフシギダネを進化させていくのが目標となる。高田選手は雷ポケモンを中心としたデッキ、谷野選手は草ポケモンを中心としたデッキを使用している。お互いに弱点・抵抗力は特に影響はない。セット状態での手札では高田選手の方が充実しているように見えるが、お互いの選手のトレーナーカードの山札からのひき方、使い方によって、状況は変わってくる。

スタート時のセット状態

高田康行選手



手札
「オーキドはかせ」
「マサキ」
「突風」
「雷」エネルギー
「無色2個エネルギー」×2

バトル場
エレブー

手札
「マサキ」
「超エネルギーリムーブ」
「ダウジングマシーン」
「草」エネルギー
「無色2個エネルギー」

バトル場
メタモン

ベンチ
フシギダネ

谷野宏彰選手

4手目

谷野宏彰選手の番

フシギソウ、フシギバナをトラッシュして「超エネルギー回収」を使う

2手目に高田選手は谷野選手のフシギダネを「きぜつ」させる。続いてバトル場に出したくいしんぼカビゴンで3手目に「たべる」、4手目に「ころがる」を使い、谷野選手バトル場のメタモンに50ダメージを与える。対する谷野選手はバトル場のメタモンを特殊能力「へんしん」でくいしんぼカビゴンに変身させ、3手目に「たべる」を使い、4手目に無色2個エネルギーをメタモンにつけて「ころがる」を使う。

高田康行選手



谷野宏彰選手

4手目スタート時の谷野宏彰選手のカード

手札		フシギソウ、フシギバナ、「ダウジングマシーン」、「超エネルギー回収」「草」エネルギー×1
バトル場		メタモン（ダメージ60、「草」エネルギー×1、たべものカウンター×1）
ベンチ		ストライク

谷野宏彰選手の行動

❶山札から「草」エネルギーをひく。
❷「超エネルギー回収」を使う（フシギソウ、フシギバナをトラッシュし、「草」エネルギー2枚、「無色2個エネルギー」をトラッシュからひいて手札に加える）。
❸「無色2個エネルギー」をバトル場のメタモンにつける。

ワザを使う

メタモンの特殊能力「へんしん」で、くいしんぼカビゴンのワザ「ころがる」を使う。たべものカウンターを1つとりのぞき、高田選手のバトル場のくいしんぼカビゴンに50ダメージを与える。

解説

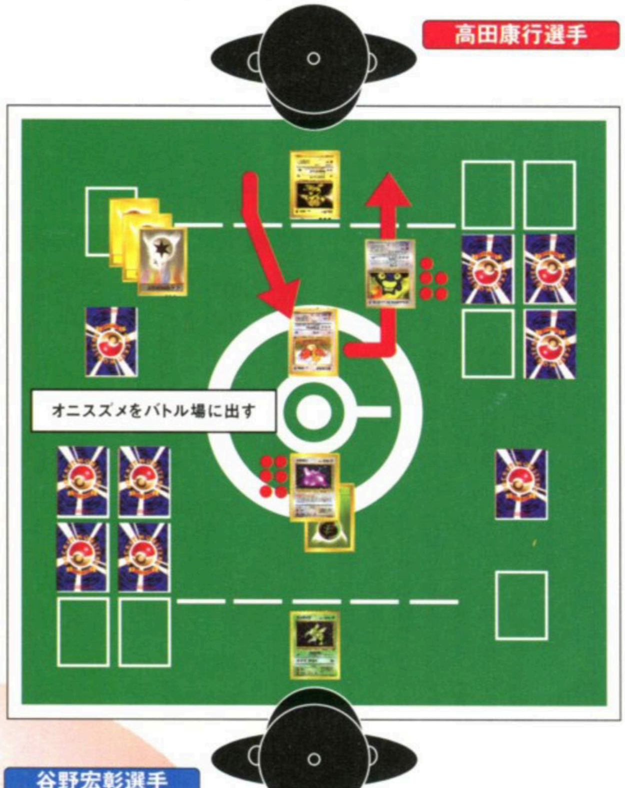
谷野選手は「超エネルギー回収」のために重要な進化カードをトラッシュした。間違いではないけど、トラッシュには「マサキ」があるので、まず「ダウジングマシーン」で「マサキ」をひき、山札からカードをひいてみてもよかっただろう。進化カードをすぐトラッシュするのはもったいない。（高橋伸哉 ポケモンカードマスター代表）



5手目

高田康行選手の番
相手のメタモンの特殊能力「へんしん」を利用して、「きぜつ」させる

高田選手のバトル場のくいしんぼカビゴンは、4手目に谷野選手のメタモンに特殊能力「へんしん」で自分のワザ「ころがる」を使われ、50のダメージを受ける。これに対して5手目、高田選手はくいしんぼカビゴンをベンチににがし、バトル場にオニスズメを出す。すでに60のダメージの谷野選手のバトル場のメタモンは、特殊能力「へんしん」でオニスズメと同じHPである50になることで、「きぜつ」となる。



5手目スタート時の高田康行選手のカード

手札		エレブー、「ダウジングマシーン」、「超エネルギーリムーブ」、「夜の廃品回収」、「雷」エネルギー×2
バトル場		くいしんぼカビゴン（ダメージ50、「雷」エネルギー×1、「無色2個エネルギー」×1）
ベンチ		エレブー、オニスズメ

高田康行選手の行動

❶ 山札からビリリダマ（*R*）をひく。
❷ くいしんぼカビゴンに「雷」エネルギーをつける。
❸ くいしんぼカビゴンをベンチに戻し（「無色2個エネルギー」、「雷」エネルギー×2をトラッシュする）、**オニスズメをバトル場に出す。**谷野選手バトル場のメタモンは「きぜつ」する。
❹ サイドカード、「雷」エネルギーをひく。
❺「夜の廃品回収」を使う（トラッシュから雷エネルギーを3枚ひいて山札にもどす）。

解説 高田選手のナイスプレイが出た。谷野選手の「メタモン」の特殊能力「へんしん」を逆手にとって、メタモンが受けているダメージより、HPが低いポケモンをバトル場に出しメタモンを「へんしん」させ「きぜつ」させるテクニックだ。「メタモン」は特殊能力「へんしん」により強いポケモンのように感じるが、このように相手に操作される場合もあるので注意が必要だ。（高橋）

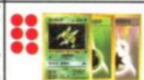
10手目

谷野宏彰選手の番
「オーキドはかせ」を使い、ケンタロスをひいてベンチに出す

谷野選手は、メタモンが「きぜつ」した後、たねポケモンをひいてこれず、ベンチに控えを出すことができない状況が続く。10手目、谷野選手は「オーキドはかせ」をひく。そして「オーキドはかせ」を使い、ひいてきたケンタロスに「無色2個エネルギー」をつけ、バトル場のストライクといれかえる。続いてケンタロスのワザ「ふみつけ」を使い、高田選手のバトル場のくいしんぼカビゴンを「きぜつ」させる。



10手目スタート時の谷野宏彰選手のカード

手札		フシギソウ、「無色2個エネルギー」
バトル場		ストライク（ダメージ60、「草」エネルギー×1、「無色2個エネルギー」×1）
ベンチ		

谷野宏彰選手の行動

❶ 山札から「オーキドはかせ」をひく。
❷「オーキドはかせ」を使う（ケンタロス、「無色2個エネルギー」、「超エネルギーリムーブ」、ラッキー、「草」エネルギー3枚をひく）。
❸ ケンタロスをベンチに出す。
❹ ケンタロスに「無色2個エネルギー」をつける。
❺ ストライクをベンチに戻し、ケンタロスをバトル場に出す。

ワザを使う

ケンタロスのワザ「ふみつけ」を使い、高田選手のバトル場のくいしんぼカビゴンを「きぜつ」させる。

解説 ここは難しい状態の谷野選手。この場面では「ラッキー」に「無色2個エネルギー」をつけてワザ「まるまる」を使い、手数をかせいでもいいかもしれない。「超エネルギーリムーブ」で高田選手のくいしんぼカビゴンを止めておくのも手だ。ここは攻撃にいかず、防御にまわり様子を見たい。しかし、攻撃に出てもミスじゃないぞ。（高橋）

シニアリーグ準決勝戦

決勝トーナメントハイライトシーン解説④

小田直輝選手
シニア予選リーグDブロック1位

VS

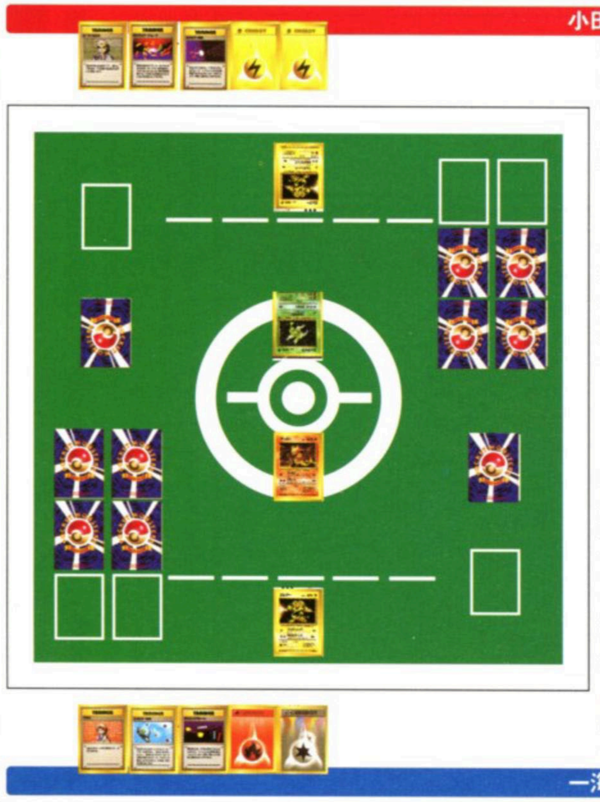
一海達郎選手
シニア予選リーグCブロック1位

デッキ構成が似ている選手同士の対戦

小田選手はバトル場にストライク、ベンチにエレブーを出す。対する一海選手はバトル場にブーバー、ベンチにエレブーを出す。この2人の選手は、デッキの内容が非常に似ている。お互いにHP70のたねポケモンを中心に、スピードとパワーを追求したデッキ構成となっているため、互角の試合展開が予想される。デッキ、プレイヤーのテクニックがほぼ変わらない場合、ちょっとしたミスが勝敗を分ける。両選手とも手札は充実しており、攻めつつ相手の様子を見ることができる理想的な状態だ。弱点、抵抗力による影響では、一海選手のブーバーが小田選手のストライクの弱点をつけるが、そう簡単には狙わせてくれないだろう。どちらの選手が対戦の流れをつかむか、注目の対戦となる。

スタート時のセット状態

小田直輝選手



手札
「オーキドはかせ」
「超エネルギーリムーブ」
「エネルギー回収」
「雷」エネルギー×2

バトル場
ストライク

ベンチ
エレブー

手札
「マサキ」
「エネルギー転送」
「ダウジングマシーン」
「炎」エネルギー
「無色2個エネルギー」

バトル場
ブーバー

ベンチ
エレブー

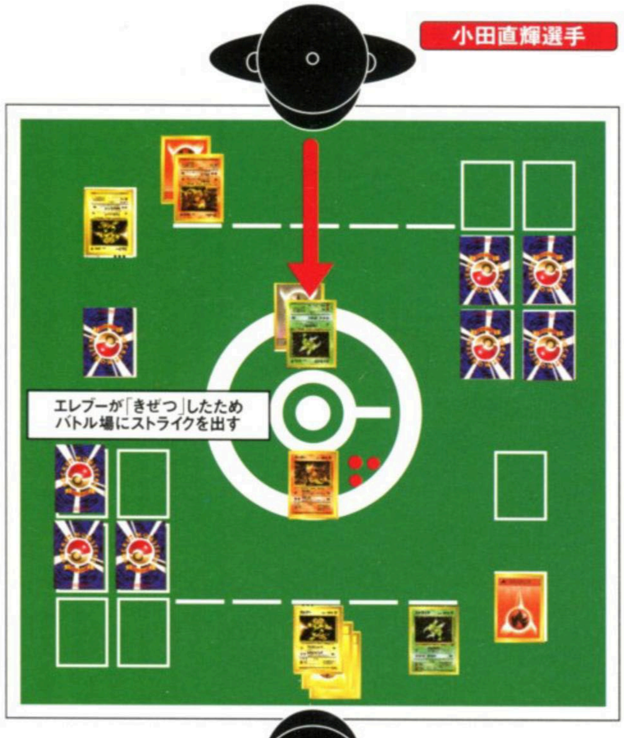
一海達郎選手

4手目 一海達郎選手の番

ブーバーのワザ「スモッグ」の「どく」効果で、エレブーを「きぜつ」させる

対戦は一海選手のバトル場のブーバーに対して小田選手のバトル場がエレブーというお互いに特殊効果のあるワザを持ったポケモン同士でスタートした。3手目、一海選手はバトル場のブーバーのワザ「スモッグ」を使い、小田選手バトル場のエレブーを「どく」状態にする。4手目終了時のポケモンチェックでエレブーは「どく」によるダメージが追加され、「きぜつ」となる。小田選手はバトル場にストライクを出す。

小田直輝選手



一海達郎選手

4手目スタート時の一海達郎選手のカード

手札		「ダウジングマシーン」、「超エネルギー回収」、「雷」エネルギー、「無色2個エネルギー」
バトル場		ブーバー（ダメージ30）
ベンチ		エレブー（「雷」エネルギー×1）、ストライク

一海達郎選手の行動

❶山札からガルーラをひく。

❷「雷」エネルギーをベンチのエレブーにつける。

ポケモンチェック

小田選手のバトル場のエレブーに「どく」による10ダメージが追加されて、「きぜつ」する。
小田選手はバトル場にストライクを出す。

解説



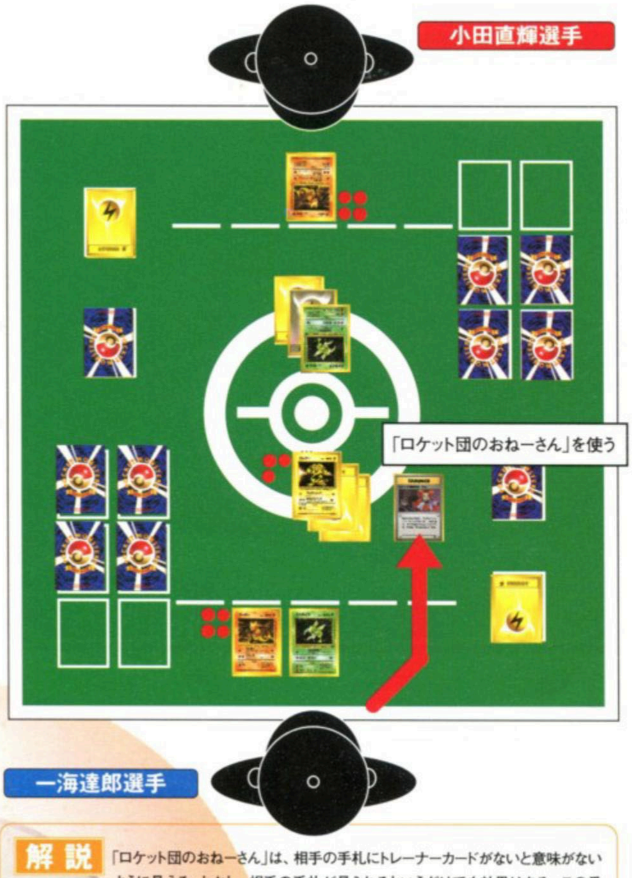
バトル場のポケモンが「きぜつ」した場合は、ベンチからにげるためのエネルギーが0のポケモンをとりあえず出しておくと良い。山札を引いて、そのカードを確かめてからバトル場のポケモンは「にげる」をして、その場に応じたポケモンを出しても遅くはないだろう。（高橋伸哉 ポケモンカードマスター代表）

6手目

一海達郎選手の番

「ロケット団のおねーさん」を使い、相手の手札をチェックする

5手目で小田選手がバトル場のブーバー( )のワザ「えんまく」を使えば、対する一海選手はバトル場のブーバー( )をにがし、エレブーのワザ「かみなりパンチ」を使う。6手目に入ると今度は小田選手がバトル場のブーバー( )をにがしてストライクをバトル場に出し、ワザ「きりさく」を使う。次々といれかわるお互いの選手のバトル場。6手目、一海選手は手札の「ロケット団のおねーさん」を使う。



6手目スタート時の一海達郎選手のカード

手札		ガルーラ、「オーキドはかせ」、「ダウジングマシーン」、「ロケット団のおねーさん」、「超エネルギー回収」、「無色2個エネルギー」
バトル場		エレブー(ダメージ30、「雷」エネルギー×2)
ベンチ		ブーバー( )(ダメージ40)、ストライク

一海達郎選手の行動

❶山札から「オーキドはかせ」をひく。
❷「ロケット団のおねーさん」を使う(小田選手の手札にはトレーナーカードが無く、無効になる)。
❸ガルーラをベンチに出す。
❹「超エネルギー回収」を使う(「ダウジングマシーン」、「無色2個エネルギー」をトラッシュして、「炎」エネルギー2枚、「雷」エネルギーをトラッシュからひいて手札に加える)。
❺ベンチのストライクに「炎」エネルギーをつける。
❻「オーキドはかせ」を使う(ストライク、「オーキドはかせ」、「炎」エネルギー、ガルーラ、エレブー、「超エネルギーリムーブ」、ラッキーを引く)。
❼「超エネルギーリムーブ」を使い、ベンチのストライクの「炎」エネルギーをトラッシュして、小田選手のバトル場のストライクについている「無色2個エネルギー」、「雷」エネルギーをトラッシュさせる。

ワザを使う

エレブーのワザ「かみなりパンチ」を使い、ストライクに30ダメージを与える。ただし、コイン判定に失敗し、エレブーにも10ダメージ。

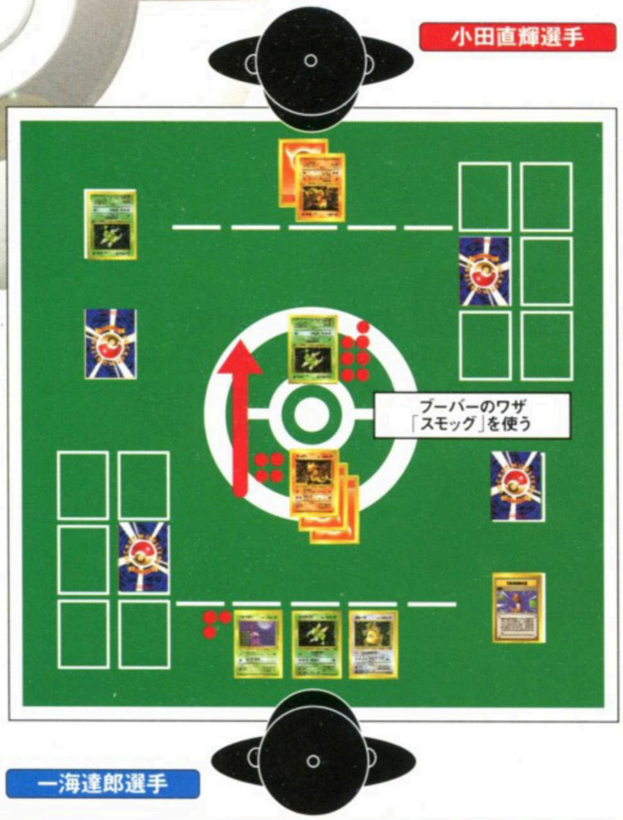
解説 「ロケット団のおねーさん」は、相手の手札にトレーナーカードがないと意味がないように見える。しかし、相手の手札が見られるというだけでも効果はある。この番の一海選手の場合も、「オーキドはかせ」を使う場面なので、残りの手札をトラッシュする前に使ってしまおうというタイミングのため、決してムダにはなっていない。(高橋)

14手目

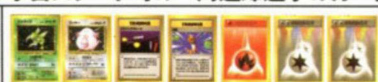
一海達郎選手の番

「突風」を使い、ストライクを呼び出し、「きぜつ」させる

一海選手、小田選手ともに相手のポケモンを3匹ずつ「きぜつ」させ、お互いのサイドカードが残り1枚で迎えた14手目。一海選手は、「突風」を使い、小田選手のバトル場のブーバー( )とベンチのストライクをいれかえさせる。そしてのブーバー( )のワザ「えんまく」を使い、小田選手バトル場のストライクを「きぜつ」させる。最後の1枚のサイドカードをひき、一海選手の勝利となる。



14手目スタート時の一海達郎選手のカード

手札		ストライク、ラッキー、「ダウジングマシーン」、「突風」、「炎」エネルギー、「無色2個エネルギー」×2
バトル場		ブーバー( )(ダメージ40、「炎」エネルギー×2)
ベンチ		ベトベター(ダメージ30)、ストライク、ガルーラ

一海達郎選手の行動

❶山札からベトベトンをひく。
❷ブーバー( )に「無色2個エネルギー」をつける。
❸ブーバー( )をベンチに戻し(「無色2個エネルギー」をトラッシュ)、バトル場にストライクを出す。
❹ストライクをベンチに戻し、ブーバー( )(「炎」エネルギー2枚つき)をバトル場に出す。
❺「突風」を使い小田選手のバトル場のブーバー( )とベンチのストライクをいれかえさせる。

ワザを使う

ブーバーのワザ「スモッグ」を使い、小田選手のバトル場のストライクに40ダメージを与え、「きぜつ」させる。

解説 小田選手と一海選手のデッキのように、ほぼ互角のデッキで対戦した場合はポケモンを操作するタイミング、トレーナーカードを使うタイミング、つまりプレイヤー自身の技術で差が出てくると言ってもいいだろう。当然「運」もあるけれど。今回はトレーナーカードを使うタイミングで一海選手がわずかにリード、勝利を手にした。(高橋)





ジュニアリーグ Junior League

窪慎太郎選手 VS 加藤和人選手



胸に秘めた闘志

日本一決定戦 リザードンメガバトル 3位決定戦



ジュニアリーグとシニアリーグ。ふたつの3位決定戦が同時に始まった。試合前の握手ではお互いに握った手を離さずに、体を引っ張りあって遊んでいた加藤和人選手と窪慎太郎選手。しかし対戦となるとさすがに真剣な表情に変わる。「ジュニアの選手もシニアの選手も緊張しているかもしれないけど、誰も手を間違えないんですよ。これはすごいですよね」と石原プロデューサーは驚きの声を上げる。「非常に冷静に判断しているようですね」と高橋カードマスター代表が受ける。

ジュニアリーグの窪選手はさかんに攻めこんでいる。ゼニガメをカメックスに進化させようとトレーナーカードを駆使しているため、トラッシュに見る見るうちにカードが溜まっていく。加藤選手はエネルギーカードが不足気味で、主力のラッキーやストライクを育てることができずにいる。

かたやシニアリーグ。小田直輝選手はバトル場のポケモンが「エネルギー・リムーブ」でエネルギーカードをはがされたり、「どく」の効果を受けるたびに、ベンチの控えポケモンといれかえる。万全の態勢を貫こうとしているのだ。谷野宏彰選手はメタモンやラッキー

●シニアリーグ

Senior League

VS 谷野宏彰選手 小田直輝選手





第3位の座をめざして、

高レベルの対戦が続く







を育て、中盤から終盤での逆転を狙う。

試合が終わったあと、簡単なインタビューが行われた。ジュニアリーグ第3位の座を獲得した窪選手は「ちょっとだけ嬉しいです」とひと言。胸の中には嬉しさと悔しさが同じくらいにあるようだ。加藤選手は、疲れのために放心状態。司会の質問に、コクンと頷いて答えた。

シニアリーグ第3位となった小田選手は「一海くんのような強い人と出会えて嬉しかった」とさわやかに語る。谷野選手は「くやしい。でもここまでこれて嬉しいです」と気持ちを率直に語る。

「みんな本当に最高のレベルですよ。ここまできたらみんな優勝でもいいくらいです」。

石原プロデューサーが4人の健闘を称えた。

ジュニアリーグ3位決定戦

決勝トーナメントハイライトシーン解説⑤

ジュニア予選リーグAブロック1位 加藤和人選手 VS ジュニア予選リーグDブロック1位 窪慎太郎選手

窪選手のカメックスへの進化が勝敗を分ける

加藤選手はバトル場にストライク、ベンチにはラッキーを出す。どちらのポケモンもワザを使うために必要なエネルギーが多めなので、山札からひいてくるエネルギーが頼りとなる。手札にある「エネルギー・リムーブ」を使うなどして窪選手の手数をかせぐのもひとつの方法といえる。窪選手はバトル場にバリヤード(◉)を出す。水ポケモンを中心としたデッキなのだが、手札にある水ポケモンは2進化カードのカメックスだけで、サポートとしていれていたバリヤード(◉)しか場に出すことができない。しかし、手札のトレーナーカードが充実しているので、すばやくゼニガメをひき、カメール、カメックスへと進化させることは難しいことではない。お互いのデッキには、弱点・抵抗力は特に影響しない。

スタート時のセット状態



1手目 窪慎太郎選手の番

カメックスへの進化をねらったすばやいカードさばき

加藤選手のバトル場がストライク、窪選手のバトル場がバリヤード(◉)でスタートしたジュニアリーグ3位決定戦。加藤選手のベンチにはラッキーが出ているのに対し、窪選手のベンチには控えのポケモンがいない。1手目、窪選手は「パソコン通信」を使い、ゼニガメ(◉)をベンチに出す。続いて「オーキドはかせ」、「ダウジングマシーン」、「パソコン通信」を使い、カメールを手札に加える。



1手目スタート時の窪慎太郎選手のカード

手札		
バトル場	 バリヤード(◉)	カメックス、「オーキドはかせ」、「パソコン通信」、「ダウジングマシーン」、「ロケット団のおねーさん」、「水」エネルギー
ベンチ		

窪慎太郎選手の行動

❶山札から「プラスパワー」をひく。
❷「ロケット団のおねーさん」を使い、加藤選手の手札の「超エネルギーリムーブ」を山札にもどさせる。
❸「パソコン通信」を使う(「水」エネルギー、「ダウジングマシーン」をトラッシュして、山札からゼニガメ(◉)をひいて手札に加える)。
❹ゼニガメ(◉)をベンチに出す。
❺「オーキドはかせ」を使う(ゼニガメ、ゼニガメ(◉)「オーキドはかせ」、「ダウジングマシーン」、「プラスパワー」、「水」エネルギー2枚を引く)。
❻「ダウジングマシーン」を使う(ゼニガメ　、「水」エネルギーをトラッシュし、「パソコン通信」を引く。
❼「パソコン通信」を使う(「プラスパワー」、ゼニガメ(◉)をトラッシュして、山札からカメールを手札に加える)。

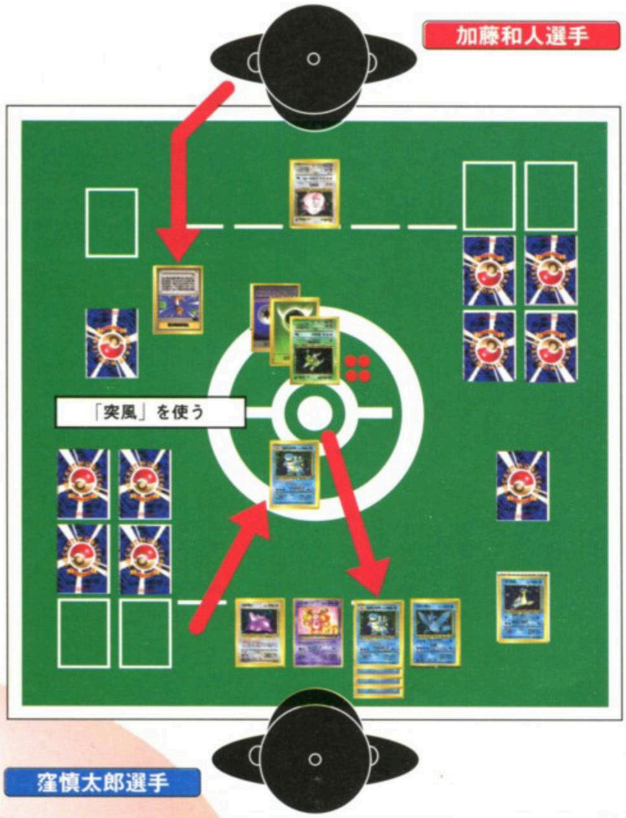
解説 この番の窪選手のプレイングはすごい！　ゼニガメをカメックスに進化させることに集中し、必要なカードと不必要なカードを見事に判断している。デッキの中心になるゼニガメやカメックスをもトラッシュするのには驚かされるけど、まだ十分ひいてこれるという自信が、見て感じ取れる。(高橋伸哉 ポケモンカードマスター代表)



5手目 加藤和人選手の番

「突風」を使い、エネルギーのついていないカメックスをバトル場に出させる

3手目、窪選手は、早くもバトル場のゼニガメをカメックスへと進化させる。加藤選手は4手目で「エネルギー・リムーブ」を使い、カメックスの「水」エネルギーをトラッシュさせる。対する窪選手は「オーキドはかせ」「パソコン通信」を使い「水」エネルギーを手札に入れ、カメックスの「あまごい」を使う。5手目加藤選手は、「突風」を使い、バトル場のカメックスとベンチのエネルギーカードのついていないカメックスをいれかえさせる。



5手目スタート時の加藤和人選手のカード

手札	ストライク、ベトベトン、ラッキー、「エネルギー回収」
バトル場	ストライク（ダメージ40、「草」エネルギー×1、「なんでもなおし配合」エネルギー×1
ベンチ	ラッキー

加藤和人選手の行動

❶山札から「突風」をひく。

❷「突風」を使い、窪選手のバトル場のカメックス（「水」エネルギー3枚つき）とベンチのカメックス（エネルギーカードなし）をいれかえさせる。

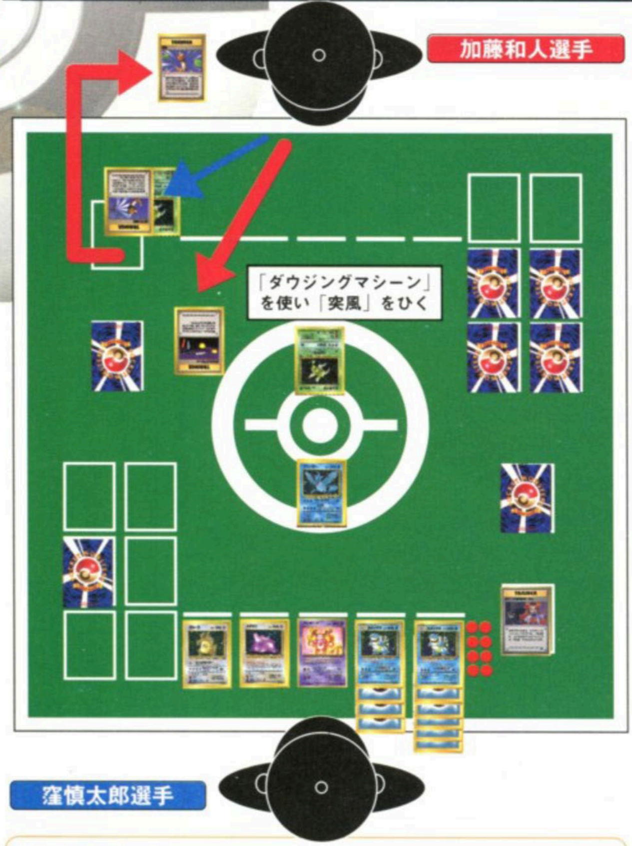
ワザを使う エビワラーのワザ「ジャブ」で相手のラッキーに50ダメージを与える

解説 ポケモンはいるけどエネルギーカードが足りないという状態の加藤選手。トレーナーカードに頼りすぎてエネルギーバランスが少しくずれているデッキによくある現象だ。勝つためにデッキの一部分に力を入れるよりも、デッキの全体的なバランスを取るのも必要なことだぞ。（高橋）

10手目 加藤和人選手の番

「ダウジングマシーン」を使い、「突風」をひく

窪選手は、カメックスのワザ「ハイドロポンプ」を使い、加藤選手のバトル場のポケモンを次々と「きぜつ」させていく。対する加藤選手は、バトル場のラッキーのワザ「すてみタックル」を使い、カメックスに80ダメージをあたえるが、そのラッキーも「きぜつ」させられてしまう。10手目、加藤選手は「ダウジングマシーン」を使い「突風」をひく。そして「突風」を使い、窪選手のバトル場のカメックスとベンチのフリーザーをいれかえさせる。



10手目スタート時の加藤和人選手のカード

手札	「ポケモン回収」、「なんでもなおし配合エネルギー」
バトル場	ストライク
ベンチ	

加藤和人選手の行動

❶山札から「マサキ」をひく。

❷「マサキ」を使う（ストライク、「マサキ」をひく）。

❸「マサキ」を使う（「ダウジングマシーン」と「超エネルギーリムーブ」をひく）。

❹「ダウジングマシーン」を使う（ストライク、「ポケモン回収」をトラッシュに捨て、「突風」をトラッシュからひいて手札に加える）。

❺「突風」を使い、窪選手のバトル場のカメックスと、ベンチのフリーザーをいれかえさせる。

解説 もう後がない加藤選手、ここで「突風」を持ってきて使うのはうまいプレイだ。ふだんは攻撃のサポートとして使われる「突風」だが、このように相手の「にげる」ためのエネルギーが多く必要なポケモンをバトル場に呼び出して、ターンをかせぐ防御的な使い方もできるんだ。相手に「ポケモンいれかえ」があったら意味がないけれど……。（高橋）

シニアリーグ3位決定戦

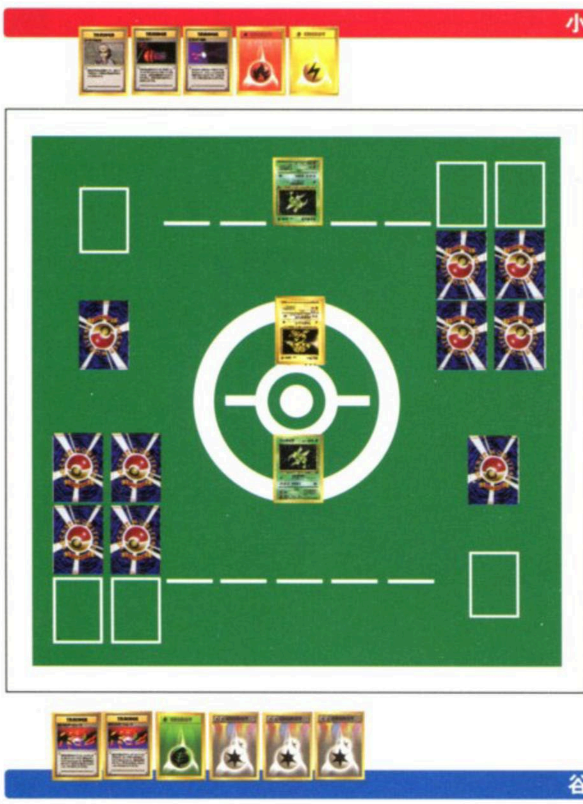
決勝トーナメントハイライトシーン解説⑥

小田直輝選手 VS 谷野宏彰選手

シニア予選リーグDブロック1位

シニア予選リーグBブロック1位

スタート時のセット状態



手札

「オーキドはかせ」
「超エネルギーリムーブ」
「エネルギー回収」
「炎」エネルギー
「雷」エネルギー

バトル場

エレブー

ベンチ

ストライク

手札

「超エネルギーリムーブ」×2
「草」エネルギー
「無色2個エネルギー」×3

バトル場

ストライク

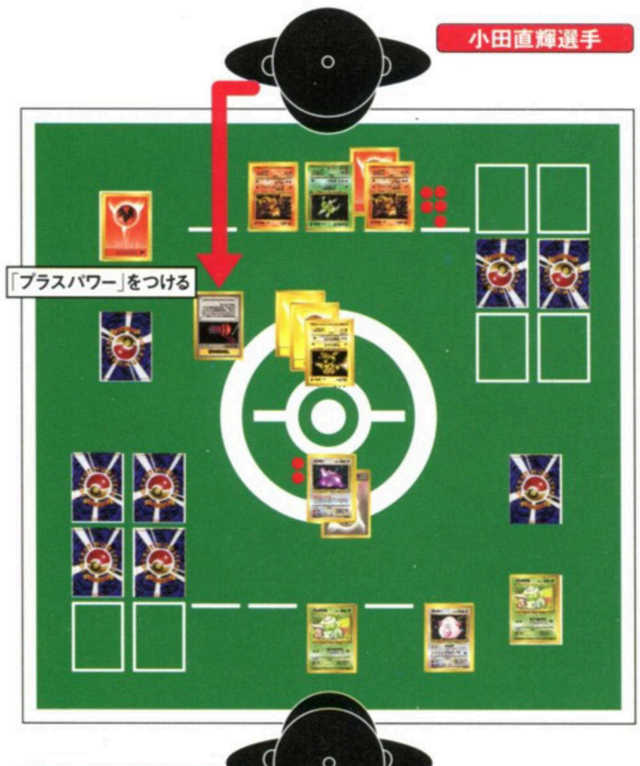
使うべきタイミングが難しいカードをいかに上手く使うか

小田選手はバトル場にエレブー、ベンチにストライクを出す。ここでは逆に「にげる」ためのエネルギーが0のストライクをバトル場に出しておき、谷野選手のバトル場のポケモンを確認してからポケモンをいれかえるというのもひとつの考え方といえる。対する谷野選手はバトル場にストライクを出す。スタート時に場に出せるポケモンはこの1匹のみ。小田選手の手札には、エネルギーカード、トレーナーカードともにそろっている。谷野選手の手札は、便利なカードが多く見えるが、使いにくい手札ともいえる。3枚の「無色2個エネルギー」と2枚の「超エネルギーリムーブ」。どちらのカードも使うタイミングが難しいからだ。スタート状態では小田選手の方が全体的に進めやすいカードを持っている。

8手目 小田直輝選手の番

「プラスパワー」をつけて、エレブーのワザ「かみなりパンチ」を使う

小田選手は、3手目以降バトル場にブーバー( )を出し、弱点をついた攻撃で谷野選手のバトル場のストライク、フシギダネを「きぜつ」させる。8手目、谷野選手のバトル場のメタモンに苦戦する小田選手は、バトル場のブーバー( )とベンチのエレブーをいれかえる。そして、「雷」エネルギー、プラスパワーをつけ、ワザ「かみなりパンチ」を使い、谷野選手のバトル場のメタモンを「きぜつ」させる。



8手目スタート時の小田直輝選手のカード

手札	ブーバー( )、「超エネルギーリムーブ」、「雷」エネルギー×3、「無色2個エネルギー」×1
バトル場	ブーバー( )（ダメージ50、「どく」状態、「炎」エネルギー×2）
ベンチ	ストライク、エレブー（「雷」エネルギー×1）

小田直輝選手の行動

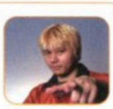
1. 山札から「プラスパワー」をひく。
2. ブーバー( )をベンチに戻し（「炎」エネルギーを1枚トラッシュする）ベンチのエレブー（「雷」エネルギー1枚付き）をバトル場に出す。
3. ベンチにブーバー( )を出す。
4. バトル場のエレブーに、「雷」エネルギー、「プラスパワー」を1枚つける。

ワザを使う

エレブーのワザ「かみなりパンチ」を使い、谷野選手のバトル場のメタモンに40ダメージを与える。さらにコイン判定に成功し10ダメージを与える。このときメタモンのダメージは合計で80となる。メタモンは特殊能力「へんしん」でHP70のエレブーになっているため、「きぜつ」となる。

解説

ここでの「プラスパワー」だが、これはかなりバクチ的な使い方だ。「エレブー」のワザ「かみなりパンチ」のコイントスで「おもて」が出ないと意味がなくなってしまう。無茶な行為と思われがちだが、この小田選手のチャレンジ精神は高く評価したい。成功したときの嬉しさは、普通にプレイしていては絶対に味わえないのだ。（高橋伸哉 ポケモンカードマスター代表）



10手目 小田直輝選手の番

エレブーのワザ「でんきショック」を使う

谷野選手は8手目にバトル場のメタモンが「きぜつ」してからなかなか思うカードをひいてくることができない。バトル場にラッキーを出したものの、エネルギーカードをひいてくることができず、ワザを使えない。

それに対して小田選手は、追い討ちをかけるように9手目、10手目にエレブーのワザ「でんきショック」を使い、谷野選手のバトル場のラッキーにダメージを与えていく。



10手目スタート時の小田直輝選手のカード

手札	「ギャンブラー」、「超エネルギーリムーブ」、「雷」エネルギー×2、「無色2個エネルギー」
バトル場	エレブー(「雷」エネルギー×2)
ベンチ	ストライク、ブーバー(☆) (ダメージ50、「炎」エネルギー×1)、ブーバー(☆) (「炎」エネルギー×1)

小田直輝選手の行動

❶山札から「超エネルギーリムーブ」をひく。

❷「雷」エネルギーをベンチのストライクにつける

ワザを使う

エレブーのワザ「でんきショック」を使い、ラッキーに10ダメージを与える。コイン判定は失敗し、「マヒ」の効果はなし。

解説 この場面ではエレブーには「かみなりパンチ」を使いにいってほしい。小田選手にとってはここが攻めどき、自分へのダメージが恐いかもしれないが、ここでガンガン攻めておかないと、相手に余裕を与えてしまうことになる。タイミングを逃すと勝利も遠のいてしまうぞ。攻めどき、守りどきを頭の中で考えながらプレイをしよう。(高橋)

13手目 谷野宏彰選手の番

「ポケモンセンター」を使い、ダメージカウンターをすべてとりのぞく

10手目以降も、山札からひくカードに恵まれない谷野選手。それに対し小田選手は、バトル場のエレブーのワザ「でんきショック」、「かみなりパンチ」を使い、谷野選手のバトル場のラッキーにダメージを与える。迎えた13手目、次の小田選手の1手でラッキーが「きぜつ」してしまうという状況で、谷野選手は、手札の「ポケモンセンター」を使い、ラッキーにのっているダメージカウンターをすべてとりのぞく。



13手目スタート時の谷野宏彰選手のカード

手札	ストライク、ケンタロス、「ダウジングマシーン」、「ポケモンセンター」
バトル場	ラッキー(90ダメージ)
ベンチ	フシギダネ(「草」エネルギー×1)、メタモン(「無色2個エネルギー」×1)

谷野宏彰選手の行動

❶山札から「草」エネルギーをひく。

❷「ポケモンセンター」を使い、ラッキーにのっているダメージカウンターをすべてとりのぞく。

❸ラッキーに「草」エネルギーカードをつける。

解説 ラッキーのHPの高さをうまく使い、相手の攻撃を受けたのちに「ポケモンセンター」で回復する。よく使われる手段だけど、「プラスパワー」を使われたりして思わぬところで「きぜつ」してしまう場合もある。どのくらいのダメージなら受けきれるかを細かく計算しつつ、タイミングよくトレーナーカードを使っていこう。(高橋)

めざせ ポケモンカードマスター

日本一決定戦 リザードンメガバトル決勝戦



荘厳な音楽が鳴り響く中 4人の選手たちは ゴールドテーブルに座り 対戦相手と向かい合った

ついにこの時がきた──。午後3時15分。大勢の観客が見守る中、メインステージの壇上では、リザードンメガバトル決勝戦が始まろうとしていた。準備のため選手たちがいったん奥へと移動したステージの上では、石原恒和プロデューサーと高橋伸哉カードマスター代表によって、ジュニアリーグとシニアリーグの4人の選手たちのデッキの解説が行われている。

デッキの傾向は、まさに四者四様。それぞれに個性的なデッキから、相当の研究のあとが伺える。巨大スクリーンにまたひとつ新しいデッキが映し出されるたびに、観客席から驚きの声が上がる。

デッキ解説が終わると、一転して荘厳な音楽が鳴り響き、選手たちの名前が読み上げられる。「ジュニアリーグ代表、国分荘輔君！　平田峻君！　シニアリーグ代表　高田康行君！　一海達郎君！」。舞台中央に集まった選手たちは、今まで以上に緊張した表情をしている。高まるムードの中、4人の選手たちは、この決勝戦だけに使用されるゴールドテーブルに腰をおろし、対戦相手と向かい合った。



平田峻選手 VS 国分荘輔選手

日本一決定戦
リザードンメガバトル

決勝戦 Junior League ジュニアリーグ

わずか51秒の心理戦

平田峻選手は試合前のインタビューに答えて「決勝に上がれて本当に嬉しいです」と言い、国分選手は「メインステージの裏で、ゲームをどう進めようかとずっと考えていました」と語った。ふたりは試合前の握手では、お互いの健闘を称えあうかのように、腕を大きく揺さぶり、嬉しそうに微笑みあった。平田選手は自分のカードの1枚1枚を、スリーブと呼ばれる透明のケースでカバーしている。かたや国分選手は背面が黒いブラックスリーブを使用している。

「さあ、1万人の頂点が今決まります！」。司会者の宣言とともに、決勝戦がスタートした。

メインステージの上では舞台を左右に分けて、ジュニアリーグとシニアリーグの決勝戦が同時に繰り広げられている。緊張しきったムードをときほぐすかのように、さっそく解説が始められる。

「内山さん、神戸マサラカップから半年間付き合ってきた最後の瞬間ですよ」と石原プロデューサーが語りかける。「感慨深いですね。もしかしたら、私の方が緊張しているかもしれません」と内山雅子さんは感極まった声で答える。

国分荘輔選手と平田峻選手の決勝戦は、相手の行動の先の先までを読みあう上級者ならではの心理戦となった。平田選手は手札の中の唯一のたねポケモンであるラッキーをバトル場に出す。国分選手も同じように、ただ一枚のたねポケモンであるストライクを、バトル場に出した。



決勝戦直前。カメラマンが向けたレンズを見つめる国分荘輔選手。



大勢の観客が注目する中、マイペースで対戦を続ける平田峻選手。













平田選手は、まず最初に迷うことなくラッキーに「無色2個エネルギー」をつける。続いて使った「マサキ」で、さらにもう一枚の「無色2個エネルギー」と、くいしんぼカビゴンをひいてきた。対する国分選手はラッキーのワザ「すてみタックル」を警戒し、「突風」を使って、平田選手のくいしんぼカビゴンをベンチからバトル場に呼び出した。まだエネルギーカードがついていなく、にげるためのエネルギーも多く必要なくいしんぼカビゴンをバトル場に呼び出して足止めをする作戦だ。

国分選手の手札には、たねポケモンがいない。またストライクを効果的に育てるための「無色2個エネルギー」もない。そう考えた国分選手は、「パソコン通信」を使って、山札の中から「オーキドはかせ」をひいてきた。この「オーキドはかせ」を使うタイミングこそが、勝敗を分けるすべての鍵だった。平田選手のバトル場には、まだエネルギーのついていないくいしんぼカビゴンがいる。ここで「オーキドはかせ」を使うべきか、それとも2枚の「プラスパワー」を活かすために、もう1ターン待って、手札を引いてから考えるべきか。国分選手の頭の中では、これまでの対戦で起きた数々のシーンが駆けめぐったに違いない。そして導き出された答えが「あともう少し待つ」だった。それは大きな賭けだった。

対する平田選手は、「ポケモンいれかえ」を使い、ラッキーをバトル場に出し、間髪入れずに無色2個エネルギーをラッキーにつける。そして「すてみタックル」を使った。ストライクが「きぜつ」し、国分選手の場からポケモンがいなくなった。平田選手の勝利だ。シニアリーグの対戦に目を奪われていた解説席から「ええっ、もう終わったの?」と驚きの声。このとき試合開始からわずか51秒しか過ぎていなかった。



高田康行選手

日本一決定戦リザードンメガバトル

決勝戦

Senior League シニアリーグ







応酬されるテクニカルプレイ

ジュニアリーグがまれに見る短い試合だったのに対し、シニアリーグは制限時間の10分間をめいっぱい使った試合となった。試合前に行われたインタビューでふたりはこんなふうに答えた。「勝ち負けじゃなくて、いいゲームができればいいです」と一海達郎選手。「一海くんと話をして、友だちになれました」と高田康行選手。ゲームの準備では、高田選手の手馴れたカードさばきが目を引いた。山札から4枚のカードを片手でひき、そのままスッスッとサイドカードの位置に並べる。その動作が実にスムースなのだ。一海選手は気合を入れるために、両手で頬を叩いている。それを何度も何度も繰り返している。

試合が始まった。

一海選手はバトル場にエレブーを、高田選手はビリリダマを出す。

ふたりのプレイは対照的だ。一海選手は山札を引いてからワザを使うまで、アッという間のスピードで行う。前の番の対戦相手の行動を見ながら、その場で自分のプレイを組み立てる。そうして自分の番がきたら、イメージしたプレイを、ほんの短い時間で実行するのだ。かたや高田選手はじっくりと考えるスタイルだ。手札を見て、自分の場を見て、さらに相手の場を見て、もう一度自分の手札を見る。それを繰り返して、最善と思えるプレイを行っているのだ。

高田選手が「夜の廃品回収」を使い終わった後に、解説席から感心した声が上がった。自分で丁寧に切ったあとに、今度







一海達郎選手 V



は一海選手に山札を渡して、さらに切ってもらう。一海選手もごくごく自然に山札を受け取って、数回シャッフルして、高田選手に戻した。フェアなプレイを貫ぬこうとするふたりの姿勢がちょっとした感動を呼び起こしたのだ。

高田選手は、くいしんぼカビゴンのワザ「たべる」を2回繰り返して、ワザ「ころがる」が与えるダメージを80にする。そうして「突風」を使ってベンチにいる一海選手のエレブーを呼び出して、ワザ「ころがる」で確実に「きぜつ」させる。一海選手は、絶妙なタイミングで「オーキドはかせ」を使い、山札から引いてきた「超エネルギーリムーブ」で、高田選手のくいしんぼカビゴンについている2枚のエネルギーカードをはがす。決勝戦のステージにふさわしい上級者ならではのプレイの応酬に、「テクニカルなプレイが炸裂しています！」と高橋カードマスター代表が興奮した口調で言う。巨大スクリーンに映し出された攻防戦を、観客は固唾を飲んで見守っている。

一海選手がブーバーのワザを使って、高田選手のくいしんぼカビゴンを「どく」状態にする。高田選手は「エネルギー・リムーブ」で、ブーバーのエネルギーをはがして応戦。一海選手は追い討ちをかけるように、もう一度、炎エネルギーをブーバーにつけ、ワザ「えんまく」を使う。高田選手は「ポケモン回収」でくいしんぼカビゴンを手札に戻して、「どく」とダメージを回復させる。そして再びくいしんぼカビゴンをベンチに出して、バトル場のストライクといれかえ、バトル場に出す。ただただ唸らされるばかりの駆け引きだ。制限時間がいっぱいに近づくにつれ、ふたりの手はさらに速く、さらに高度になっていく。

「5、4、3……」。司会者がカウントダウンを始めた。このとき、残りのサイドカードの数は一海選手が4枚、高田選手が2枚。一海選手が手札を裏にして、そっとテーブルに置いた。



決勝戦にのぞむ一海達郎選手。右手の甲にはイマクニ?のサインが書かれている。



ときおり口元に手を添え深く考え込んだポーズをしながら、対戦を続ける高田康行選手。



ポケモンカードトレーナー日本一のが決まった

Junior League ジュニアリーグ

日本一決定戦リザードンメガバトル・ジュニアリーグの優勝者は、大阪ハナダカップ出身の平田峻選手となった。

平田選手はグッタリとした表情をしている。それもそのはず。今日1日だけで、7回もの熱戦を繰り広げてきたのだ。司会者から「今の気持ちを誰に伝えたいですか」という質問を投げかけられると、表情はとたんに明るくなった。「大阪の友だちに伝えたいです。優勝したぞ！」と、マイクに向かって、元気いっぱいの声で叫んだ。

準優勝の国分荘輔選手は、さすがに少し残念そうだ。しかし、平田選手がその腕を高く上げたとき、温かい拍手を惜しみなく平田選手に送っていた。

第2回公式トーナメントを振り返れば、500人を超えるプレイヤーが参加したジュニアリーグ。その頂点を掴んだのは、平田峻選手だった。

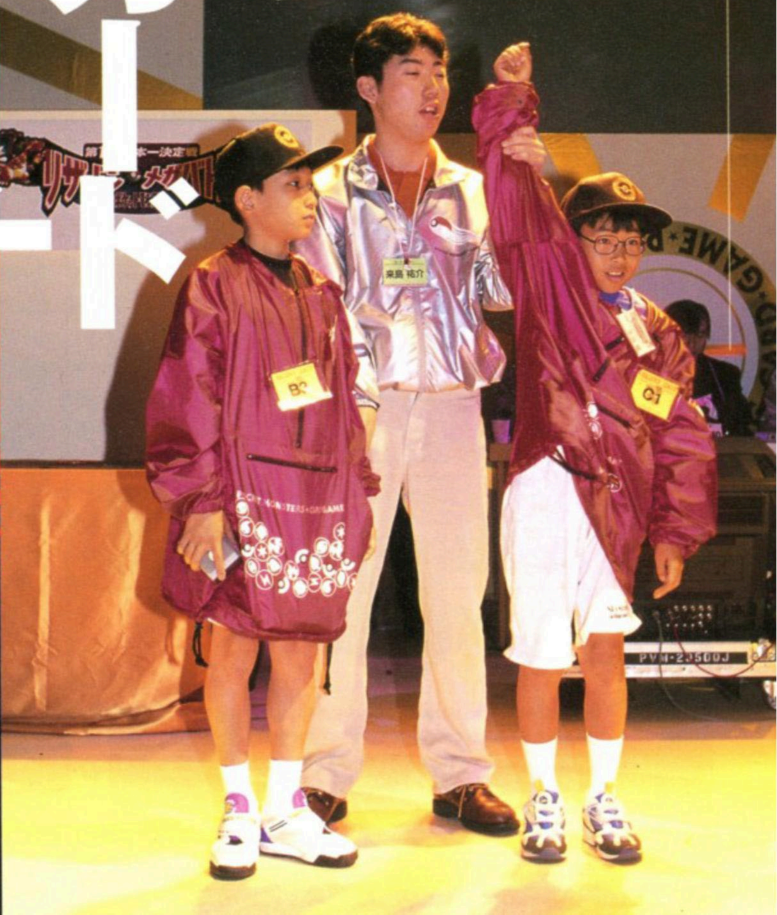
- 窪慎太郎（東京ニビカップ）
- 平田峻（大阪ハナダカップ）
- 国分荘輔（大阪ハナダカップ）
- 加藤和人（北海道シオンカップ）

Senior League シニアリーグ

- 小田直輝（名古屋クチバカップ）
- 一海達郎（東京ニビカップ）
- 谷野宏彰（北海道シオンカップ）
- 高田康行（神戸マサラカップ）

シニアリーグの優勝者は、神戸マサラカップ出身の高田康行選手となった。ステージの前方に立った高田選手は少し照れくさそう。司会者の「勝つと思ってた？」という質問に、「いや、全然」とはにかみながら答えた。準優勝となった一海達郎選手は第1回公式トーナメントと、第2回公式トーナメント・ニビカップで連続優勝を飾ってきた。もちろん日本一決定戦でも優勝を狙っていたのだろう。しかしそれ以上に、高校生になったために、この先に開催される公式トーナメントに出られないことを残念がっているようだ。司会者の質問に「残念です。だけど、精一杯プレイしました」とスポーツマンのように明るく、さわやかに答えた。

約300人のプレイヤーが参加したシニアリーグ。その頂点を掴んだのは、高田康行選手だった。



ジュニアリーグ決勝戦

決勝トーナメントハイライトシーン解説⑦

ジュニア予選リーグCブロック1位
平田峻選手

VS

ジュニア予選リーグBブロック1位
国分荘輔選手

控えポケモンをいかに早くベンチに出すか

平田選手はバトル場にラッキーを出す。スタート時に場に出せるポケモンはこの1匹のみだが、手札には「マサキ」や「パソコン通信」があり、必要なカードをひくことは難しくない。対する国分選手はバトル場にストライクを出す。平田選手と同じくスタート時に場に出せるポケモンはこの1匹のみ。先攻の平田選手は、国分選手が控えのポケモンを出せないようなら「すてみタックル」を狙ってくるだろう。国分選手は手札の「パソコン通信」をうまく使い、少ない手数で控えのポケモンをベンチに出したい。デッキの相性としては、平田選手のポケモンは与える一発のダメージが大きいので、ポケモンの数が少ないデッキの国分選手には、ポケモンをいれかえて耐えることは難しい。

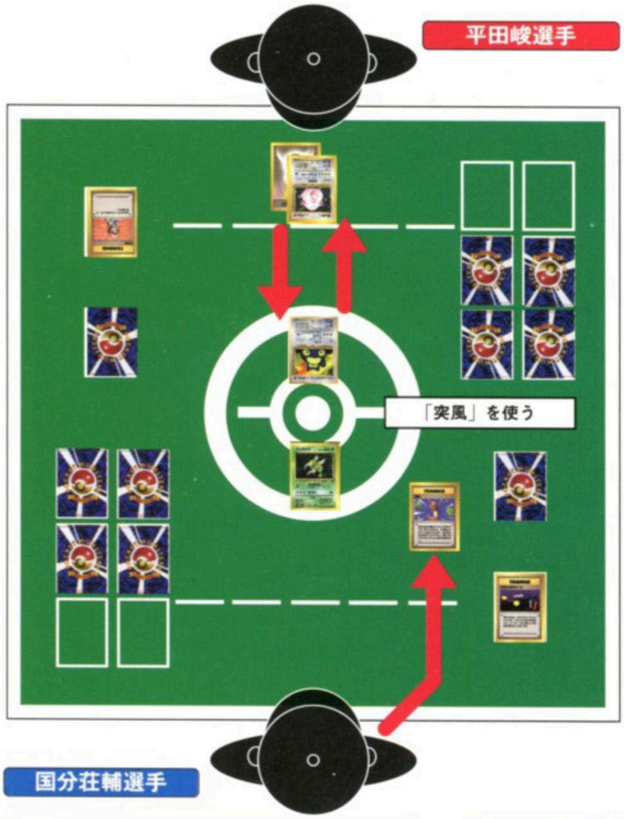
スタート時のセット状態



2手目 国分荘輔選手の番

「突風」を使い、くいしんぼカビゴンをバトル場に呼び出す

1手目、平田選手はくいしんぼカビゴンをベンチに出し、バトル場のラッキーに「無色2個エネルギー」をつける。それに対し国分選手は1手目に、「突風」を使い、平田選手のバトル場のラッキーと、ベンチのくいしんぼカビゴンをいれかえさせる。さらに「パソコン通信」を使い、「オーキドはかせ」を手札に入れるが、使わず。ベンチに控えポケモンのいないまま、国分選手の番は終了する。



2手目スタート時の国分荘輔選手のカード

手札	「プラスパワー」×2、「リサイクル」、「パソコン通信」、「突風」、「闘」エネルギー	
バトル場	ストライク	
ベンチ		

国分荘輔選手の行動

❶山札から「ダウジングマシーン」をひく。

❷「突風」を使い、平田選手のバトル場のラッキーとベンチのくいしんぼカビゴンをいれかえさせる。

❸「パソコン通信」を使う(ダウジングマシーン、「闘」エネルギーをトラッシュし、山札から「オーキドはかせ」をひいて手札に加える)。

❹「リサイクル」を使う(コイン判定に成功し、「突風」をトラッシュからひき、山札の一番上に置く)。

解説

国分選手がポケモンをひけなくてつらい状況が手に取るようにわかるだろう。こういう状況はポケモンの数が少ないデッキでよく見られる。ふつうはトレーナーカードでサポートするけど、必ずしも欲しいカードがひけるとは限らない。もしもの時の対処を考えてバランスよくデッキを作ろう。(高橋伸哉ポケモンカードマスター代表)



シニアリーグ決勝戦

決勝トーナメントハイライトシーン解説⑧

シニア予選リーグCブロック1位
一海達郎選手

VS

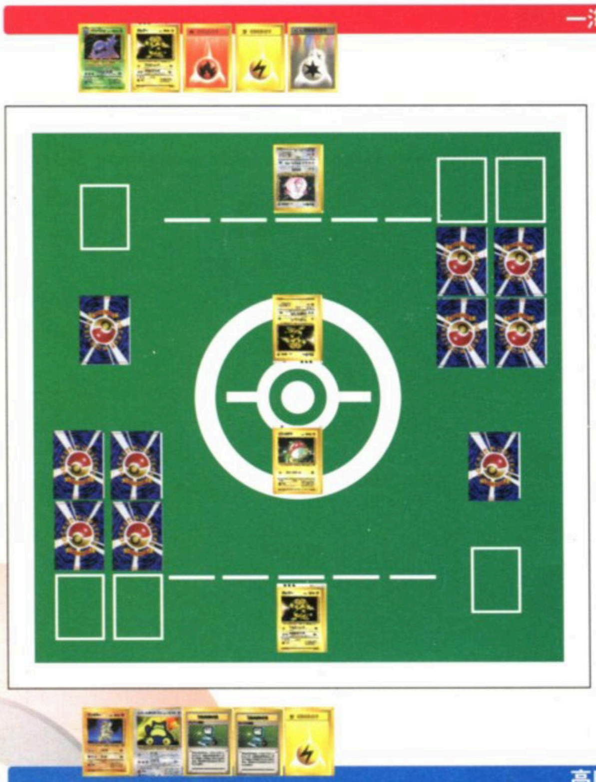
シニア予選リーグAブロック1位
高田康行選手

ポケモンをサポートするカードのひきが勝負を分ける

一海選手はバトル場にエレブー、ベンチにラッキーを出す。手札にもう1匹エレブーがいるので、ポケモンの数に不足はない。エネルギーカードの数も不足はないが、手札にトレーナーカードが1枚もない。高田選手はバトル場にビリリダマ(R)、ベンチにエレブーを出す。まずは、手札にある2枚の「パソコン通信」の使い方がポイントとなる。一海選手のエレブーの弱点をつくためにもワンリキー(R)はトラッシュすることはできない。そのため、山札からひくカードを見て、使うタイミングを待つことになる。一海選手はトレーナーカード、エネルギーカードの不足が予想されるので、山札からひくカードに望みがたくされる。高田選手はいかに効率よくカードを使うかにかかっている。

スタート時のセット状態

一海達郎選手



手札
ベトベトン
エレブー
「炎」エネルギー
「雷」エネルギー
「無色2個エネルギー」

バトル場
エレブー

ベンチ
ラッキー

手札
ワンリキー(R)
くいしんぼカビゴン(おまけカード)
「パソコン通信」×2
「雷」エネルギー

バトル場
ビリリダマ(R)

ベンチ
エレブー

高田康行選手

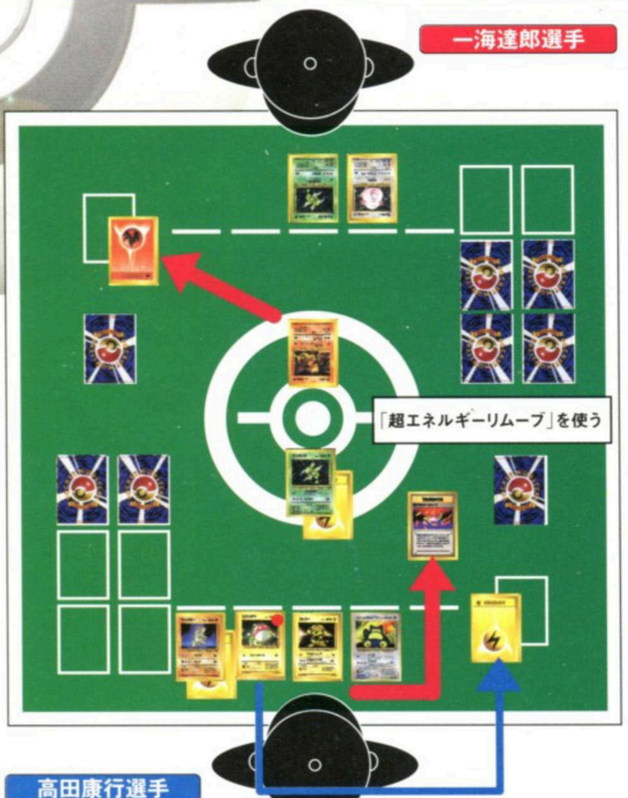
13手目

高田康行選手の番
「超エネルギーリムーブ」を使い、ブーバーの行動を止める

一海選手がバトル場、ベンチのポケモンにエネルギーカードをつけると、それに対し高田康行選手は「エネルギー・リムーブ」、「超エネルギーリムーブ」を使い、一海選手のポケモンの「ワザ」や「にげる」を使えなくする。

思うように攻めることのできない一海選手。さらに13手目高田選手は「超エネルギーリムーブ」を使い、一海選手のバトル場のブーバー(炎)の「炎」エネルギーをトラッシュさせる。

一海達郎選手



高田康行選手

13手目スタート時の高田康行選手のカード

手札		エレブー×2、サンダー、ビリリダマ(R)、オニドリル、「ポケモン回収」、「パソコン通信」、「超エネルギー回収」×2、「無色2個エネルギー」
バトル場	くいしんぼカビゴン(たべものカウンター×2、20ダメージ)	
ベンチ	ワンリキー(R)(「雷」エネルギー×1)、ビリリダマ(R)(ダメージ10「雷」エネルギー×1)、エレブー、ストライク(「雷」エネルギー×1)	

高田康行選手の行動

❶山札から「超エネルギーリムーブ」をひく。
❷「ポケモン回収」を使い、バトル場のくいしんぼカビゴンを手札に戻し、ベンチのストライクをバトル場に出す。
❸「超エネルギー回収」を使う(「超エネルギー回収」、ビリリダマ(R)をトラッシュして、「無色2個エネルギー」、「雷」エネルギー3枚を手札に加える)。
❹ベンチにくいしんぼカビゴンを出す。
❺「超エネルギーリムーブ」を使う(ベンチのビリリダマ(R)の「雷」エネルギーをトラッシュして、一海選手バトル場のブーバー(炎)の「炎」エネルギー1枚をトラッシュさせる)。
❻ストライクをベンチに戻し、くいしんぼカビゴンをバトル場に出す。

ワザを使う
くいしんぼカビゴンのワザ「たべる」を使う(たべものカウンター1つのせる)。

解説
高田選手の「エネルギー・リムーブ」、「超エネルギーリムーブ」の使用で、一海選手のポケモンは行動できない。使いどころを見逃さず、確実に相手の手を止めに行く高田選手のプレイが見事だ。ここまで上級者同士の勝負になると、いかに自分のペースに勝負を持ち込めるかが重要になる。(高橋伸哉ポケモンカードマスター代表)



最高の1日のエンディング

日本一決定戦
リザードンメガバトル
表彰式

ジュニアリーグ

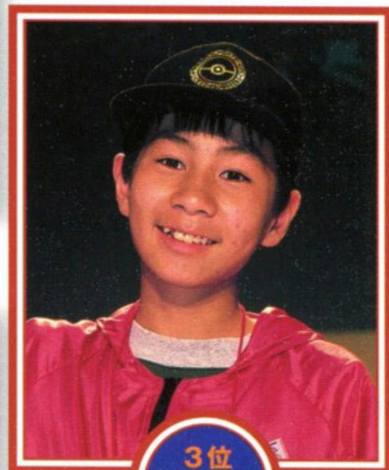
リザードンメガバトル
上位入賞選手



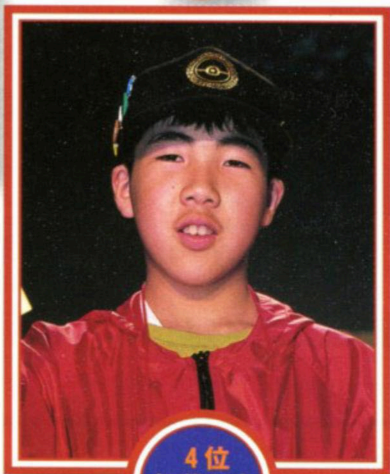
優勝
平田峻
選手



準優勝
国分荘輔
選手



3位
窪慎太郎
選手



4位
加藤和人
選手



プレゼンテーターを務める石原恒和プロデューサー。トロフィーを手渡すたびに、選手ひとりひとりに「おめでとう」と声をかける。

選手たちの健闘を称え拍手はいつまでも続く

おごそかに、そして堂々と。プレゼンテーターによって、リザードン、リザード、ヒトカゲトロフィーがステージの上に運ばれてきた。重量感溢れる造形と放たれる黄金の輝きに、観客席からどよめきが上がる。

選手たちが表彰台に登る。疲れきった表情はどこへやら、みんなすっきりとしたいい顔をしている。石原プロデューサーからトロフィーが手渡される。選手たちの健闘を称えて、会場から惜しみない拍手が鳴り響く。

リザードントロフィーを受け取った高田選手はその重さに一瞬、驚いた顔を見せる。平田選手にいたっては重さに顔をしかめるほど。しかし、2人とも本当に嬉しそうに、大切そうにトロフィーを抱えている。

「リザードントロフィーを家に持って帰って自慢するのもいいけれど、それよりもここで知り合った友だちと対戦をしたり、トレーディングをしたことを話してほしいと思います。今日一日で友だちを何人も増やしたことを自慢してほしいですね」。石原プロデューサーはそう語って大会を締めくくった。

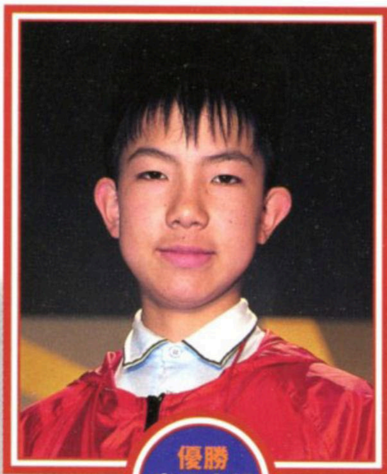
司会者のかけ声と共に『めざせポケモンマスター』が流れはじめた。ステージにはいっぱいのシャボン玉



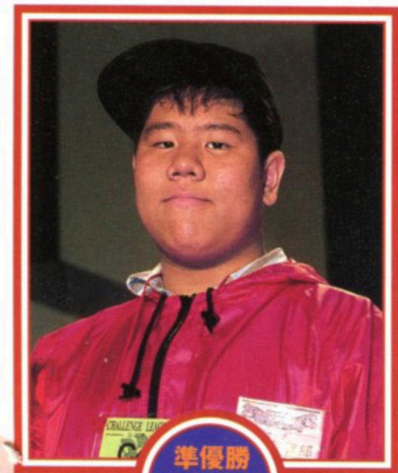


シニアリーグ

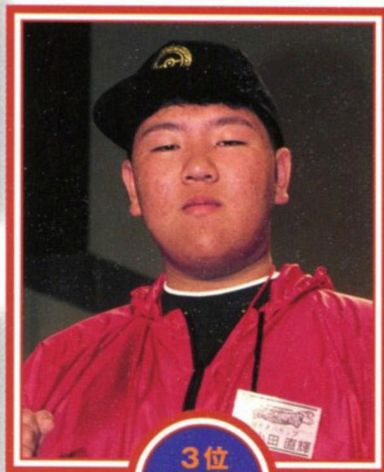
リザードンメガバトル上位入賞選手



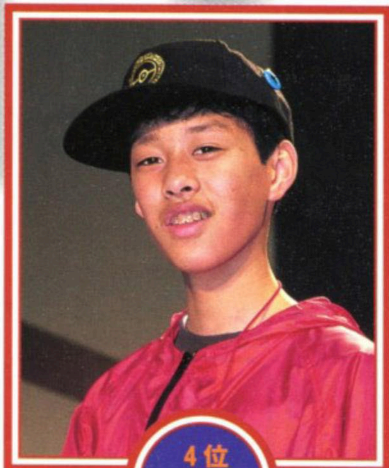
優勝
高田康行
選手



準優勝
一海達郎
選手



3位
小田直輝
選手



4位
谷野宏彰
選手

そしてフィナーレ



優勝、準優勝、そして3位と順番にトロフィーが授与されていく。みな最高の出来映えのトロフィーに、心から喜んでいる。



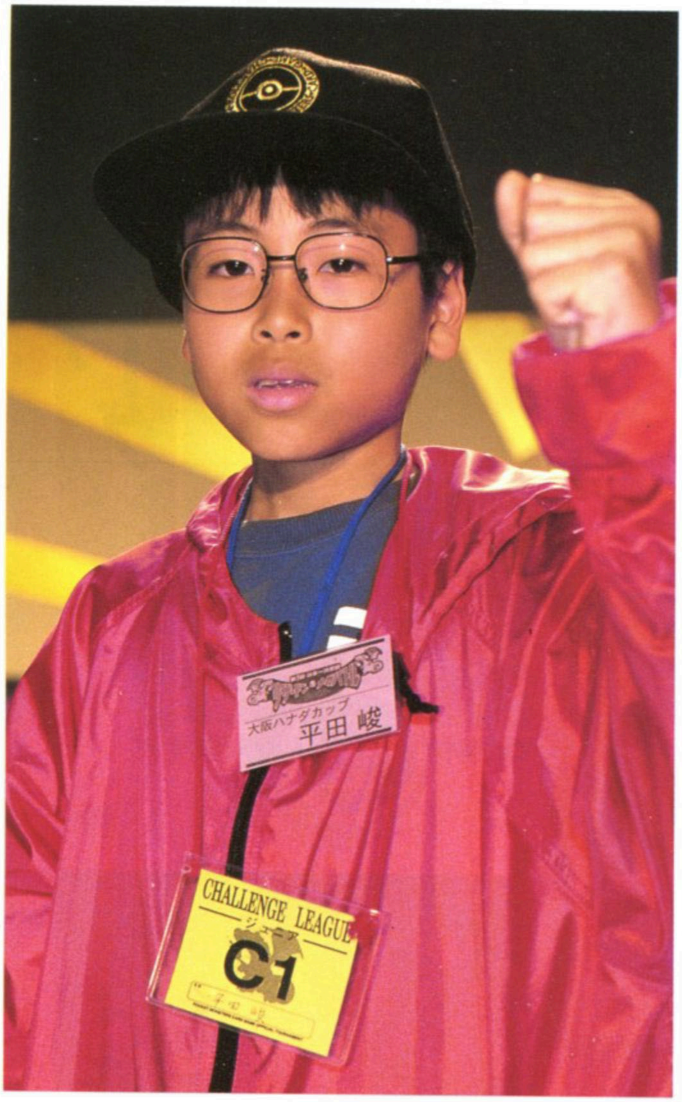
が飛び交っている。イマクニ？＆レイモンド、ヒロコさん、西沢モトさんと音頭ガールズ、ラジオ番組『ポケモンアワー』の公開録音を行ったニャース役の犬山犬子さんなど、今日一日のイベントを盛り上げた人たちが、舞台の袖から続々と登場してくる。観客席で決勝ステージを見守っていた選手たちも、ステージに駆け足で上がってきた。

みんな本当におめでとう！



ガルーラ親子大会へのコメントも。「親子で一緒に遊んだ思い出を大切にしてください」。

決勝のステージは緊張しすぎて、あまりよく覚えてないんです（笑）



リザードンメガバトルジュニアリーグ優勝者インタビュー

平田 峻

Hirata Takashi

ハナダカップジュニアリーグ 3位
大阪府吹田市在住

予選リーグでの戦績	
結果	対戦相手
○	武田理志
○	町田敬
○	古市真一朗
○	浜口聖士
○	小野亘

決勝トーナメントでの戦績	
準決勝戦	
結果	対戦相手
○	窪慎太郎
決勝戦	
結果	対戦相手
○	国分荘輔

――最初に日本一決定戦に出場するきっかけとなった第2回公式トーナメント・ハナダカップの思い出を教えてください。

平田　ハナダカップに出場が決まったときには3位に入れるなんて思ってもいませんでした。ハナダカップでは、おまけカードのウィンディを使っていたんです。ところが準決勝戦でウィンディのHPギリギリまでダメージをためつつ、ワザの「いかりのほのお」を使っていたら、相手のストライクに「きぜつ」させられてしまったんです。その対戦で勝つことができたら、優勝できたかもしれない。準決勝で戦った山田航己選手とは、もう一度、対戦してみたいと思っています。

――日本一決定戦に出場が決まってから、何かデッキを改良しましたか。

平田　お兄さんと一緒にデッキを研究して大きく変更しました。いろいろなタイプのデッキを実際に組んでみて、自分のデッキと次々と対戦させてみるんです。対戦を重ねているうちに、弱いところがだんだん見えてきたので、そこを改良しました。全体的には、ポケモンは強いたねポケモンを入れて、どのポケモンでも戦えるように速攻型に改良しました。

――日本一決定戦予選リーグはどうでしたか。

平田　日本一決定戦では予選の1回戦目が最大のピンチでした。エネルギーカードをポケモンにつけることがほとんどできないまま、山札があと5～6枚になってしまったんです。その絶体絶命のときに、偶然、エネルギーカードを連続で引くことができて、ラッキーのワザ「すてみタックル」で逆転に成功したんです。あれは運がよかったと思います。予選リーグで対戦した選手はみんな強くて、何度もギリギリで勝ちました。

――決勝トーナメントへ進むことが決まったときの感想を教えてください。

平田　ステージに上がったときは、けっこう緊張しました。緊張しすぎて、少し覚えていないところもあります。準決勝が始まる前に、同じハナダカップ出身の国分荘輔選手と「お互いに勝とうぜ～」って話していたんですよ。だから僕と国分選手の2人が決勝戦に進むことが決まったときはめちゃめちゃ嬉しかったです。

――決勝戦はずいぶん早く決着がついてしまいましたね。

平田　決勝戦までの待ち時間は国分選手と「もうどっちが優勝してもいいや」ってお互いに言いあっていました。決勝戦では国分選手のカードの運が悪くて、最初にストライク一匹しかポケモンが場にでなかったんです。だから、僕のラッキーのワザ「すてみタックル」の一撃で勝負が終わってしまいました。もう少し国分選手と対戦していたかったのでちょっと残念でした。

――日本一決定戦で優勝した後の反響はどうでしたか？

平田　家に帰ったとき、優勝したことをないしょにして、こっそりと玄関にリザードントロフィーを置いておいたんです。あとで「宅急便おいてあったで！」とお母さんを玄関に呼びだしたら、びっくりしていました。今、トロフィーはホコリよけの風呂敷をかぶせて居間に飾ってあります。日本一決定戦の次の日は学校の遠足でした。その日の朝、テレビの「おはスタ」で僕が優勝したというニュースが放映されたので、すごくみんなに評判がよかったです。ただ、「おはスタ」で映った僕の顔はなんかポケーッとしている顔だったので、キリッとした顔をしておけばよかったと思いました。

――では、最後の質問です。ポケモンカードとは、あなたにとって何でしょうか。

平田　どんどん対戦し、どこまでもデッキを強く改良していくという、面白い遊びです。僕のデッキはまだまだ強くなる可能性があると思います。もし、次に大会に出るのなら、より強いデッキで、強い人と対戦してみたいですね。

平田峻選手のデッキリスト

●ロケット団
- 夜の廃品回収 ×1
- きずぐすり配合エネルギー ×3
- なんでもなおし配合エネルギー ×2

●草ポケモン
- ストライク ×3

●闘ポケモン
- プテラ ×2

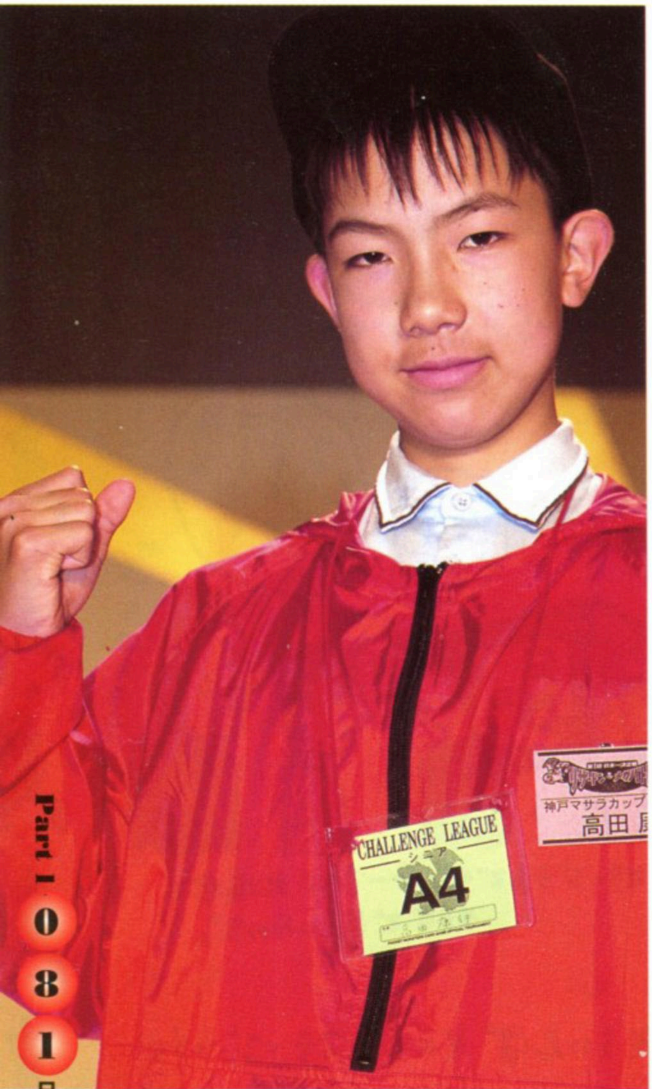
●無色ポケモン
- プリン ×4
- ラッキー ×1
- プクリン ×4
- くいしんぼカビゴン（おまけカード） ×3

●トレーナーカード
- オーキドはかせ ×4
- マサキ ×3
- なにかの化石 ×2
- 超エネルギーリムーブ ×1
- ポケモンいれかえ ×2
- プラスパワー ×4
- パソコン通信 ×4
- ダウジングマシーン ×4
- 突風 ×3
- 超エネルギー回収（おまけカード） ×1

●エネルギーカード
- 草エネルギー ×5
- 無色2個エネルギー ×4

最強のデッキを目指して、まだまだ研究していきたい





憧れの幕張のステージに立てて嬉しかった

リザードンメガバトルシニアリーグ優勝者インタビュー

高田康行

Takata Yasuyuki

マサラカップシニアリーグ優勝
岡山県倉敷市在住

予選リーグでの戦績

結果	対戦相手
○	伊東丈太
○	榎本壮平
●	西川仁
同率首位決定戦	
○	伊東丈太
○	西川仁

決勝トーナメントでの戦績

	結果	対戦相手
準決勝戦	○	谷野宏彰
決勝戦	○	一海達郎

——日本一決定戦に出場するきっかけとなった第2回公式トーナメント・マサラカップの思い出を教えてください。

高田 マサラカップでは4回戦目が一番苦戦しましたね。僕のハクリュウが「こんらん」させられて、コイントスを4回連続で失敗したんです。おかげで「はかいこうせん」が4回連続で僕のハクリュウにふりかかって、もう絶望的でした。その試合以外は比較的、苦戦しなかったと思います。優勝したときは、いい気分。嬉しかったです。家に帰ったらお母さんが喜んで、拍手してくれました。でも、お父さんは優勝するとは思ってもいなかったので「帰るのがおそかったじゃねーか!」って怒っていました(笑)。

——日本一決定戦に出場が決まってから、ポケモンカードのプレイは変わりましたか。

高田 日本一決定戦に関してはマサラカップのときよりも準備をしませんでした。月刊コロコロコミックを愛読していると会場の幕張メッセがよく出てくるんですよ。だから幕張メッセに1回は行ってみたいなあと思っていたんで、東京見物の気分でした。まあ準備といえば、大会の前日にポケモンカードが強い友だちの家に行って、5～6回対戦したぐらいかな。

——日本一決定戦で使っているデッキはマサラカップのときから変化しましたか。

高田 多少変化しました。まずデッキに欠かせないのが「ロケット団」のビリリダマ。あれは強いです。あとは、くいしんぼカビゴン。あれも強い。ただ、あのカードは手に入れようとしても、なかなか手に入らないですからね。特に僕の家はテレビゲームが一切禁止されているんで、ニンテンドウ64を買うことができないんです。

——では、どのようにくいしんぼカビゴンを手に入れたのですか。

高田 風の吹くままに友だちから入手(笑)。

——さて、日本一決定戦予選リーグはどうでしたか。

高田 予選では、対戦相手がいつもベロリンガを出してきたのにはまいりました。ベロリンガのワザ「ちょうおんぱ」は「こんらん」の効果があるのでやめてほしかった。予選では時間切れになってしまい、じゃんけんで負けて一敗してしまったのが悔しかったですね。

——決勝トーナメントへ進むことができたときの感想を教えてください。

高田 もともと負けてもいいくらいの軽い気持ちだったし、東京観光のつもりで出場したから、ステージの上でも全然緊張しませんでした。客席にたくさん人が来ているなーって。これが憧れの幕張かあって思っていましたよ。

——決勝トーナメントでの戦いぶりは自分ではどう思いますか。

高田 準決勝も決勝も結局、時間切れで勝っているからなあ。10分という制限時間は短すぎますよね。ふだん僕らがカードを対戦するときは1勝負に1時間くらいかかることもありますからね。でも、準決勝に勝ったときはこれで、トロフィーをゲット!と思って嬉しかったです。みんなが3位決定戦をしている間は舞台裏で、決勝戦で対戦する一海達郎選手とずっと話していました。年上だから最初は少しだけ話しにくかったけど、東京の友だちを作っておきたかったから。僕は大会のたびに、必ずひとりは選手に声をかけているんです。あとで連絡をとりあって、カードをトレーディングするのが楽しいんです。

——優勝した後の周囲の反響はどうでしたか。

高田 友だちは僕が優勝したと言っても、だ～れも信じてくれなかった(笑)。でも、久しぶりに会った友だちに「『おはスタ』に出てただろう!」って言われてびっくりしました。家族の間では、お姉ちゃんが自慢話に使ってくれたり、けっこう話のネタになっていましたよ。

——それでは最後に。ポケモンカードとはあなたにとって何でしょうか。

高田 僕に趣味を与えてくれたもの。今まで僕にとって趣味と呼べるものは何もなかったんですよ。だけどポケモンカードが出たおかげで、ここ一年半、ずうっとカードに夢中になっていられるんです。

ポケモンカードは僕に趣味を与えてくれた



高田康行選手のデッキリスト

●ロケット団
- ビリリダマ ×4
- ワンリキー ×1
- 夜の廃品回収 ×1

●草ポケモン
- ストライク ×1

●雷ポケモン
- マルマイン ×1
- エレブー ×4
- サンダー ×2
- そらをとぶピカチュウ ×1

●無色ポケモン
- オニスズメ ×3
- オニドリル ×1
- カビゴン ×1
- くいしんぼカビゴン(おまけカード) ×1

●トレーナーカード
- オーキドはかせ ×2
- マサキ ×1
- ポケモン交換おじさん ×1
- エネルギー・リムーブ ×3
- 超エネルギーリムーブ ×3
- ポケモン回収 ×1
- パソコン通信 ×3
- ダウジングマシーン ×1
- 突風 ×1
- 超エネルギー回収(おまけカード) ×2

●エネルギーカード
- 雷エネルギー ×18
- 無色2個エネルギー ×3

イマタニ？が見た日本一決定戦





オレらのステージもあったゾ。

いやー、スゲェな日本一決定戦は。オレ、ステージうらで準決勝から見てたんだ。でもさ、手つきは早いわ、カードの使い方とか オレ、イマイチわかんないし、もう、"コイツらなにをやってんだ！？"って思ったね。

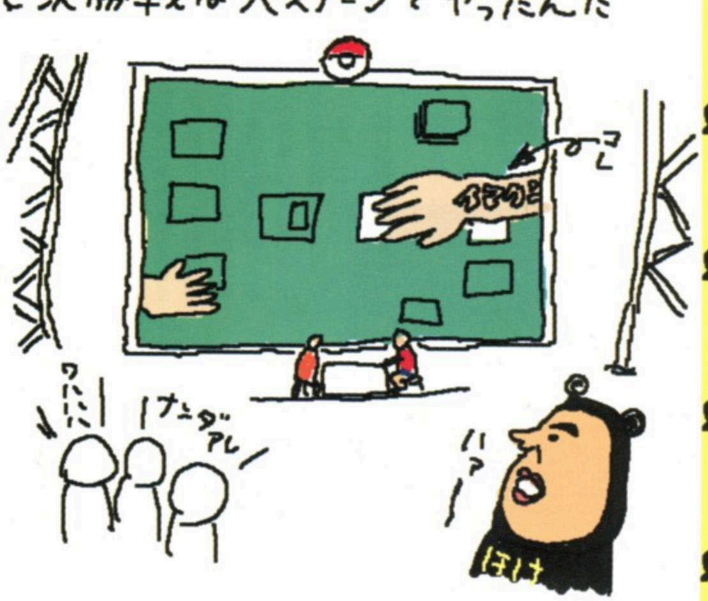
やっぱ、それぐらいレベルの高いヤツじゃないと あの、ゴージャスなリザードンの像は もらえないのかなあ。カメックスは オレ、チャレンジしてみようかなあ、ダメ？



ステージうらで他のトーナメント出場者とテレビで見ていたのだ。



あ、そうだ！そういえば そのとき ステージうらで チャンピオンキャップをかぶっているヤツが ボーッとつったってたから、そいつをつかまえて ウデにサインをしてやったんだ。でも、実はそいつはシニア部の決勝戦に出場する"センシュ"だったのだ！準決勝と決勝戦は大ステージでやったんだけど、その大ステージの大画面の大ビジョンに イマタニ？と書かれたウデが、でかでかと映されちゃったんだ。あれはケッサクだったよ。





PART 2

pocketMonsterscardgAMe

日本一決定戦
リザードンメガバトル

選手名鑑



マサラカップ

●ジュニアリーグ(午前の部)
- 優勝――阿部壮太
- 準優勝――山添弘晃
- 3位――古市真一朗
- 4位――今西徹

●ジュニアリーグ(午後の部)
- 優勝――中田康友
- 準優勝――浜口聖士
- 3位――山口知紀
- 4位――長谷川綾子

●シニアリーグ
- 優勝――高田康行
- 準優勝――竹原祐介
- 3位――巽敏博
- 4位――前川貴志

トキワカップ

●シニアリーグ
- 優勝――松本恵太
- 準優勝――安徳仁
- 3位――阿部航
- 4位――小田稔也

●ジュニアリーグ
- 優勝――小野亘
- 準優勝――野中亮
- 3位――野正雄亮
- 4位――光延幸紘

ニビカップ

●ジュニアリーグ(1月10日/午前の部)
- 優勝――窪慎太郎
- 準優勝――浅倉誓
- 3位――吉野直樹
- 4位――松木翔太郎

●ジュニアリーグ(1月10日/午後の部)
- 優勝――神立雅裕
- 準優勝――平野拓哉
- 3位――加瀬将仁
- 4位――小宮光寿

●シニアリーグ
- 優勝――一海達郎
- 準優勝――一ノ瀬雅彦
- 3位――高塚祐輔
- 4位――宮寺啓祐

●ジュニアリーグ(1月11日/午後の部)
- 優勝――町田敬
- 準優勝――粕谷久矢
- 3位――神田一憲
- 4位――川島功三

ハナダカップ

●シニアリーグ
- 優勝――中川憲夫
- 準優勝――西川仁
- 3位――阪口篤史
- 4位――杉本信二

●ジュニアリーグ
- 優勝――国分荘輔
- 準優勝――山田航己
- 3位――平田峻
- 4位――久保田悟朗

シオンカップ

●シニアリーグ
- 優勝――亀山誠司
- 準優勝――谷野宏彰
- 3位――榎本壮平
- 4位――藤森研伍

●ジュニアリーグ
- 優勝――清水理俊
- 準優勝――武田理志
- 3位――加藤和人
- 4位――家村貴行

クチバカップ

●シニアリーグ
- 優勝――伊東丈太
- 準優勝――小田直輝
- 3位――野中聡
- 4位――清水幹雄

●ジュニアリーグ
- 優勝――谷口一平
- 準優勝――山本高弘
- 3位――小栗一輝
- 4位――坂井祐介

※本人の希望により「選手名鑑」への登場をご辞退された選手もいます。

Abe Sota



マサラカップジュニアリーグ(午前の部)優勝

阿部壮太

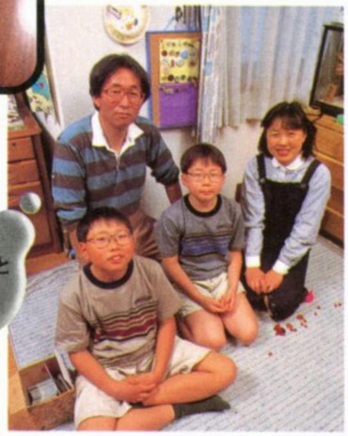
兵庫県尼崎市　　(12歳)

❶'85年9月17日❷カイリキー❸月刊コロコロコミックでおまけカードを手に入れたのがきっかけでした。❹全部で200枚くらい持っています。❺休日に弟や友だちとトーナメント戦を開催して、対戦しています。❻ルアー釣り。いつも近所の海釣り公園で釣っています。でも、まだブラックバスは釣ったことがありません。学校の科目では図工が好きです。❼いつの日か、琵琶湖で大ナマズを釣ってみたい！❽ポケモンカードがすごく強いと思う。(弟の陽介君)❾何にでも好奇心が旺盛で優しい性格です。(お父さん)



お気に入りのアイテム

阿部選手が去年の夏休みに作ったルアー。「人が泳いでいる形のルアーもあります」



阿部選手とご家族

休日に友だちを家に集め大会を開いたこともあるそう。「大会の賞状はお父さんが作ってくれました」

Yamazoe Hiroaki



マサラカップジュニアリーグ(午前の部)2位

山添弘晃

大阪府大阪市　　(12歳)

❶'85年8月5日❷ゼニガメとカメックス❸テレビ番組『64マリオスタジアム』のクイズコーナーで知って。最初のうちはルールが難しかったけど、だんだんとわかっていきました。❹500〜600枚くらい持っています。❺毎日、同じ大阪代表の国分君や友だちとトーナメントをして遊んでいます。❻パソコンを使って友だちと一緒にカードゲームを作っています。❼大人になったらパソコンを使った仕事についてみたい。❽ポケモンカードがすごく強いです。(弟の伸晃君)❾落ち着いていてしっかりした真面目な性格です。(お母さん)



お気に入りのアイテム

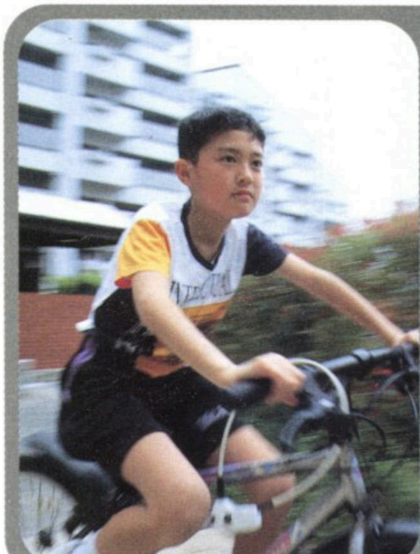
山添選手自作のカードゲーム。「カード作りのお手本はポケモンカードです」



山添選手と応援団

熱気いっぱいの部屋で対戦している応援団一同。「いつもトーナメントやリーグ戦で対戦しています」

Furuichi Shinichiro



マサラカップジュニアリーグ(午前の部)3位

古市真一朗

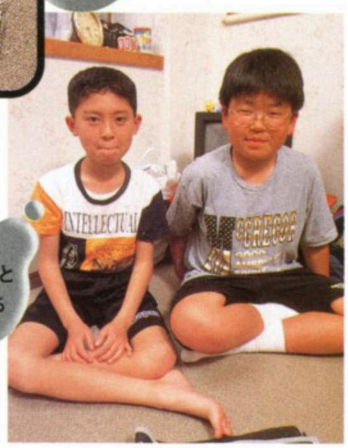
兵庫県神戸市　　(12歳)

❶'85年11月21日❷ナッシーとリザードン❸月刊コロコロコミックでおまけカードを手に入れたのがきっかけ。❹いっぱい。多すぎて数えたことがありません。❺小学校時代の友だちと対戦したり、交換して遊んでいます。❻ハイパーヨーヨーとプラコロです。いつか使ってみたいと思っているのはコンピューター。❼今、考えているのはデザイナー。コンピューターグラフィックスを覚えてみたいです。❽カードがすごく強くて、なかなか勝てません。(友だちの菊地君)❾テレビゲームが大好きで、いつもよく遊んでいるようです。(お父さん)



お気に入りのアイテム

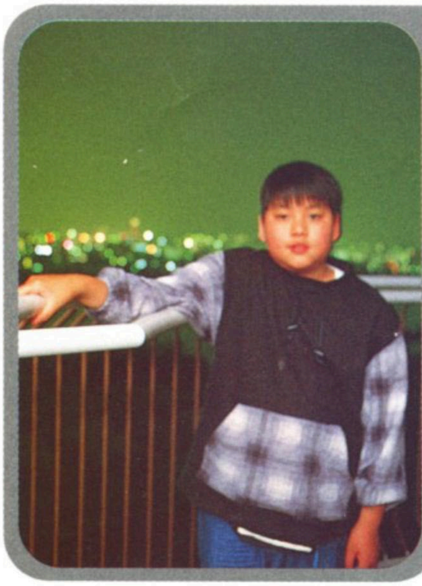
古市選手愛用のプラコロ、ハイパーヨーヨー。「トリックもいくつか使えます」



古市選手とお友だち

いつも遊んでいるという菊地君と一緒に撮影。「ポケモンカードやプラコロで対戦しています」

Nakata Yasutomo



マサラカップジュニアリーグ(午後の部)優勝

中田康友

大阪府守口市　（13歳）

❶'85年4月11日❷ミュウ、エレブー❸お兄ちゃんと月刊コロコロコミックを読んで知りました。❹100枚くらい。トレーディングしたばっかりだから少ないんです。❺いつも13～14人の仲間と対戦しています。その中では僕が一番強い。❻ワープロ。これを使ってデッキシートを作ったり、持っているカードの情報を整理しています。❼ゲームプログラマー。憧れの人は『ポケモン』を作った田尻智さん。❽ポケモンカードがとっても強いです。(友だちの西保君)❾体は大きいけど、気は優しくて明るい良い子です。(お母さん)



お気に入りのアイテム

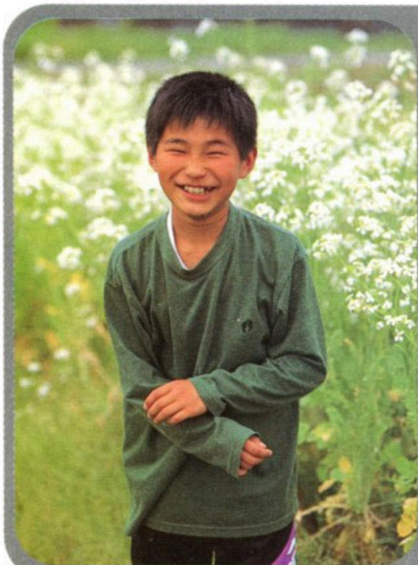
使っているのはお母さんのワープロ。「これでカードを整理しているんです」



中田選手とお友だち

近所に住んでいる西保君。「いつもポケモンカードで対戦やトレーディングをしています」

Hamaguchi Masashi



マサラカップジュニアリーグ(午後の部)2位

浜口聖士

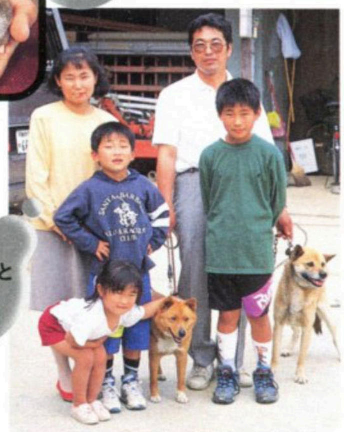
兵庫県神戸市　（10歳）

❶'87年8月7日❷エレブー❸近所の友だちが持っていたので、ためしにスターターパックを買ってみました。❹500枚～700枚くらい持っている。❺学校の友だちの間で流行ってます。カード仲間ただいま増殖中。❻動物を飼うのが大好きです。❼弁護士かそろばんの先生かお笑い芸人。なぜ弁護士かというと、しゃべるのが得意だから。そろばんは三級を練習中。お笑い芸人は……わからない(笑)。❽ポケモンカードは本当に強いです。(弟の剛彰君)❾せっかちな性格なんですが、ポケモンカードになると夢中です。(お父さん)



お気に入りのペット

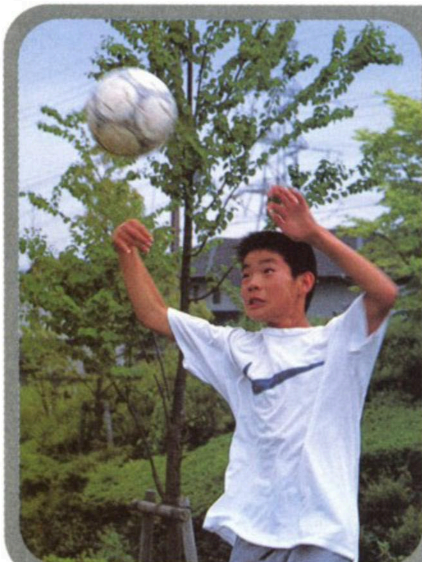
ペットのハムスター、シマタロウとシマチビ。「飼い始めて3年目です」



浜口選手とご家族

犬のリキ・コロと一緒に浜口家の玄関で撮影。「おじいちゃん、おばあちゃんも一緒に住んでいます」

Yamaguchi Tomonori



マサラカップジュニアリーグ(午後の部)3位

山口知紀

兵庫県川辺郡　（12歳）

❶'86年4月18日❷リザードン❸友だちが遊んでいたので、まず買ってみた。❹全部で300枚くらい。デッキは2つ作っています。❺いつも学校の友だちと放課後に対戦しています。❻サッカー。猪名川FCというサッカーチームに入っています。ポジションはディフェンダー。❼今は特にありません。尊敬している人は日本代表チームキャプテンの井原正巳選手。僕もいつか井原選手みたいになりたい。❽勝ち抜け。めざせ優勝！イエーイ。(山口選手の応援団)❾のびのび育っています。いつも努力をするがんばりやさんです。(お母さん)



お気に入りのアイテム

愛用のサッカーボール。「僕のチームは県でベスト4まで行きました」



山口選手と応援団

山口選手の応援団の大森君、上岡君、田村君、平井君。「みんな、ポケモンカードを一緒に始めた友だちです」

質問の項目

(すべての回答は98年4月26日、日本一決定戦大会実施時のものです)

❶生年月日　❷好きなポケモン・ポケモンカード　❸ポケモンカードを始めたきっかけ　❹持っているポケモンカードの枚数　❺ふだんはどんな風にポケモンカードで遊んでいますか　❻ポケモンカード以外の趣味　❼将来の夢　❽友だちや兄弟から見た○○君　❾父母から見た○○君

Hasegawa Ayako

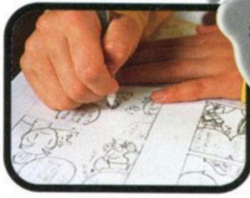


マサラカップジュニアリーグ(午後の部)4位

長谷川綾子

大阪府大阪市　(12歳)

❶'85年8月25日❷フーディン❸きっかけは月刊コロコロコミックの記事を読んで。弟と一緒に始めました❹全部で大体3000枚くらい。❺弟と対戦することが一番多いです。❻ポケモンを題材にした4コママンガを描いています。スポーツでは水泳が得意。クロールだったら50メートル43秒で泳げます。❼裁判官。木づちで机を「ドンドン」って叩いてみたいな(笑)。❽お姉さんとはいつも対戦しているんだけど、全然かなわない。(弟の将司君)❾一度好きになると、夢中になってしまうタイプです。(お母さん)



夢中になっている趣味

長谷川選手得意の4コママンガ。「好きな漫画家は真斗先生です」



長谷川選手のご家族

写真右からいとこの久美さん。長谷川選手、お母さん、弟の将司君。「みんなでカードを遊んでいます」

Takata Yasuyuki

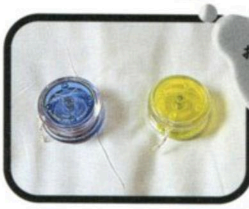


マサラカップシニアリーグ優勝

高田康行

岡山県倉敷市　(13歳)

❶'84年7月18日❷エレブーと『ロケット団』のビリリダマ❸友だちが買いたい、と言っていたから、自分も買ってみました。最初はルールがわからなかった(笑)。❹1000～1200枚ぐらい。「ロケット団参上!」と「なみのりピカチュウ」以外は全部集めました。❺7～8人くらいの友だちと対戦しています。❻ハイパーヨーヨー。得意な科目は数学か英語。❼医者かなあ、外科の医者になってみたい。❽テレビで初めて日本一決定戦を知ったんです。そのときはすごいなあと感心しました。(姉の由美子さん)



お気に入りのアイテム

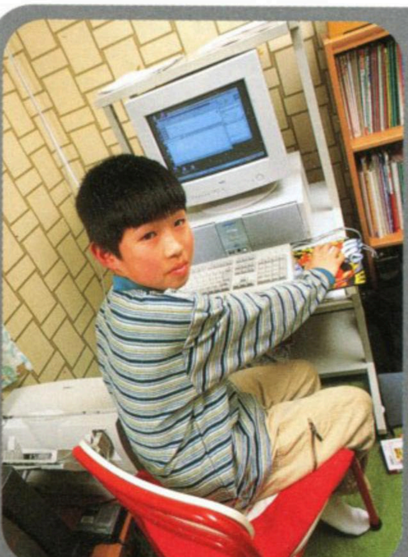
高田選手のハイパーヨーヨー「ステルスファイヤー」「サッカーも好きです」



高田選手とお姉さん

お姉さんの由美子さんと一緒に、幕張のホテル内で撮影。「お姉さんが応援に来てくれました」

Takehara Yusuke

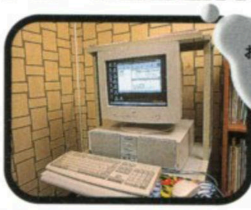


マサラカップシニアリーグ2位

竹原祐介

大阪府岸和田市　(13歳)

❶'85年1月17日❷ピクシーとガルーラ❸最初はゲームボーイの『ポケモン』にハマりました。ポケモンカードは月刊コロコロコミックで知って始めてみました。❹いっぱい(笑)❺学校の友だち、8人と対戦しています。❻パソコンとゲーム。パソコンではインターネットをしています。好きなホームページはポケモンカードの公式ホームページ。❼将来はゲームデザイナーになりたいです。❽ポケモンカードがすごく強いです。(妹の沙織さん)❾なんでもコツコツやっていく真面目な性格なんです。(お父さん)



お気に入りのアイテム

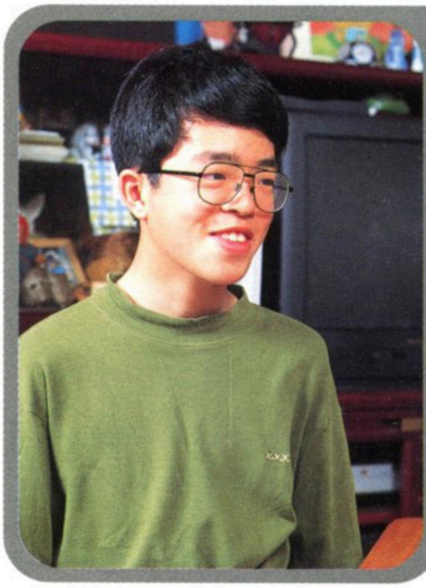
竹原選手のパソコン。メールアドレスは yuusuke@silver.ocn.ne.jp



竹原選手と妹さん

妹の沙織さんと2人で撮影。「カードは妹と一緒に集めています。たまに対戦することもあります」

Tatsumi Toshihiro



マサラカップシニアリーグ3位

巽敏博

兵庫県伊丹市　（13歳）

❶'84年12月24日❷フシギダネとキャタピー❸月刊コロコロコミックでポケモンカードを知って、面白そうだったので始めました。❹デッキケースでは整理しきれないくらいたくさん持っています。❺ふだんはひとりでデッキを2つ分作って、テストプレイをしています。❻読書が趣味です。特に好きなのはSF小説やファンタジー小説。ピクロスを解くのも大好き。❼いつかゲームを作ってみたい。好きなゲームジャンルはRPG。❾考えることが好きで、おとなしいけどコツコツ型のマイペースな性格です。（お母さん）



お気に入りのペット

巽選手の愛犬マリ。「最近はあんまり散歩に連れていっていないけど……」



巽選手の横顔

愛犬と一緒で、顔もいきいきしている巽選手。「日本一決定戦に出場できて、とても嬉しいです」

Maekawa Takashi



マサラカップシニアリーグ 4位

前川貴志

兵庫県三木市　（13歳）

❶'84年8月2日❷サンダー❸友だちにカードを借りて、遊んだのがきっかけです。❹デッキ4つ分だから、300枚くらいかな。❺友だち2人と、交換したり対戦したりしています。❻ブラックバス釣り。家の近所は池だらけなんです。いつもそこで釣っています。お気に入りのルアーは『グランダー武蔵』のスケルトンタイプ。あと、学校のクラブ活動では卓球部に入っています。❼まだ、将来のことはあまり考えていません。❾外で遊ぶのが好きな元気な性格です。（お母さん）

＊前川選手は本人のご都合により日本一決定戦出場を辞退されました



お気に入りのアイテム

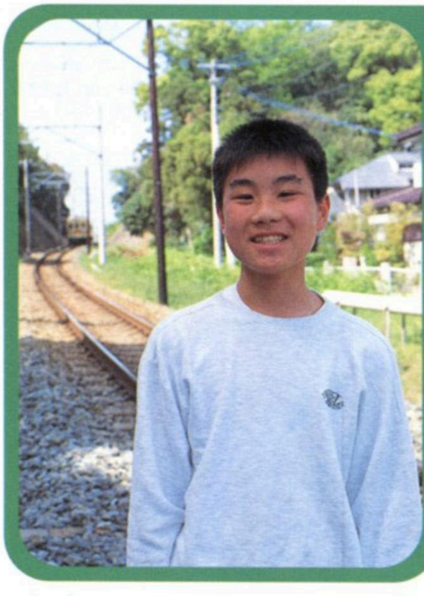
前川選手のルアー。「今度、琵琶湖に釣りに行くので楽しみです」



前川選手とお母さん

昼下がりの近くの公園で。「お母さんはポケモンカードを全然知らなかったけど、大会で応援してくれた」

Matsumoto Keita



トキワカップシニアリーグ優勝

松本恵太

福岡県福岡市　（14歳）

❶'84年4月10日❷ケーシィ❸1年くらい前に、お父さんに買ってもらったのがポケモンカードを始めたきっかけ。はじめはカードの枚数が足りなくて、弱かった（笑）。❹もともとカードをコレクションするのが好きだったから、ほとんど全種類を集めました。❺だいたい、週に1～2回。クラスの友だちと対戦をしてます。❻学科は数学と理科が好き。❼ちょっと前まではゲームプログラマーに憧れていました。だけど大変な仕事と知って、ちょっと嫌になりました（笑）。❽……わからない（笑）。（松本選手の応援団）



お気に入りのアイテム

『ポケモンキッズ』のケーシィ。「眠っているのにワザを使えるところがいい」



松本選手と応援団

友だちはカードゲームの腕自慢ぞろい。「ふだんから強い相手と対戦しているから鍛えられました」

質問の項目

（すべての回答は98年4月26日、日本一決定戦大会実施時のものです）

❶生年月日　❷好きなポケモン・ポケモンカード　❸ポケモンカードを始めたきっかけ　❹持っているポケモンカードの枚数　❺ふだんはどんな風にポケモンカードで遊んでいますか　❻ポケモンカード以外の趣味　❼将来の夢　❽友だちや兄弟から見た○○君　❾父母から見た○○君

Antoku Jin

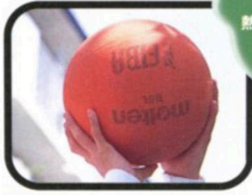


トキワカップシニアリーグ2位

安徳仁

福岡県福岡市　（13歳）

❶'84年10月6日❷ガルーラ❸お父さんが勤める書店の大会で遊んだのがきっかけです。ポケモンカードはドキドキするところが面白い。❹300枚くらい。❺学校のポケモンカード仲間は上は中3から下は中1まで。みんなで対戦して遊んでいます。お父さんともたまにポケモンカードで対戦することもある。お父さんは弱いけど（笑）。❻バスケット！今は中学のクラブに入っています。ポジションはポイントガード。❼特にありません。ゆっくり決めようかなという感じ。❾おとなしいけど、遊んでばっかりです（笑）。（お父さん）



熱中しているスポーツ

愛用品はバスケットボール。「バスケは体を使って、闘うところが魅力的」



安徳選手とお父さん

太陽の下、2人でバスケをプレイしながら撮影。「ポケモンカードを教えてくれたのはお父さんです」

Oda Toshiya



トキワカップシニアリーグ4位

小田稔也

福岡県福岡市　（13歳）

❶'84年7月4日❷エレブー❸月刊コロコロコミックの記事で知りました。友だちが遊んでいて楽しそうだったから、買ってみたのがきっかけです。対戦するというところがよかった。❹多すぎて数えたことがない。❺塾があるとき以外は毎日3回ぐらい、小5の弟と対戦をして遊んでいます。たまにルールを間違ってケンカしたりもするけど（笑）。❻マンガが好き。あと『デジタルモンスターVer.2』も好きです。❼ゲームを作りたい。パソコンを使ってモンスターを作ったり、絵を描いたりしてみたいです。



お気に入りのアイテム

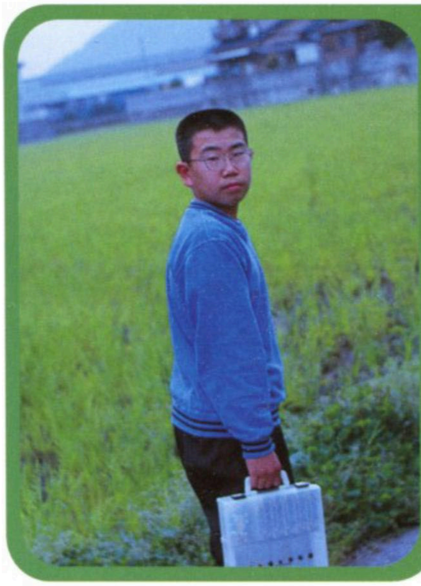
小田選手の好きなものはマンガ。「カードゲームで対戦するマンガ『遊戯王』が好き」



小田選手と応援団

小田選手の自宅の前、自転車に乗ったポーズで撮影。「みんな取材があると聞いてやってきました」

Ono Wataru



トキワカップジュニアリーグ優勝

小野亘

福岡県北九州市（13歳）

❶'85年4月25日❷リザードンとフシギバナ❸月刊コロコロコミックを見て、お兄ちゃんに「スターターパックを買ってきて」と頼みました。❹だいたい1000枚以上、持ってるかな。拡張シートをこれから集めてみたいと思っています。❺同じ学年の友人とワイワイと楽しんでいます。だけど真剣勝負だから、友だちがふざけていたりすると怒ることもあります（笑）。❻習字。毛筆では7段を持っています。学校の科目は、理科の実験が一番好き。❼ゲームショップで働きたいです。いつでもポケモンカードを見ることができるから。



お気に入りのアイテム

宝物は「ポケモンカードイベント事務局から送られてきた招待状の封筒」



小野選手とご兄弟

中が長兄の貢さん、右が次兄の太さん、左が小野選手。「書道では3人とも有段者の兄弟なんです」

Nonaka Ryo



トキワカップジュニアリーグ2位

野中亮

福岡県福岡市　(13歳)

❶'85年4月12日❷プクリン❸月刊コロコロコミックの記事を読んで知りました。❹100枚くらい？❺最近はあまり遊んでいないけど、以前は1日1～2回。小学校のころは学校でポケモンカードをしてもよかったので、もっとたくさん遊んでいました。クラスの男の子3/4はポケモンカードを集めていたと思います。❻ピアノを9年間続けています。❼今は特に考えていません。強いていえば……お金持ちになりたい。目指すは大きな会社の社長かな(笑)。❾積極的でチャレンジ精神旺盛です。(お父さん)

お気に入りのアイテム



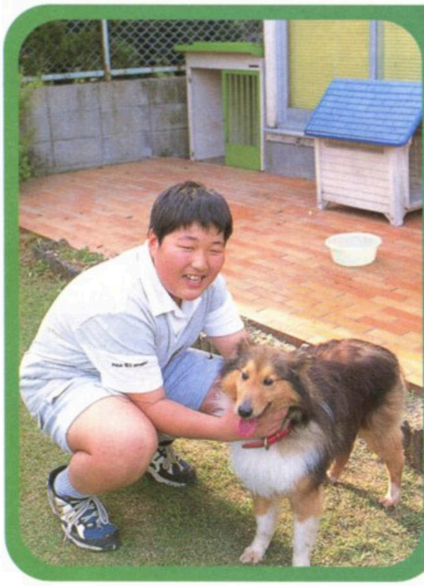
一番遊んでいるのはビーダマン。「ビーダマンは『バトルフェニックス』を使ってる」

野中選手とご家族



写真右からお父さん、弟の明彦君、お母さん、野中選手。家のすぐ外で撮影「弟もカードをプレイします」

Nomasa Yusuke



トキワカップジュニアリーグ3位

野正雄亮

福岡県行橋市　(12歳)

❶'86年4月16日❷ミュウツー❸ゲームボーイの『ポケモン』は知っていました。ポケモンカードはみんなが遊んでいて、面白そうだったから始めました。最初、ルールが難しいと感じたけど、それ以上に対戦が面白い。コレクションとともに楽しんでます。❹うーん、たくさん(笑)。❺他のクラスの友だちと対戦しています。❻釣りです。週末、近所に自転車でバスフィッシングに行きます。今までにブラックバスを1匹釣りました。釣れないときはくやしい(笑)。❼歯科医になりたい。

お気に入りのアイテム



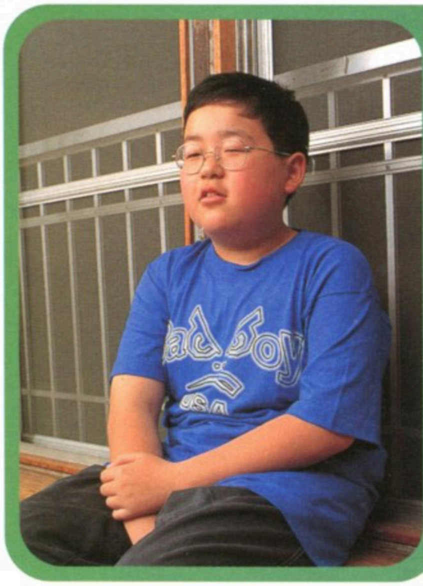
野正選手愛用のルアーのタックルボックス。「毎週、釣りに行っています」

野正選手と応援団



自宅の庭に学校の釣り仲間が応援のために集合！「いつもみんなで釣りに行ったり、カードをします」

Mitsunobu Yukihiro



トキワカップジュニアリーグ4位

光延幸紘

福岡県大牟田市　(11歳)

❶'86年8月29日❷カメックス❸月刊コロコロコミックで最初に掲載されたポケモンカードの記事を読みました。最初は対戦のルールがわからなかったので、カードを全種類集めるのが目的でした。❹今、300枚ちょっとかな。もうすぐ全種類集まります。拡張シートも買った!❺今は友だちと週に2回は確実にプレイしています。❻やっぱりポケモンカードが一番です。強いていえば2番目はハイパーヨーヨーかなあ。少しなら難しいワザも使えます。❼これから見つけていこうと思っています。

お気に入りのアイテム



光延選手の愛用の一品はメッキの『プラコロ』。「『プラコロ』の中でもミュウが好き」

光延選手と応援団



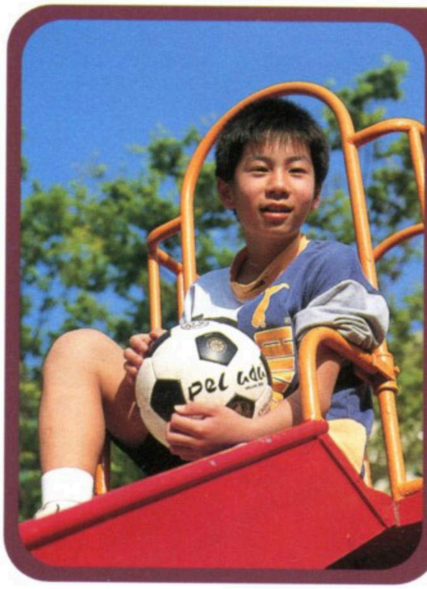
学校の友だちが光延選手宅に大集合。「ポケモンカードはいつも2回ずつ対戦しています」

質問の項目

(すべての回答は98年4月26日、日本一決定戦大会実施時のものです)

❶生年月日　❷好きなポケモン・ポケモンカード　❸ポケモンカードを始めたきっかけ　❹持っているポケモンカードの枚数　❺ふだんはどんな風にポケモンカードで遊んでいますか　❻ポケモンカード以外の趣味　❼将来の夢　❽友だちや兄弟から見た○○君　❾父母から見た○○君

Kubo Shintaro

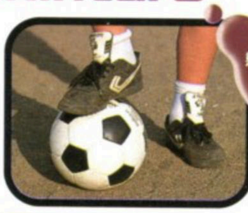


ニビカップジュニアリーグ(1月10日午前の部)優勝

窪慎太郎

千葉県千葉市　(12歳)

❶'85年9月26日❷ゼニガメ、カメックス❸次世代ホビーフェア会場で、ポケモンカードトレーナーにルールを教えてもらって。❹だいたい500〜600枚ぐらいかなあ❺最初のうちは別の学校の人たちと対戦して遊んでいたんだけど、すぐにぼくの学校でも流行らせました。❻やっぱりポケモンカードゲームです。あと得意な勉強科目は社会と体育。❼ワールドカップに出場できるような、一流のプロサッカー選手なることです。❽たまに大ボケする時もある、楽しい性格だと思います。(窪選手の応援団)



熱中しているスポーツ

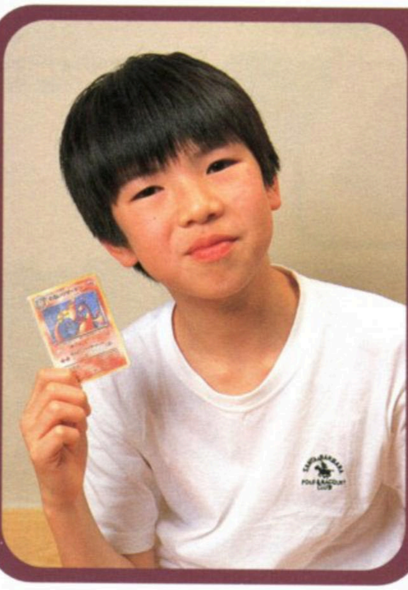
サッカー。「中学校ではサッカー部に入部しました。プロになりたい」



窪選手と応援団

みんなポケモンカードの腕自慢ぞろい。「予選落ちだけはするなって応援してくれました」

Asakura Chikai



ニビカップジュニアリーグ(1月10日午前の部)2位

浅倉誓

神奈川県川崎市 (12歳)

❶'85年7月1日❷ヒトデマン❸友だちに誘われた。❹1000枚くらい。❺最近は忙しくなってきたのであまり対戦してません。だけど、小学生のころは10人以上のポケモンカード仲間と毎日1時間くらいずつ対戦をしていました。❻いろいろなトレーディングカードゲーム、ハイパーヨーヨー。ちなみに勉強は嫌い、体を動かすことは好きなんだけど。❼決まっていません。でも、ダメな人間にはなりたくない(笑)。❽すごく強いのひと言。コイキングばっかり使ってくるところが面白い。(浅倉選手の応援団)



お気に入りのアイテム

ケースに入れて、きれいに整理されているプラコロ。「対戦するのが好きです」



浅倉選手と応援団

写真右より岩崎君、浅倉選手、高梨君、妹の瞳さん、池田君、吉川君。「小学校時代からの仲間」

Yoshino Naoki



ニビカップジュニアリーグ(1月10日午前の部)3位

吉野直樹

神奈川県川崎市　(12歳)

❶'85年11月3日❷エレブー❸友だちがみんなやっていたので。ポケモンカードを初めてプレイしたのはニビカップの1カ月前でした。❹たぶん2000〜3000枚くらい。数えたことはないけど。❺小学校時代のポケモンカード仲間たちと一日2〜3時間くらい対戦してます。❻ハイパーヨーヨー。ゲーム機はプレイステーションとニンテンドウ64を持っています。❼決まっていないけど……タレントかな?❽最強。コイントスがうまい。(吉野選手の応援団)❾カードを始めたばかりなのに大会で勝ったので、感心しました。(お母さん)



お気に入りのアイテム

得意なハイパーヨーヨー。「もちろんプロスピナー! ジャパンレベルです。」



吉野選手と応援団

妹のめぐみさん、お母さんと友だちでガッツポーズ。「友だちは、小学生のころからのつきあいです」

Hirano Takuya



ニビカップジュニアリーグ(1月10日午後の部)2位

平野拓哉

千葉県千葉市　(12歳)

❶'85年10月10日❷ベトベトン、ハクリュウ❸友達から誘われて、ルールを教えてもらって始めました。❹350枚くらい。❺毎日、30分くらいずつ対戦しています。小学校のころはクラスの男子の半分がポケモンカードを持っていました。❻ハイパーヨーヨー。4〜5個持っています。好きなスポーツは小学校の頃から続けているサッカー。❼プログラマーになりたい。ゲームを作ってみたいです。❾イベントに参加することが好きで、ミニ四駆の大会にも出場したことがあるんです。ひとりで何でもできるタイプです。(お母さん)



お気に入りのアイテム

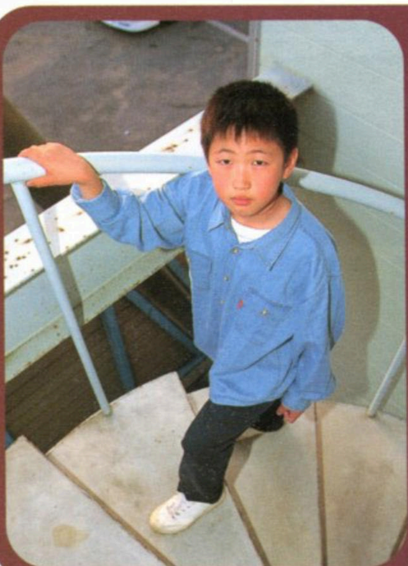
ハイパーヨーヨー。「ワザにいろいろ挑戦できるところが面白いです」



平野選手と応援団

写真右から弟の翔吾君、カード仲間の鈴木君、平野選手、お母さん。「弟ともたまに対戦します」

Kase Masahito



ニビカップジュニアリーグ(1月10日午後の部)3位

加瀬将仁

千葉県旭市　(11歳)

❶'87年2月21日❷エレブー❸5年生の行事、「宿泊体験」の時にポケモンカードを1枚もらったのがきっかけ。❹1415枚。❺ポケモンカード仲間は10人くらい、その中には女の子も2人います。平日は20分〜30分ほど、週末は1〜2時間くらい対戦しています。❻ハイパーヨーヨー。みんなで練習したり、遊んだりできるので楽しい。あとは『デジタルモンスター』。相手と戦えるので好き。❼これから決めようと思います。❾今まで何もとりえがなかったけど、こういう大きな大会に出れて、自信がつけばいいなと思います。(お母さん)



お気に入りのアイテム

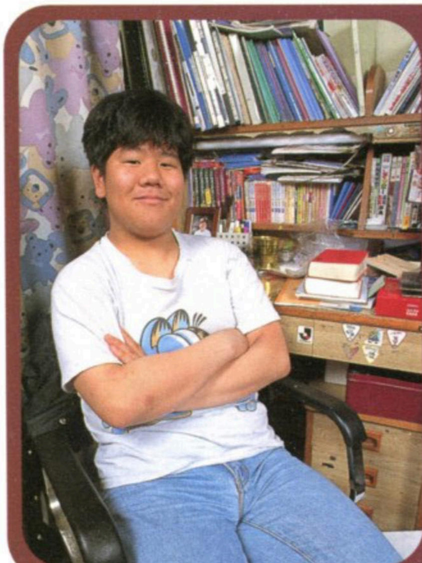
加瀬選手のハイパーヨーヨー。「ヨーヨーはみんなで練習できるのがいい」



加瀬選手とご家族

お母さんと恥ずかしがっている弟の将充君。「日本一になったら、おこづかいが5倍になるかも(笑)」

Ichikai Tatsuro

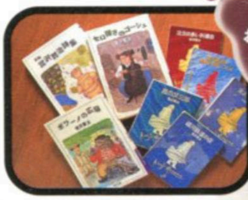


ニビカップシニアリーグ 優勝

一海達郎

東京都港区　(15歳)

❶'82年10月2日❷ガルーラ❸友人から「一緒にやらない?」って誘われたのがきっかけ。❹限定カードはなるべく4枚ずつ手に入れるようにしています。❺カードショップへ行って大人たちや強い中学生と対戦することもあります。❻やっぱりポケモンカードゲーム。他には宮沢賢治の小説を読むことが好きですね。❼鉄道関係の仕事。❽カードゲームは最強。ぜひ、3連覇してほしい。(一海選手の応援団)❾好きなものには、とことんのめり込むタイプですね。カードゲームのことになると目の色変えますから(笑)。(お母さん)



お気に入りのアイテム

一海選手の愛読書、宮沢賢治の小説。『銀河鉄道の夜』『風の又三郎』や詩集です」



一海選手と応援団

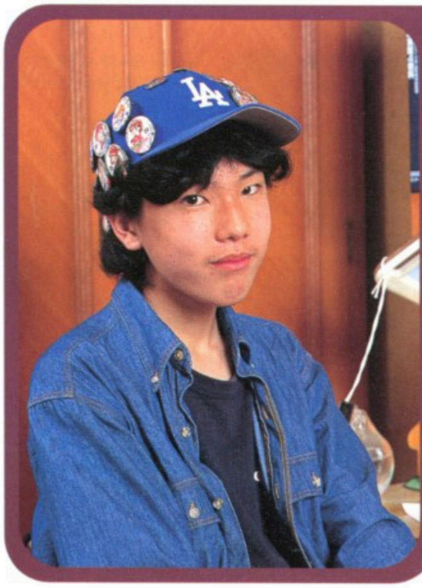
写真右から中島君、妹の美穂さん、一海選手、お母さん、田中君。「中島君と田中君とはよくカードをプレイします」

質問の項目

(すべての回答は98年4月26日、日本一決定戦大会実施時のものです)

❶生年月日　❷好きなポケモン・ポケモンカード　❸ポケモンカードを始めたきっかけ　❹持っているポケモンカードの枚数　❺ふだんはどんな風にポケモンカードで遊んでいますか　❻ポケモンカード以外の趣味　❼将来の夢　❽友だちや兄弟から見た○○君　❾父母から見た○○君

Ichinose Masahiko



ニビカップシニアリーグ2位

一ノ瀬雅彦

千葉県印旛郡　（14歳）

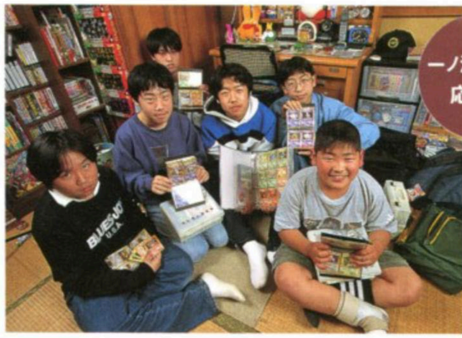
❶'83年7月29日❷ゴースなどのゴースト系ポケモン❸ゲームボーイの『ポケモン』がもともと好きでした。イベントのティーチングコーナーでカードゲームのルールを教えてもらったら、だんだん面白さがわかってきました。❹ポケモンカード仲間は20人くらい。平日は1日20分、週末は1～2時間くらい対戦しています。❺1000枚を越えた！❻好きなゲームはパズルゲーム。対戦系のパズルゲームがとくに好き❼まだ決めていない❽カードの使い方がすごくうまいと思う（岩出君、秋元君）

＊一ノ瀬選手は本人のご都合により日本一決定戦出場を辞退されました



お気に入りのアイテム

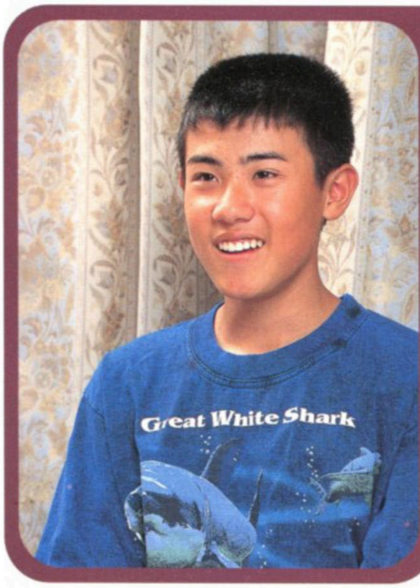
セガサターンと対戦型パズルゲーム「『ぷよぷよSUN』が大好き」



一ノ瀬選手と応援団

一ノ瀬選手の部屋に応援団が大集合！「みんなポケモンカードの実力派です。強いですよ」

Takatsuka Yusuke



ニビカップシニアリーグ3位

高塚祐輔

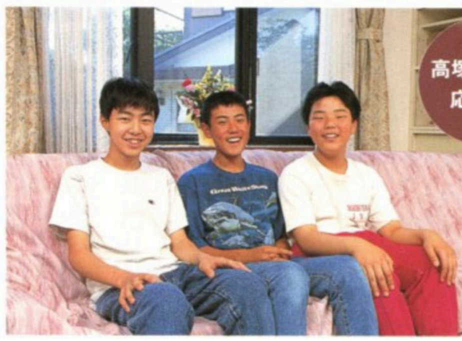
埼玉県東松山市　（13歳）

❶'84年7月12日❷トサキントとルージュラ❸月刊コロコロコミックで、ポケモンカードについての記事を読んで。❹休みの日に、友だちの家に行って2～4回くらい対戦しています❺スターターパックを大体15個ぐらい持っています。ほとんど全種類持っていますよ。❻やっぱりトレーディングカードゲームですね。それから学校のクラブ活動で軟式テニスを毎日やっています。❼ゲームプログラマーです。モノを作る職業にすごく興味があります。❾このまま素直にすくすくと育ってほしいと思います。（お父さん）



お気に入りのアイテム

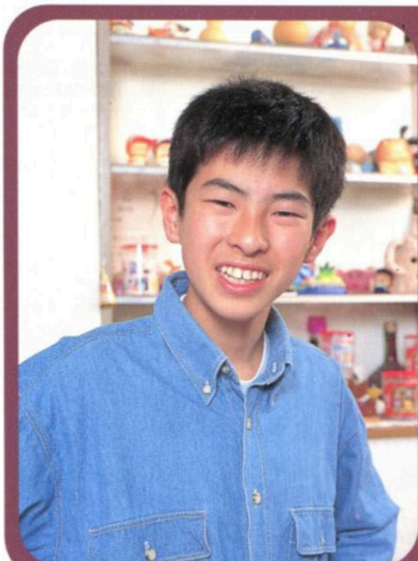
高塚選手の軟式テニスラケット。「毎日クラブ活動で日焼けしてしまいました」



高塚選手と応援団

近所の幼なじみ、石田君、栗原君に囲まれて「今日は僕の応援に来てくれました」

Miyadera Keisuke



ニビカップシニアリーグ4位

宮寺啓祐

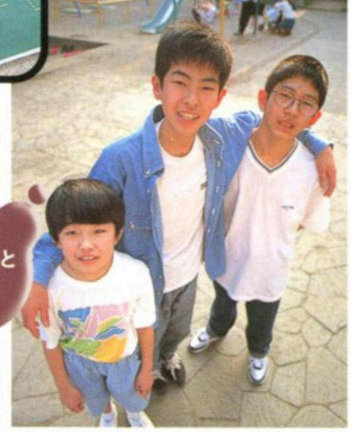
東京都練馬区　（13歳）

❶'84年10月4日❷カイロスとイマクニ？❸ためしに拡張パックを1つ買ってみたら、いきなりサンダーが出て「わあ、もしかして俺は才能あるのかもしれない！」と思って（笑）。❹たくさん持っています。❺同級生と対戦しています。ポケモンカードは強いカードが勝つんじゃなくて、運の強い人が勝つところが好きです。❻中学生になって、軟式テニス部に入部しました。❾私自身もUFOキャッチャーとか好きで、よく集めてきたりするんですよ。いい趣味だと思いますよ。　変な道に進むよりは（笑）。（お母さん）



お気に入りのアイテム

宮寺選手の軟式テニスラケット。「軟式テニスは中学に入ってから始めました」



宮寺選手と応援団

写真右から友だちの市川君、宮寺選手、妹の香苗さん。「カードでよく対戦している市川君が応援に来てくれた」

Machida Takashi



ニビカップジュニアリーグ(1月11日午後の部)優勝

町田敬

埼玉県浦和市　(11歳)

❶'86年7月28日❷草ポケモン❸友だちに誘われて始めました。❹300枚ぐらいかな❺毎日30分くらい対戦しています。対戦仲間は2〜3人、トレーディング仲間が5〜6人。お父さんともよく対戦しています。お父さんの腕前はかなりのもの！❻プレイステーションとハイパーヨーヨーです。ヨーヨーは4つ持ってます。スポーツはサッカーのチームに小学1年生の頃から入っています。ポジションはディフェンダー。❼カードゲームが大好きなので、いろんなカードを扱っているカードショップの店長になりたいです。❾何事にも一生懸命とりくむ子です。(お母さん)



お気に入りのアイテム

ハイパーヨーヨーとプレイステーション。「格闘ゲームやRPGが好き」



町田選手とご家族

温かいご家族に囲まれて。写真右からお爺さん、町田選手、お母さん、お婆さん。「いつも応援してくれます」

Kasuya Hisashi



ニビカップジュニアリーグ(1月11日午後の部)2位

粕谷久矢

埼玉県浦和市　(12歳)

❶'85年8月29日❷フシギバナとフシギダネ❸お母さんが買ってきてくれたのがきっかけ。❹たぶん全部で500枚くらいはあると思う。❺だいたい一日に30分〜1時間ずつ、3〜4人くらいの友だちと対戦しています。ポケモンカードは学校中で流行っています。❻ハイパーヨーヨー。いろんなヨーヨーをコレクションしています。学校のクラブ活動は柔道部に入りました。❼いつの日か世界を変えてみたい！❽どうせ出場するのなら、日本一になってくるくらいの度胸が欲しいと思います。(兄の勇児さん)



お気に入りのアイテム

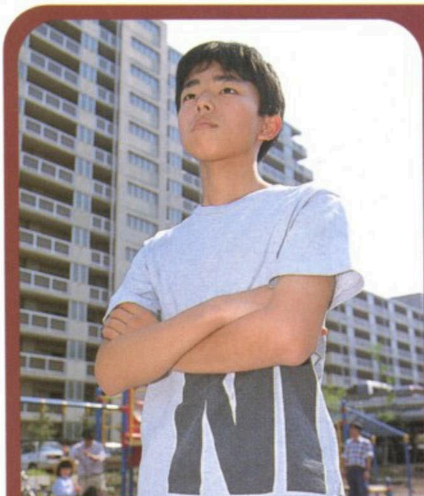
たくさんのハイパーヨーヨー。「8〜9個はコレクションしています」



粕谷選手とご家族

お母さんと兄の勇児さんに囲まれて撮影。「がんばって、日本一になってこようかな？」

Kanda Kazunori

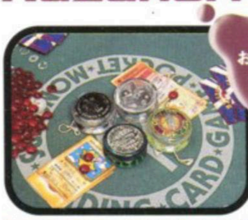


ニビカップジュニアリーグ(1月11日午後の部)3位

神田一憲

千葉県柏市　(12歳)

❶'85年8月7日❷カメックス❸友だちが始めていて、それを見ていたらすごく面白そうだったから。❹大体600枚くらい。❺学校で流行っています。休みの日は1〜2時間❻ハイパーヨーヨーかな。あと流行っているのは鬼ごっこ！　得意な勉強は数学。部活に関してはこれから決めようと思っています。❼弁護士。❽強い！　神田君はクラスの中では1〜2番目にカードが強いよ。(神田選手の応援団)❾意外でした(笑)。知らずに出かけたら、3位の楯を持って帰ってきたのですごいことなんだな、と思いました。(お母さん)



お気に入りのアイテム

ハイパーヨーヨーとポケモンカードゲーム「すごく流行っています」



神田選手と応援団

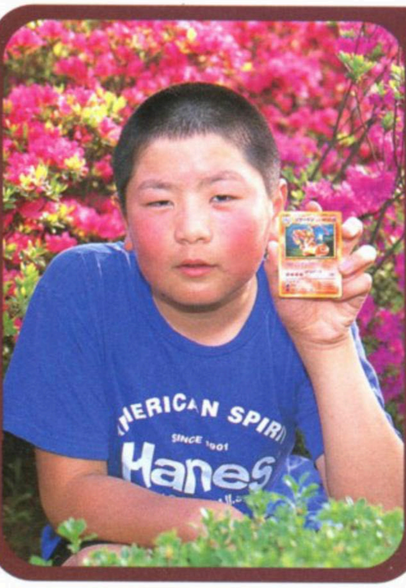
部屋には同級生の友だちがたくさん集まってくれた。「決意が固まりました。日本一決定戦でがんばる」

質問の項目

(すべての回答は98年4月26日、日本一決定戦大会実施時のものです)

❶生年月日　❷好きなポケモン・ポケモンカード　❸ポケモンカードを始めたきっかけ　❹持っているポケモンカードの枚数　❺ふだんはどんな風にポケモンカードで遊んでいますか　❻ポケモンカード以外の趣味　❼将来の夢　❽友だちや兄弟から見た○○君　❾父母から見た○○君

Kawashima Kozo



ニビカップジュニアリーグ(1月11日午後の部)4位

川島功三

埼玉県大宮市　(11歳)

❶'86年6月23日❷リザードンとキュウコン❸月刊コロコロコミックの記事でポケモンカードを見て、面白そうだなと思った。❹1000枚以上かな。❺学校で流行っています。ポケモンカード仲間は10人ぐらいかな。毎日2時間くらい対戦していると思う。❻野球チームでキャプテンをしています。背番号は33番。学校では家庭科が大好きで、料理を作るのがすごく得意!❼大金持ち。いっぱいゲームが欲しいから。❽デッキを作るのがすごくうまい。予想できないようなカードを次々と出してくる。(川島選手の応援団)



熱中しているスポーツ

野球のユニフォーム。「キャプテンで守備位置はキャッチャーです」



川島選手と応援団

写真右から佐藤君、原田君、坂井君、永濱君、三上君。「同級生の応援団。いつもカード大会を開いています」

Nishikawa Hitoshi



ハナダカップシニアリーグ2位

西川仁

大阪府堺市　(13歳)

❶'84年6月6日❷リザードン❸みんなでお店に行ったら売っていたので、買ってみたのがきっかけです。❹1000枚くらい。❺一緒にカードを始めた10人ぐらいの友だちと対戦をしています。❻ピアノです。クラブ活動は卓球。❼今は別に考えていません。これから探そうかなと思っています。❽私と対戦するときの勝敗は五分五分くらいかな(笑)。(妹の恵里さん)❾見かけによらず意志が強く、決めたことは最後までキッチリやる性格なんです。(お母さん)



お気に入りのアイテム

西川選手の趣味はピアノ「『ドラクエ』のテーマ曲とか、いろんな曲を弾きます」



西川選手の横顔

真剣にピアノを弾く西川選手の横顔。「ピアノはバイエルまで習いました。」

Sakaguchi Atsushi



ハナダカップシニアリーグ3位

阪口篤史

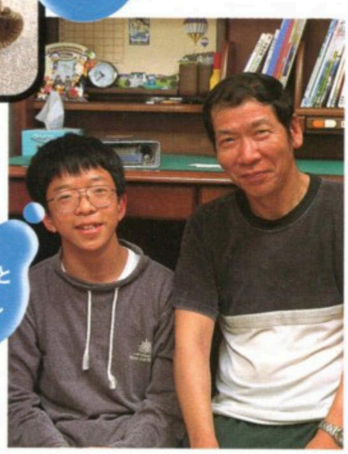
大阪府堺市　(14歳)

❶'84年4月20日❷リザードンとガルーラ❸友だちの家に泊まりに行ったときに、遊び方を教えてもらった。❹たくさん持ってる。もちろん「ロケット団参上!」も持っています。❺カードを教えてくれた友だちと何十回も対戦している。❻ハイパーヨーヨー。❼将来は任天堂に入社していろんなゲームを作ってみたい。ゲームは『スーパーマリオ』が大好きです。❾すごく素直で真面目な性格。何かに夢中になると、そのことに一生懸命になってしまうんです(お父さん)



お気に入りのアイテム

グローブはお父さんから譲り受けたもの。「キャッチボールをしています」



阪口選手とお父さん

阪口選手の部屋で優しいお父さんと一緒に撮影。「いつもお父さんはキャッチボールをしてくれます」

Sugimoto Shinji



ハナダカップシニアリーグ4位

杉本信二

大阪府枚方市　（15歳）

❶'82年10月15日❷ラッキー❸近所の年下の子たちがポケモンカードをやっていたんで、面白そうだなと思って始めました。❹全種類集めました。全部で5デッキ分ぐらいあると思います。❺僕はコレクションするタイプなんですよ。だから、あまり対戦はしていないんです。❻ブラックバス釣りです。今までに30cmぐらいのブラックバスを釣ったことがありますよ。❼理容師になろうと考えています。❾小さな子の面倒を良く見る優しい性格です。子どもが本当に好きなんだなって思います。(お父さん)



お気に入りのアイテム

愛用品は携帯カセット、ショックウェーブ。「音楽はB'zのファンです」



杉本選手とお父さん

日本一決定戦前日に、幕張のホテルにて撮影。「父が大会に一緒について来てくれました」

Kokubu Sosuke



ハナダカップジュニアリーグ優勝

国分荘輔

大阪府大阪市　（12歳）

❶'85年10月8日❷エレブー❸友だちと一緒に始めました。ルールが難しかったので、最初はカード30枚のデッキを作って対戦しました。❹わかりません。❺しょっちゅう遊んでいます。友だちとトーナメント大会をしたり、対戦したり、トレーディングをします。❻ハイパーヨーヨー！　得意な勉強の科目は体育。走るのがメチャメチャ早いのが自慢。❼ゲームを作る人か、陸上選手になりたい。❽ポケモンカードが強い！　強すぎます(笑)。(国分選手の応援団)❾元気で、友だちも多いし、すごく良い子だと思いますよ。(お母さん)



お気に入りのアイテム

得意なハイパーヨーヨー。「ヨーヨーのトリックはトウキョウタワーが得意です」



国分選手と応援団

近所に住んでいるポケモンカード仲間が大集合！「いつも、みんなと対戦しているよ」

Yamada Koki



ハナダカップジュニアリーグ2位

山田航己

滋賀県大津市　（12歳）

❶'85年10月23日❷ストライク❸もともとカードをコレクションするのが好きだったんです。最初はゲームボーイの『ポケモン』もよく知りませんでした。❹200枚～300枚くらい。最近、エネルギーカードをもらって、2つ目のデッキを作ったんだけどすごく弱い(笑)。❺学校でめちゃめちゃ流行っています。みんなでトレードをしたり、対戦をしたりしています。❻インラインスケート。友だちの家に遊びに行くのもインラインスケートで走って行ってます。❼小さい子と遊ぶのが好きなので、将来は保父さんになりたい！❾元気が一番のとりえです。(お父さん)



お気に入りのアイテム

いつも使っているインラインスケート。「毎日、これで走っています」



山田選手とお父さん

日本一決定戦前日にホテルにてお父さんと撮影。「東京へはお父さんと一緒に来ました」

質問の項目

(すべての回答は98年4月26日、日本一決定戦大会実施時のものです)

❶生年月日　❷好きなポケモン・ポケモンカード　❸ポケモンカードを始めたきっかけ　❹持っているポケモンカードの枚数　❺ふだんはどんな風にポケモンカードで遊んでいますか　❻ポケモンカード以外の趣味　❼将来の夢　❽友だちや兄弟から見た○○君　❾父母から見た○○君

Hirata Takashi



ハナダカップジュニアリーグ3位

平田峻

大阪府吹田市　（10歳）

❶'87年6月18日❷くいしんぼカビゴン❸お兄ちゃんとお姉ちゃんがスターターパックを買ったのがきっかけ。お兄ちゃんに教えてもらった。❹お兄ちゃん、お姉ちゃんとの対戦が中心。デッキはいつも兄弟で研究しています。❺兄弟全員であわせて4000枚くらい。❻剣道を習っています。今は4級。たまに大会にも出場します。❼今のところ、まだ考え中。❽3回戦以内で負けたらちょっとやだな。（兄の岳さん）❾何でも3人でする兄弟なんです。末っ子なのでお兄ちゃんの影響を一番受けているようです。（お母さん）



熱中しているスポーツ

平田選手は剣道を稽古中。「日曜日に学校の体育館で稽古しています」



平田選手とご兄姉

兄の岳さんと姉の優さんとポケモンカードの対戦をしながら撮影「いつも兄姉と協力してデッキを作っているんです」

Kubota Goro



ハナダカップジュニアリーグ4位

久保田悟朗

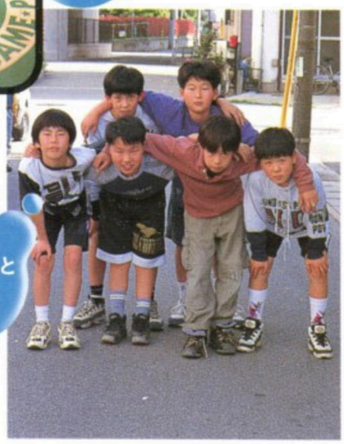
兵庫県西宮市　（11歳）

❶'87年3月19日❷カメックス❸友だちから面白いと聞いたので、遊んでみたら楽しかったので強くなりました。❹400〜500枚くらい❺放課後にみんなでやっています。多い日は1日10回ぐらい対戦します。❻ミニ四駆。あと、最近はあまり遊んでいないんだけどテレビゲーム。ニンテンドウ64を持っています。❼警察官になりたい。悪い人をつかまえたいから。❽めっちゃ強い。対戦しても2分くらいで負けちゃうくらい強い。（久保田くんの応援団）❾マイペースでひとつのことに夢中になるタイプなんです。（お母さん）



お気に入りのアイテム

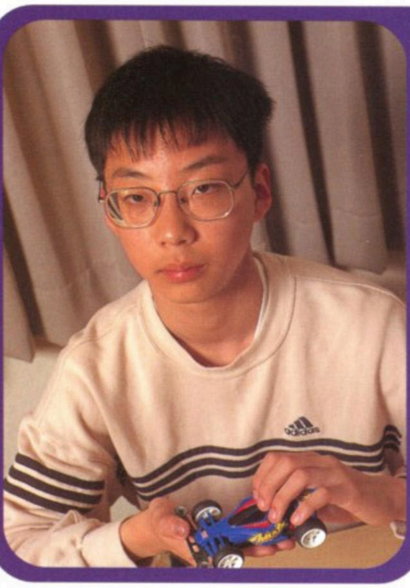
久保田選手の趣味はミニ四駆。「いろんなところを改造して軽くしています」



久保田選手と応援団

同級生の友だちが応援に来てくれた。「いつもポケモンカードで対戦する友だちです」

Kameyama Masashi

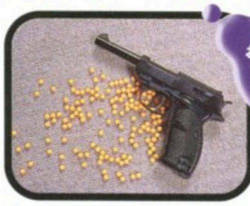


シオンカップシニアリーグ優勝

亀山誠司

北海道札幌市　（14歳）

❶'83年5月10日❷わるいハクリュー、サンダース❸テレビ番組『64マリオスタジアム』でポケモンカードを見て、楽しそうだったから。❹2000枚ぐらい、ほとんど全種類持っています。❺週に6回くらい、カードショップで出会った友だちや学校の友だちと対戦しています。❻プラモデルを作るのが好きです。中でも好きなのは『機動戦士ガンダム』のシリーズ。学校で好きな科目は数学。計算するのが好きなんです。❼まだ、決まっていません。まずは次のテストでいい点とることが大事かな。



お気に入りのアイテム

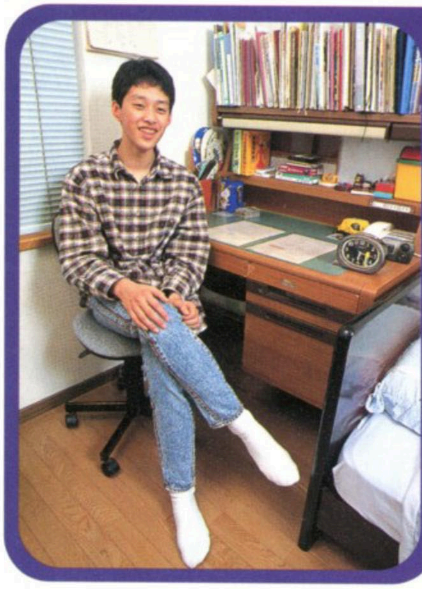
愛用のエアガン。ワルサーP38。「ルパン三世が好きなので」



亀山選手とお友だち

学校の同級生の増子君が応援に来てくれた。「ポケモンカードでいつも対戦しています」

Tanino Hiroaki



シオンカップシニアリーグ2位

谷野宏彰

北海道札幌市　（14歳）

❶'83年5月25日❷エレブー❸ゲームボーイの『ポケモン』が好きでした。ポケモンカードは弟とダイエーで見つけて買いました。❹1000枚くらい、あるかも。❺15人くらいの友だちとカードを貸し借りしながら、対戦しています。あと、弟と対戦します。❻数学。ソロバンを習っていたことがあるので計算が得意なんです。❼まだ別にありません。今は高校合格を目指して、勉強で精一杯です。❾学校ではおとなしいのですが、ポケモンカードの大会があると朝6時から起きるほど元気になるんです。（お母さん）

お気に入りのアイテム



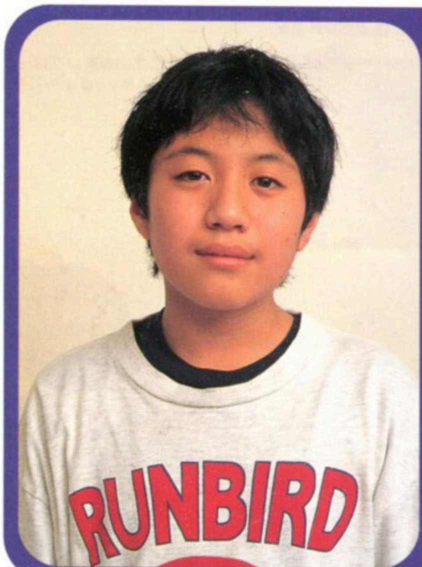
愛読書は毛利元就の小説。「ゲームで戦国武将に興味を持ちました」

谷野選手と応援団



応援団は同じ学校の友だち。「みんな塾も同じなので、いつもうちで集まってから塾に行くんです」

Enomoto Shohei



シオンカップシニアリーグ3位

榎本壮平

北海道札幌市　（13歳）

❶'84年10月26日❷ライチュウとサンダー❸発売してまもないころ、友だちがカードを持っていたので始めた。❹2000枚以上はあるはずです。❺休日に友だちの家で1〜2時間くらい遊びます。ポケモンカード仲間は5〜6人。❻音楽を聴くこと。好きなバンドはGLAYやLUNA SEA。あと、小学生のころにやっていた卓球を最近再び始めました。❼今のところはありません。❾中学生の選手もけっこう多いと聞いて驚きました。自分の実力で勝ちとったものなので、これを機会に他のことに関しても自信を持ってくれれば嬉しい。（お父さん）

お気に入りのアイテム



榎本選手のポータブルCDプレイヤー。「大会の会場にも持っていきました」

榎本選手とお父さん



日本一決定戦前日にホテルにて撮影。「日本一決定戦ではがんばりたい」

Fujimori Kengo



シオンカップシニアリーグ4位

藤森研伍

北海道札幌市　（13歳）

❶'85年2月14日❷メタモン❸『ギフトパック』を親に買ってもらったのがきっかけでポケモンカードを集め始めました。❹毎週末に対戦しています。多いときで5〜10回ぐらい。❺だいたい300枚以上あります。❻学校のパソコンを使ってこっそりと遊んでいます。『一太郎』で文章を作って、テキストリーダーで喋らせると、まるで宇宙人が喋っているみたいで面白いんです。❼なれるものなら動物になりたい。鳥になってみたい。❽ポケモンカードはいとこと楽しんでいるようです。（お母さん）

お気に入りのアイテム



ガシャポンの「フルカラーコレクション」。「ポケモンはゲームボーイ版をきっかけに夢中になりました」

藤森選手と応援団



お母さんとポケモンカード仲間が集合。「みんな近所の年下のポケモンカード仲間です」

質問の項目
（すべての回答は98年4月26日、日本一決定戦大会実施時のものです）

❶生年月日　❷好きなポケモン・ポケモンカード　❸ポケモンカードを始めたきっかけ　❹持っているポケモンカードの枚数　❺ふだんはどんな風にポケモンカードで遊んでいますか　❻ポケモンカード以外の趣味　❼将来の夢　❽友だちや兄弟から見た○○君　❾父母から見た○○君

Shimizu Masatoshi

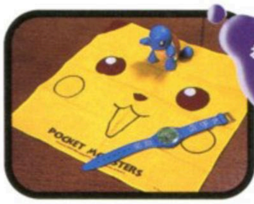


シオンカップジュニアリーグ優勝

清水理俊

北海道札幌市　（10歳）

❶'88年3月11日❷ライチュウ❸友だちから面白いっていう評判は聞いていた。そうしたら兄が塾の帰り道に買ってきてくれた。❹休日に兄やいとこと対戦しています。❺たくさんあってよくわからない（笑）。❻最近はハイパーヨーヨーに凝っています。初めて買ったヨーヨーは『ハイパーインペリアル』。今はブランコを練習中。❼ゲームやトレーディングカードゲームを作るクリエイターになりたい。❽やっぱり兄弟やいとこの中でも一番強い。（いとこの佑子さん）❾夏休みや休日は朝から晩までカードに夢中になってます。（お母さん）



お気に入りのアイテム

宝物はピカチュウグッズ。ハンカチに腕時計。「どれもお気に入りです」



清水選手と応援団

写真右から弟の康俊君、いとこの佑子さん、清水選手、兄の孝俊さん。「いつも対戦しています」

Takeda Satoshi



シオンカップジュニアリーグ2位

武田理志

北海道札幌市　（11歳）

❶'86年8月26日❷フリーザーとサンダー❸ゲームボーイの『ポケモン』は100匹まで集めました。ポケモンカードは友だちが遊んでいるのを見たら、面白そうだったから。❹たくさんあって、どれを持っていないかわからないほど持っています。❺週に2～3回対戦しています。クラスの男子の半分くらいはカードゲームをやっていると思います。❻趣味は4歳から続けているピアノ。楽器の演奏が好きです。学校で好きな科目は理科。実験に興味があります。❼特に決めていません。



お気に入りのアイテム

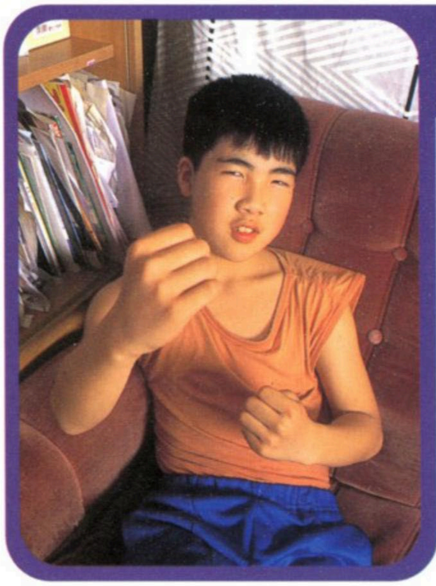
愛用している青いグローブ。「いつもキャッチボールをしています」



武田選手と応援団

お母さん、弟の幹史君、武田選手と友だちの藤田君、野荒君と藤田君のお母さん。「応援に来てくれました」

Kato Kazuhito



シオンカップジュニアリーグ3位

加藤和人

北海道札幌市　（11歳）

❶'86年5月31日❷コイキング、ピカチュウ❸もともとゲームボーイの『ポケモン』が好きだった。ポケモンカードは友だちからもらったことで始めました。❹毎日、近所のゲームショップで友だちやお兄ちゃんと対戦しています。❺だいたい1000枚くらい。❻ゲームボーイの『ポケモン』では「ポケモンリーグ」の全国大会にでたことがあります。あとはミニ四駆とハイパーヨーヨーを少々。勉強は一切嫌い。❼世界一のポケモントレーナーになりたい。❽いつも弟と一緒にデッキを組んだり、対戦したりしています。（兄の勝治さん）



お気に入りのアイテム

「ピカチュウおしゃべりぬいぐるみ」「大会にも持っていく！」



加藤選手と応援団

学校の友だちが応援団。「全員ポケモンカードができる。いつもウチに集まって対戦している」

Iemura Takayuki



シオンカップジュニアリーグ4位

家村貴行

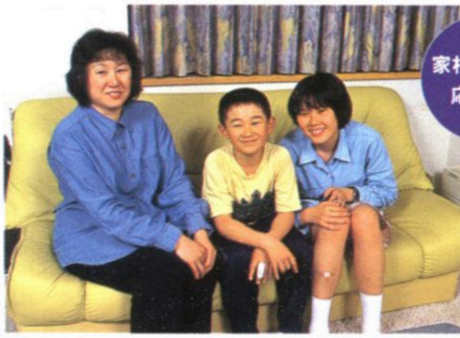
北海道札幌市　(10歳)

❶'87年9月28日❷ミュウツー、リザードン❸ゲームボーイの『ポケモン』は151匹集めました。ポケモンカードは誕生日に友だちからもらって。❹1000枚以上。ほとんど全種類持っています。❺週に4回ぐらい、友だちの家や僕の家で対戦しています。今、学校中でポケモンカードが流行っています。❻毎朝4時30分に起きて野球をやってます。ポジションはレフト。あとビーダマンとミニ四駆とハイパーヨーヨーが好き。❼将来はポケモンカードを作ってみたいです。❾ポケモンカードを買ってきて、と頼むので大変です。(お母さん)



お気に入りのアイテム

家村選手が愛用しているビーダマン。「強いショットを打てると嬉しい」



家村選手と応援団

お母さんとお姉さんのまどかさんと一緒に撮影。「いつもお母さんがカードを買ってきてくれます」

Ito Jota



クチバカップシニアリーグ優勝

伊東丈太

愛知県春日井市　(13歳)

❶'84年7月25日❷ストライク❸デパートに行ったら売っていて、面白そうだったからです。❹おまけカード以外は全種類持っています。❺ポケモンカードをプレイする友だちは7人ぐらい。休みのときは友だちと、家にいるときはお兄ちゃんと対戦しています。❻ハイパーヨーヨーとゲームボーイの『ポケットモンスター(青)』。❼ポケモンカードのワザを考える仕事をしてみたいです。❾東京まで招待されたとき、それがどういうことだか全然ピンとこなかったものですが……すごいことですね(笑)。(お父さん)



お気に入りのアイテム

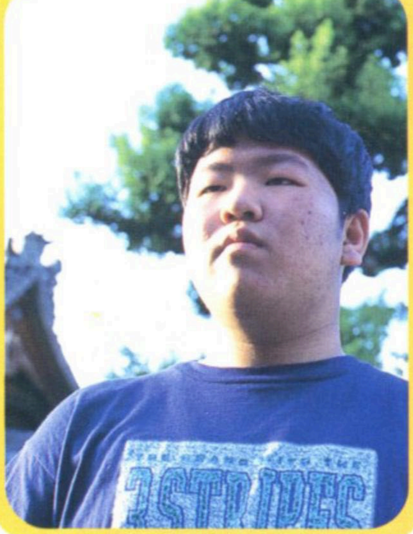
ハイパーヨーヨーとスケルトンのゲームボーイ。「ポケモンが一番好き」



伊東選手とお父さん

日本一決定戦前日にホテルにて撮影。「お父さんが東京まで一緒に来てくれました」

Oda Naoki



クチバカップシニアリーグ2位

小田直輝

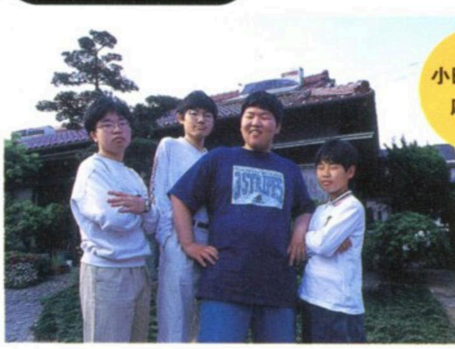
愛知県小牧市　(14歳)

❶'83年7月31日❷プテラ❸もともとゲームボーイの『ポケットモンスター』をやっていたんです。それで、こういうカードゲームがあるんだなっておもちゃ屋さんで知って、友だちと一緒に始めました。❹200〜300枚はあると思います。❺中学校ではすごく流行っていました。40人以上で対戦していたこともあります❻趣味は本を読むこと。中でもファンタジー系の小説が好きです。小説を書いていたこともあります。好きな授業は社会、歴史。好きな武将は織田信長です。❼将来は作家になりたいですね。



お気に入りのアイテム

大好きな小説は『スレイヤーズ』シリーズ。「小説は読むのも書くのも好き」



小田選手と応援団

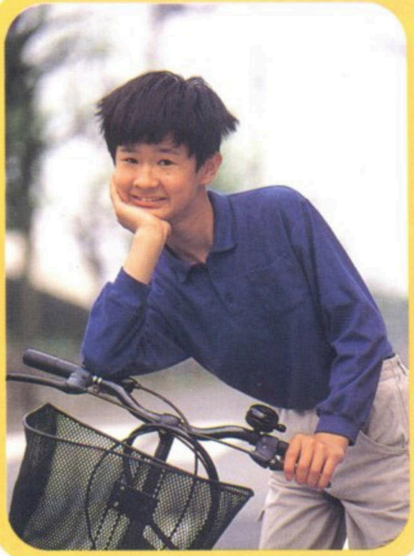
写真右から弟の憲司君、小田選手、カード仲間の菊池君、後藤君。「弟の方が強いんです(笑)」

質問の項目

(すべての回答は98年4月26日、日本一決定戦大会実施時のものです)

❶生年月日　❷好きなポケモン・ポケモンカード　❸ポケモンカードを始めたきっかけ　❹持っているポケモンカードの枚数　❺ふだんはどんな風にポケモンカードで遊んでいますか　❻ポケモンカード以外の趣味　❼将来の夢　❽友だちや兄弟から見た○○君　❾父母から見た○○君

Nonaka Satoshi



クチバカップシニアリーグ3位

野中　聡

東京都杉並区　（13歳）

❶'84年10月23日❷エレブー❸クラスで3番目か4番目にスターターパックを買いました。実際に遊んでみたら面白かった。❹今、名古屋から東京に引っ越しの最中なので、数はわかりません。❺クラスの男の子の4分の3はポケモンカード仲間だったかな？❻ヨーヨーかなあ。ワザもいろいろできます。❼ポケモンカードを作ってみたいなあ。でも、そんな大それたことできないかな。❾友だちと大会へ行ったので、名古屋の大会で入賞したのは帰ってきてから知ったんです。だから日本一決定戦に出るなんてびっくりしています。（お母さん）



お気に入りのアイテム

宝物はポケットモンスターの青バージョン。「ポケモンは100匹以上集めました」



野中選手と応援団

写真右から叔母さん、お母さん、野中選手。「今日は叔母さんが応援に来てくれました」

Shimizu Mikiwo



クチバカップシニアリーグ4位

清水幹雄

愛知県豊田市　（15歳）

❶'83年3月12日❷にせオーキドの逆襲❸スーパーでたまたま並んでいたのを、見つけて。❺1週間に1回ぐらいかな。それほどは遊ばない。❻勉強では社会が得意。中でも歴史が好き。学校の授業では今、公民（政治・経済）を勉強しています。❼今のところはありません❾マイペースで何でも自分でこなすタイプです。クチバカップの出場も自分ひとりで申し込んでいたので、私は知りませんでした。ポケモンカードイベント事業部から日本一決定戦の連絡があって初めて4位に入ったことを知ったんです。（お母さん）



お気に入りのポケモンカード

清水選手が一番気に入っているポケモンカードは「にせオーキドの逆襲」



清水選手と妹さん

小学校2年生の妹のりえさんと一緒に撮影。「妹はこれからポケモンカードを覚える予定です」

Taniguchi Ippei



クチバカップジュニアリーグ　優勝

谷口一平

愛知県名古屋市　（12歳）

❶'85年11月5日❷ピクシー❸誕生日に、ゲームショップで親に買ってもらいました。❹全部の数は数えたことがないのでよくわかりません。『第1弾』のカードはあと2枚で集まります。❺週末に隣に住んでいるいとこと対戦しています。ポケモンカード仲間は3人くらいです。❻最近は卓球です。部活で初めてやったんだけど、面白かった。❼いつかポケモンカードを作りたい。❾名古屋の1000人を越す出場者の中から勝ち残るなんて驚きでした。悔いのないゲームをして欲しいと思っています。（お父さん）



お気に入りのアイテム

ポケモンカードトレーナーの帽子。「クチバカップ優勝はすごく嬉しかった」



谷口選手とお父さん

日本一決定戦前日のホテルでお父さんと一緒に。「お婆ちゃんにも、母にも応援されて来ました」

Yamamoto Takahiro



クチバカップジュニアリーグ2位

山本高弘

愛知県名古屋市　(12歳)

❶'85年5月1日❷エレブー❸小5のとき、クラス全員(男の子)がポケモンカードをやっていたから。❹『ロケット団』以外なら全種類持っている。カードを集めるのが好き。❺週末に2試合ぐらい対戦している。1試合やるのにはだいたい30分くらいかかります。ポケモンカードはみんなでわいわい遊べるところがいいと思う。❻好きな教科は体育。陸上競技が得意。自分で言うのもなんだけど、足が速い。それで学校では陸上部に入りました。長距離をやってみたい。❼今は特にないですね。

お気に入りのアイテム



山本選手のヨメガの『ファイヤーボール』。「これから、練習してうまくなりたい」

山本選手と応援団



山本選手の応援団。右端二人は弟のけんご君とその友だち。「クラスの友だちが応援に来てくれました」

Oguri Kazuki



クチバカップジュニアリーグ3位

小栗一輝

愛知県名古屋市　(12歳)

❶'85年12月15日❷ニャース、リザードン❸ゲームショップで見つけたんです。それで説明書を読んだら面白そうだったから、友だちを誘って始めました。❹1000枚以上、ほとんどの種類を持っています。❺週に3回ぐらい。5人ぐらいの友だちと家で対戦しています。❻ヨーヨーをたまにやっています。スポーツはサッカーが好き。ポジションはフォワードかスイーパーをやってみたい。❼まだ決まってません。❽いつもポケモンカードで対決している、いいライバルです!(友人の今枝君)

お気に入りのアイテム



ミスター・ビーンのテディベア。「UFOキャッチャーで友だちが取ってくれた」

小栗選手と応援団



写真右から友だちの今枝君、小栗選手、妹の亜也奈さん、友だちの佐々君。「妹はピカチュウ好きです」

Sakai Yusuke



クチバカップジュニアリーグ4位

坂井祐介

愛知県尾張旭市　(12歳)

❶'85年7月16日❷ミュウ❸友だちに教えてもらったら面白かったから。❹500枚くらい。❺学校でほとんど毎日対戦している。ポケモンカード仲間はだいたい4〜5人くらいいます。❻好きな勉強は体育。趣味はミニ四駆。数えたことはないけど10台以上持っています。『ポケモンクラフト』を作って、コレクションするのも好きです❽おもちゃ屋の店員。おもちゃが好きだから。❾小学校のときから学校にポケモンカードを持って行ったりして、夢中でした。あまり外で遊ばないのがちょっと残念かな。(お母さん)

お気に入りのアイテム



たくさん持っているミニ四駆。「一番好きなマシンは『ビートマグナム』」

坂井選手と応援団



応援団は小学校時代の同級生種村君と松原君。「今でもお互いの家で対戦をしていますよ」

質問の項目

(すべての回答は98年4月26日、日本一決定戦大会実施時のものです)

❶生年月日　❷好きなポケモン・ポケモンカード　❸ポケモンカードを始めたきっかけ　❹持っているポケモンカードの枚数　❺ふだんはどんな風にポケモンカードで遊んでいますか　❻ポケモンカード以外の趣味　❼将来の夢　❽友だちや兄弟から見た○○君　❾父母から見た○○君

COLUMN POKEMON CARD

第2回公式トーナメントを振り返る

MEMORIES OF POCKETMONSTERS CARDGAME OFFICIAL TOURNAMENT

神戸 マサラカップ

■97年11月8日■神戸国際展示場



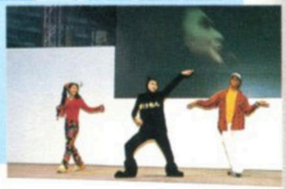


マサラカップは、ポケモンカードが独自で行ったはじめてのイベントだった。そのため「お客さんはたくさん来てくれるかな?」と関係者一同はドキドキしていたが、ふたを開けてみれば大盛況となった。公式トーナメントでは、はじめて女の子の上位入賞者が誕生した。まさにポケモンカードファンのためのイベントということもあって、朝から夕方まで、のんびり楽しく過ごすファンが大勢いた。

大阪 ハナダカップ

■98年2月1日■大阪ドーム





ハナダカップは公式トーナメント出場選手、来場者ともにその元気ぶりが印象的だった。中でも特徴的なのが、販売ブースの混雑ぶり。午後4時30分の閉場時間を過ぎても行列はいっこうに途切れず、最後のお客さんが帰ったのは何と午後7時30分を過ぎていたのだとか。リザードンメガバトルのジュニアリーグ決勝戦で対戦をすることになる国分選手と平田選手はともに、このハナダカップの出身だった。

福岡 トキワカップ

■97年12月7日■福岡ドーム





トキワカップ以降のイベントはコロコロコミックが主催する「次世代ワールドホビーフェア」の一環として開催されることになる。全国6大都市のドームで行われるという稀に見るビッグイベントの中で、ポケモンカードブースの注目度はひときわ高かった。公式トーナメントの決勝戦では、お互いに弱点を狙いあうスリリングな攻防戦が行われ、九州地区のレベルの高さを見せつけた。

札幌 シオンカップ

■98年2月8日■札幌コミュニティドーム



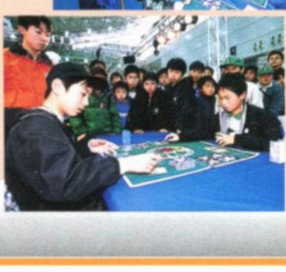


真冬の札幌での開催だけに、シオンカップ当日は雪に見舞われた。1日の最高気温がマイナス10度という極寒の中、選手たちは朝早くから集合し、元気に対戦を繰り広げた。この頃から決勝ステージの横に数台のモニターが設置され、観客は選手たちのプレイをじっくりと眺められるようになった。決勝出場選手たちのテクニックはさすがにうまく、観客から何度も何度もどよめきが起きた。

東京 ニビカップ

■98年1月10～11日■幕張メッセ



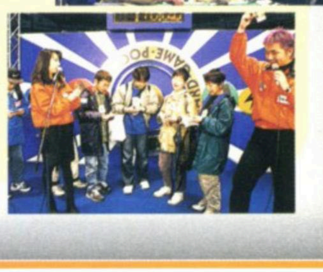


ニビカップは関東近郊で唯一の大会だけに8千人を超える参加希望があるほどの激戦区となった。そのため2日間にわたって、合計4回の公式トーナメントが行われることとなった。また98年の新ルールが採用されるはじめての大会だった。第1回公式トーナメントで上位入賞を果たした窪慎太郎選手と一海達郎選手がともに優勝の座を獲得。その名を全国に轟かせることになったイベントでもあった。

名古屋 クチバカップ

■98年2月15日■ナゴヤドーム





第2回公式トーナメントのトリとなったクチバカップは、のっけからクライマックスにふさわしい熱戦が繰り広げられた。

特に決勝戦では石原プロデューサーをして「これまでの決勝戦の歴史の中で、最高といえる名勝負」と言わしめるほどに、一手一手にスキがない高レベルの対戦が行われ、この後に続く日本一決定戦リザードンメガバトルへの期待感を盛り上げた。

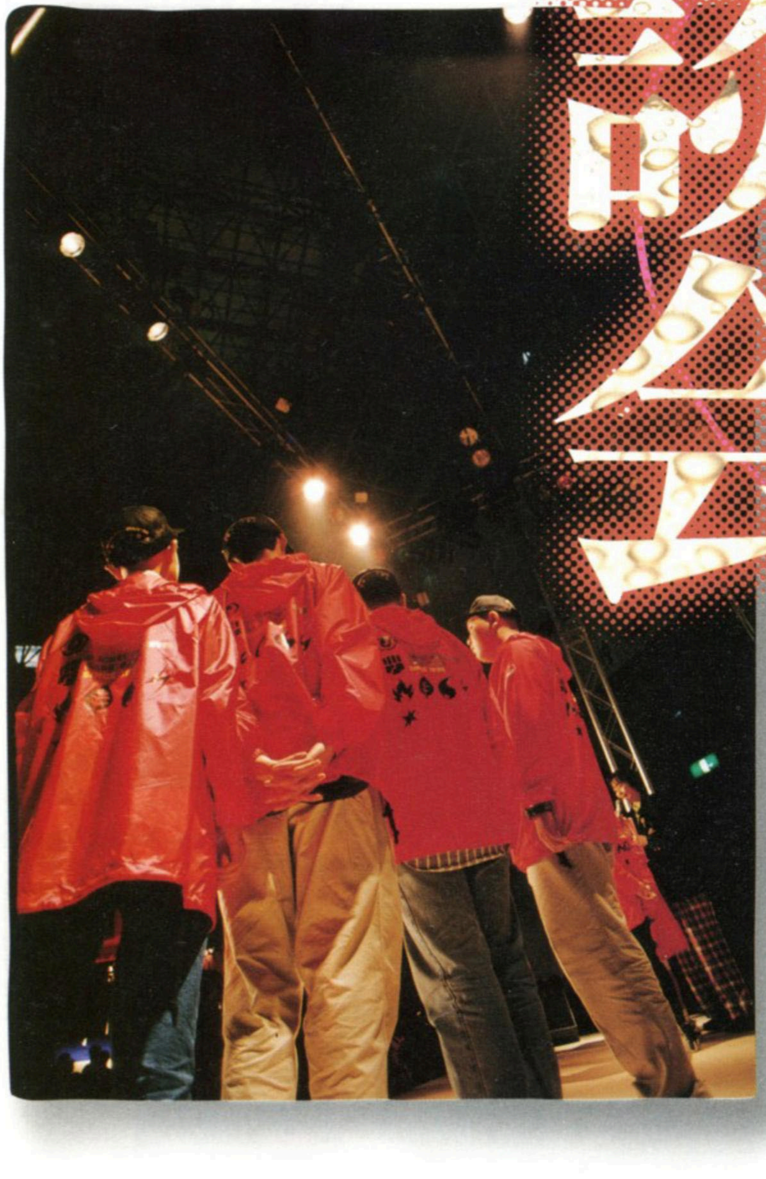
PART 3

pocketMONsters cardgAMe

日本一決定戦
リザードンメガバトル

インタビュー&座談会

石原恒和プロデューサーインタビュー
スペシャル座談会～イベントの愉しみ
ポケモンカードの歴史



日本全国を横断したポケットモンスターカードゲーム第2回公式トーナメント。そして全国から集結した選手たちが強さを競い合ったクライマックス——日本一決定戦リザードンメガバトル。ポケモンカードのプロデューサーとしてすべてのイベント会場を回っている石原恒和氏に、リザードンメガバトルの印象、ガルーラ親子大会への想い、そしてポケモンカードの今後の展開について伺ってみた。

最大級に盛り上がったリザードンメガバトル

すべてが予想を超えた素晴らしい大会でした

想像を超えたレベルだった選手たちのテクニック

——様々なドラマが生まれた日本一決定戦リザードンメガバトルですが、石原さんご自身が最も印象に残ったシーンはどこでしょうか?

石原　決勝トーナメントに進んだ選手たちは、デッキを非常に高度に編集しているし、またそれを活かすテクニックにも長けていて、本当に強いなあと感心しました。そんな選手たちが大会が終わったあとに仲良しになって、カードを交換したり、遊ぶ約束をしている姿を見ていると、とても嬉しかったですね。きっと大人になっても、この日のことはいい思い出として大切にしてくれるでしょうね。

——予選リーグで面白かったところはどこですか?

石原　シニアリーグの上位入賞者たちは、けっこう激しい予選を勝ち抜いてきましたよね。まさに勝負は時の運ともいうべきギリギリの試合をしてきたわけです。一方、ジュニアリーグの方は上位入賞者たちの予選の結果が、ほとんど5勝0敗という好成績。その違いが対照的で面白かったですね。

——決勝ステージでは、非常に白熱した対戦が繰り広げられました。ステージの上で石原さんご自身も、彼らのテクニックの高度さに驚かれていましたね。

石原　彼らは本当に自分のデッキを知り尽くしているな、と驚きました。どういうことかというと、僕ら制作者はカードの開発中に緻密にバランスの調整を取るので、デッキをたくさん作るわけです。そうすると、このデッキの中にどんなカードが入っていたっけ、と記憶をさかのぼらないといけないわけです。だけど選手たちはこれが最強だと思ったデッキについて、すべてを把握してるんですよ。だから対戦中でも、あのカードとあのカードは山札のここにあるはずだ、なくても確率的にそろそろ引けるはずだというふうに計算をしているんです。デッキと自分自身の距離がすごく近くて、カードなしでも頭の中のイメージで対戦ができるくらいのレベルなんですよ。彼らはそのデッキを何百回と遊んでいて、きっと行動パターンのようなものがいくつもできあがっているんです。彼らの頭の中では、次の自分の番に何をするか、ほとんど0秒で答えが出ているんですよ。だけど、行動として時間がかかっているというだけなんです。そのデッキの把握ぶりと習熟度のレベルの高さには、本当にビックリしました。

——日本一決定戦以外の各コーナーの中で、印象に残ったシーンがありましたら教えてください。

石原　会場の仕組みとしては、僕は5人勝ち抜き戦のコーナーがとても面白かったですね。つまり、リザードンメガバトルにしても公式トーナメントにしても、選手たちが対戦を繰り返して、頂点を決めていくピラミッド構造なんです。そこにこそ大会の意義があるし、スタッフもムードを盛り上げるために様々な演出を施していくわけです。だけど、あの勝ち抜き戦の仕組みは、非常に自律的なんですよ。テーブルと簡単なルールさえ用意しておけば、君は5回勝ったから抜けて、次は僕が入るよというふうに、自分たちで遊び方を作っている。そういう自律的な仕組みがどれくらい生まれるかなあということに、僕はとても興味があるんですよ。

——当日は、会場のあらゆるスペースで来場した子どもたちが対戦やトレーディングをしていましたね。その中にはカードを通じて、その場で友だちができたなど、素敵なシーンがいくつもありました。

石原　もともと僕らはテレビゲームを開発しているのですが、仕事にしろ遊びにしろ、ずっとモニター画



profile

クリーチャーズ代表取締役。ゲームクリエイターとして『MOTHER2』『マリオのピクロス』シリーズ（ともに任天堂）など、良質の作品を数多く制作。『ポケットモンスター』ではゲーム、カードゲーム、アニメとあらゆる作品をプロデュースしている。

面と向きあってきたわけです。テレビゲームに熱中するあまり、心地よい朝を迎えてしまうことも何度もありました(笑)。その一方で、ゲームボーイの『ポケットモンスター』を通じて、2台のゲームボーイを通信ケーブルで接続し、会話をしながらポケモンの交換や対戦を楽しむという新しい遊びが出てきたわけです。さらに『ポケットモンスターカードゲーム』では、子どもたちは自分のデッキの戦略を披露したり、自慢しあったり、それどころか1枚のカードについて熱く語り合っているわけです。しだいに遊びが画面から対人へと変わってきていて、遊ぶ人たちの会話の量が格段に増えてきている。制作者の僕らから見ても、これはすごいことだなと思います。

想いを遂げられたガルーラ親子大会

——「第1回ガルーラ親子大会」は、親子でチームを組んで対戦をする新しい試みでした。結果はとてもアットホームでいい大会となりました。ここにこそ石原さんをはじめとするクリーチャーズさんのみなさんの想いが込められている気がするのですが。

石原　僕が幼い頃にこのカードゲームがあったら、父や母と楽しく対戦できただろうなという想いが強くあります。そうしたら親子の関係がもっと変わっていたんじゃないかと思うんですよ。たった60枚の紙の固まりが親子の会話を増やしたり、親子の関係をもっと楽しくさせる。家族で楽しめる遊びを作ることは、クリエイターとして夢でした。だから家族のみなさんが楽しく遊んでくれている光景を目にしたし、自分の願いが遂げられたという想いもあって、最高に嬉しかったです。

——様々なテーマを持ったブースを見ていると、改めてポケモンカードの遊びの幅の広さに驚かされました。これほどさまざまな遊びの切り口を持てるゲームは、ポケモンカード以外にはなかなかないと個人的に実感しました。

石原　それは、それだけの面白さを仕掛けてあるわけです。そう簡単には飽きさせないぞというアイデアが山のようにあって、それを全部試すには20年ぐらいかかるという気持ちがありますから。



石原氏はすべての公式大会に足を運び、決勝戦の解説やプレゼンテーター役を務めている。(写真は第2回公式トーナメントハナダカップ表彰式)



家族で楽しめる新しい遊びを作ることは、ゲームクリエイターとして夢でした

——ポケモンカードのこれからの展開について教えてください。

石原　子どもたちにとって強さを目指すことは目標として大切だろうし、一番輝いていると思うので、公式トーナメントや日本一決定戦は今後も続けていきます。ポケモンカードの面白さには強さを競うこともありますが、もうひとつの面白さとしてガルーラ親子大会のように楽しく遊ぶこともあるんです。つまり、ポケモンカードの遊びかたはひとつじゃないということを、どれだけ表現できるかが大きなテーマなんですよ。今、ポケモンカードはやっぱり男の子中心の遊びですよね。だから、いろいろな年齢層の人たちが気軽に遊べるような遊びを増やしていきたいと考えています。親子で遊べるガルーラルールはそのひとつです。また公式ルールでは最初にじゃんけんをして勝った方のプレイヤーが先攻になりますよね。だけど、年齢の低いプレイヤーの方が先攻になるとしても面白いと思うんです。そういうふうに考えると、いろいろなアイデアが思い浮かぶんですよ。ポケモンカード全体のルール、つまりグランドルールの中に、たとえば親子対戦専用のガルーラルールがあるというイメージです。大会専用のレギュレーションは、今後も守られていくのではなく、大会をより盛り上げるための競技規定として位置づけるものなんです。ですからリザードンメガバトルと次のカメックスメガバトルのレギュレーションは別なんです。公式ルールを増やすようなことはしませんけど、親子で遊べるルールや現在、制作中の4人対戦ルールのようなものは今後、増やしていきたいと思っています。

——リザードンメガバトルは、全国各地で行われた第2回公式トーナメントから振り返ると、およそ6ヶ月の長期間にわたり、また参加人数も公式トーナメントだけで1000人に迫るという非常にスケールの大きなイベントでした。すべてを終えられて、どのような感想をお持ちですか?

石原　日本一としてのステータスの高さやイベントの規模など、すべてが予想以上のレベルでした。だいたい全国にわたって大会をしていると、最後はバテるもんなんです(笑)。だけど、クライマックスの日本一決定戦を最大級に盛り上げることができたのは、本当にすごいなあと感じています。スタッフのみなさんも面白かったと言ってくれてますし、素晴らしい大会ができたと思います。



ポケモン総合プロデューサー　クリーチャーズ代表取締役

石原恒和氏インタビュー

ISHIHARA TSUNEKAZU



スペシャル座談会

イベントの愉しみ

ミニイベント 公式トーナメント そして日本一決定戦

ポケモンカードのイベントの面白さは
実際に体験してみないと分からない！
そこでこのスペシャル座談会では、
ポケモンカードのクリエイターに
リザードンメガバトルの思い出を中心に、
イベントの愉しさについて語ってもらった。

撮影協力●ポケモンセンタートウキョー

イベントはたくさんの子供と出会える場。一緒に遊べる、会話もできる大切な空間。

作り手と受け手が一緒になって遊べる

——みなさんポケモンカードの作り手でありながら、イベントの運営にも携わっていますよね。しかも必ずどの会場にも足を運んでいます。そこで、まずみなさんそれぞれが感じているイベントの楽しさをお聞かせください。

赤羽　自分たちが作ったゲームの反響をその場で見られる。そこが一番大きいですよね。作り手が受け手である子どもたちと一緒になって遊べるのは、まさにカードゲームならでは。これに尽きますね。

三浦　僕らはこれまで主にテレビゲームの仕事をしてきたんですけど、お客さんと触れ合える機会がないんですよ。そこがいつも残念なんです。やっぱりお客さんの顔は見たいじゃないですか。だけど、ポケモンカードならイベントに足を運べば、たくさんの子どもたちと出会えますよね。彼らの表情を見るだけで色々なことがわかるし、聞きたいことがあれば、その場で質問もできる。一緒に遊びたければ、その場で対戦だってできるんです。だから、作り手としてイベントは、最高に貴重なんですよ。もう足を運ばずにはいられないですね。

——大山さんはいかがですか？

大山　面白いですよね、やっぱり。

三浦　大山さんの最近のテーマは、ポケモンカードに限らないで、子どもたちと遊ぼう！なんでしょう(笑)。

大山　最近のイベントで、子どもたちの輪の中に入っていったんですよ。ある子どもに、「対戦しようよ」と声をかけたら「今ゲームボーイのポケモンで対戦をしているから、終わるまで待ってよ」と言われたんですよ。それでしばらく待っていたら、その子に「おじちゃん、これあげるよ」と言われて、サンダーのカードをもらいましたよ(笑)。「いいの？」って聞いたら「うん。これより強いの持ってるから」って(爆笑)。

三浦　その子はきっと「悪いなあ」と思ったんだろうね。どこかのおじさんが対戦しようよって言っているのに、相手してあげられなかったわけだから(笑)。

大山　別の子は僕がデッキを持っているのを見て、「おじさん、ポケモンカード好きなの？」と話しかけてきた(笑)。うんと答えると「ポケモンカードって面白いよねえ」だって(爆笑)。

——内山さんはいかがですか？

内山　私はイベントの運営に携わる立場として、すべてを安全にやり遂げることが仕事なんですね。だから、会場ではいつも緊張しているんですよ。事故が起きないように、起きないようにと最善の注意を払って。だからイベントの前になると、心配で眠れない日々が続くんです。終わると「とにかく終わってよかった～」なんて言って、ようやくホッとできる。イベントの仕事は私自身、はじめは何もわからないままに携わっていたんですよ。場を盛り上げるために、まずはスタッフである私たちが愉しんで雰囲気を盛り上げようなんて、色々と工夫をしていました。だけど最近では、それもちょっと違うかなと感じているんですよ。というのは最近はスタッフがアレコレするよりも、会場に来てくれた子どもたちが好きなように遊んでくれるようになってきたんですよ。特に4月26日に行われたリザードンメガバトルの会場ではそうでしたね。子どもたちがフリースペースを利用して自由に対戦をしたり、トレーディングを楽しんでくれているのは、ポケモンカードの面白さがきちんと伝わっているような気がします。私たちとしては嬉しいですね。



profile

ポケットモンスターカードゲーム
ディレクター
赤羽卓美氏
クリーチャーズ　カードゲーム制作室室長。ポケモンカードのディレクターとしてゲームデザインに加えて、商品展開やイラストレーション、アートディレクションなどの監修役も務める。



profile

ポケットモンスターカードゲーム
ゲームデザイナー
大山功一氏
火星工房代表。フリーのゲームデザイナーとして、数々のテレビゲームやカードゲームの企画に携わる。イラストレーターとしても活躍し、最近では『MOTHER2』のキャラクターデザインを担当。

過去のイベントを振り返ってみよう

——リザードンメガバトルの話の前に、記念すべき第1回目のイベントから第2回公式トーナメントまでの思い出をお聞かせください。

赤羽　最初の頃は苦労も多かったけど、その分思い出が深いですね。最初は、まだイベントの仕組みができ上がっていなくて、僕や大山さんが「最強トレーナーと対戦できるコーナーを作ろうよ！」なんて言って、コーナーをその場で作っていましたから(笑)。特に第1回目のイベントは、公式トーナメントはまだなくて、ティーチングとトレーナー対戦がメインでした。ポケモンカードトレーナーの数もまだ少なくて、僕や大山さんがティーチングをしていたんですよ。

大山　そうそう。まだ今のようにブースのスペースが広くなくて、手作り感覚がありましたね。

赤羽　ブースの飾りつけもしたよね。カードをカラーコピーして、拡大して、スチールボードに貼ったりね。

大山　開場前にポケモンカードのブースをのぞいてみたら、あっさりとしていて寂しげでね(笑)。それで何とかしようと、手作りのボードを貼っていたら、子どもたちが近寄ってきて「それでいいからちょうだい！」なんて言ってきたりね。そういえば、あの頃はポケモンのきぐるみもブースの周りを回っていて、にぎやかだったね。

赤羽　実はニョロゾのきぐるみには、イマクニ？が入っていたんですよ。イマクニ？のデビューはCDじゃなくて、実はきぐるみだったという(笑)。

三浦　第1回目のイベントには、ポケモンカードトレーナーとしてゲームフリークの西田敦子さんと森本茂樹さんが手伝いにきてくれたりしたんですよ。

イベントの愉しみ

赤羽　神戸で行ったマサラカップは、はじめてのポケモンカード単独のイベントだったんです。だから、お客さんが来てくれるかどうか、すごく心配でしたね。公式トーナメントが始まっているのに、会場には全部で30人ぐらいのお客さんしかいなくて、「こりゃダメだぁ〜!」と青ざめた(笑)。実際は公式トーナメントだけが別のスケジュールで朝早くから進行していただけで、開場になっていなかっただけだった(笑)。そのうちに、どんどんとお客さんが来てくれて、心底ホッとしました。

内山　イベント会場は大山さんと赤羽さんがデザインしてくれたんですよね。

―ブースのデザインをですか?

大山　僕らがラフを起こして「こんなふうに」とお願いする感じですね。神戸のときは、僕と赤羽くんとでアイデアを出しあって、苦労したんですよ。だからよけいお客さんの反応が気になってしまって。そしたら朝は30人ぐらいしかいなかったわけでしょ。もう、泣きそうでしたよ。がんばったんだけどなあ、なんてね(爆笑)。

三浦　北海道で行われたシオンカップでは、天才的なプレイングと言われた選手がいましたね。ポケモンカードトレーナーの人たちはさすがにカードの腕前は強いんだけれど、その選手のプレイに本当にぶったまげていた。将棋指しの天才少年っているじゃないですか。ああいう感じなんですよ。

―すべての先を読んでいて?

三浦　ものすごく状況を冷静に判断している。たとえば手札に有効なカードが何枚もあるのに、ここで「オーキドはかせ」を使っておかないと、3手先で負けてしまうという感じで、「オーキドはかせ」をバンッと使う。そうして山札から引いてきたプラスパワーやディフェンダーをポケモンにつけまくる。しかも、ディフェンダーを3枚、控えポケモンにつけたりしてね。とても知的なプレイでした。僕はあとNINTENDOスペースワールド97のイベントが印象深いですよね。

―2日間で、24万人強が集まったイベントですね。

三浦　『ロケット団』の先行販売コーナーにはとてつもなく長い行列ができていましたね。先行販売ブースにたどり着いて、『ロケット団』を買えるまでにゆうに3時間はかかったらしいですね。

心から楽しんだ リザードンメガバトル

内山　毎回イベントの前はもっと良くしようと準備が大変なんです。たとえばぶ厚いイベントスタッフブックを徹夜で制作したり。

大山　以前のイベントスタッフブックは印刷物じゃなくてコピーだったんですよ。ここにいるみんなでコピーををホッチキスで綴じたりしていたんですよ。僕は文化祭の前夜みたいな感じで面白かったけどね(笑)。

内山　じゃあ、またお願いします!

大山　いや〜もういいです(笑)。

―それでは4月26日、日本一決定戦リザードンメガバトルの話題に移りましょう。みなさんの印象に残ったシーンはどこですか?

内山　私は、選手たちの表情の変化かなあ。みんな対戦中は、大人びた表情で、クールにプレイしているんですね。だけど、試合が終わるとコロッと少年っぽくなっちゃうんですよ。試合が終わると、みんな仲良しだしね。表彰式でリザードンのトロフィーを渡したじゃないですか。あれはすごく重たいので持って帰るの大変だから、私たちは後日、選手の自宅に郵送しようと思ってたんですよ。実際、選手たちにそう話してみたら、みんな本当に嬉しそうに「このまま持って帰る」と言ってくれて、私としては感動的でした。

三浦　日本一決定戦に出場した選手は各地区の公式トーナメントで一度、顔を見ているから、みんなが印象深いですよね。「彼は負けちゃったかあ」とか「アイツは強くなったなあ」とか、そんな感じですね。

―当日のクライマックスといえる決勝ステージはいかがでしたか?

内山　あんまり緊張しないで、よくプレイできるなと感心しました。対戦台のまわりは、ライトに照らされて、たくさんのカメラマンに囲まれていたじゃないですか。それなのに自分を見失わず、自分だけを信じて戦って、えらいなあと思いましたよ。

もっと楽しく。もっとにぎやかに。ポケモンカードは自由に遊んでほしい!

三浦　日本一決定戦の決勝ステージに上がった段階で、自分に自信が生まれて、動じないものがあったんじゃないかな? 顔つきちょっと違っていたし。

内山　そうそう少し大人になった感じがしたな。握手している風景もなんかちょっと違うんですよね。なんか堂々として、力強い感じがあった。

―当日は他にも様々なブースがありましたが、面白かったところ、興味深いシーンなどがありましたら、お聞かせください。

大山　床の上で対戦をする子どもたちの数がすごかったですね。

三浦　フリースペースどころか、人通りの激しい通路で対戦をしている子どもたちも多かった。それと混乱しちゃって、カードコレクションを床にばら撒いてしまった子とか。さらにその子を囲んで、物ほしげに見ている子がいるとか(笑)。本当に面白いよね。

―親子で遊べる新ルールを使った、第1回ガルーラ親子大会がありましたね。ガルーラルールが生まれるまでのいきさつを教えていただけますか?

赤羽　ポケモンカードはカードゲームとして強さの頂点を目指す面白さもあるんだけれど、楽しく遊ぶという面白さもあるわけです。ガルーラルールは、まさに楽しく遊んでもらうためのルールとして考案しました。ポケモンカードは本当は2人で対戦する遊びだけど、親子が4人いるなら、4人全員で食卓を囲んでプレイするのも楽しいかなと。まわりの人の話を聞いていると、ポケモンカードが親子のコミュニケーションに役立っているようなんですよ。お母さんに「ポケモンカードを一緒に遊びたいなら、まずはピアノのレッスンや宿題を済ませなさい」と言われて、その通りに約束を守る女の子とか。そういう話を聞けると、まさに作り手冥利なんですよ。

内山　私が聞いた話だと、お父さんと子どもでお互いに、カードを買ったときに何を手に入れたかを報告しあうんだって。お父さんは財力があるから、カードがたくさん買えちゃうから、フェアに遊ぶために、お互いに持っているカードを全部見せあう



んだそうですよ（笑）。
赤羽　そんな風に、色々なところから親子で対戦をできないか？　という要望があったんです。それとイベント会場にも親子同士で遊べるブースを作ってほしいという要望があったんです。それだったら親子ルールを作ってみようと、とりかかったのがきっかけです。
三浦　大山さんがデザインしたガルーラぬいぐるみトロフィーがよかったなあ。
赤羽　そう、ガルーラ親子大会は、Dr.オーヤマ[注6]が公の場でデビューした場所でもあるんです。それまでコロコロコミック誌上には登場していたんだけど、イベントでは恥ずかしいからと嫌がっていたんですよ。だけど、ガルーラルールならオレもひと肌脱ぐといってくれたんです（笑）。
内山　それからは、もう病みつきなんでしょ。
大山　そんなことないよ（笑）。
赤羽　いい光景でしたよ、ガルーラ親子大会ブースは。親子同士で住所交換をしたりね。
三浦　お父さん同士が名刺交換をしたりね（笑）。
赤羽　驚いたのは赤ちゃんを片手に抱きながら対戦してたお母さん。
三浦　衣装をビシッとキメている親子がいましたね。どうやらお父さんの方が対戦に夢中になっちゃって、子どもは「お父さん、考えこんじゃったよ」なんて困った表情を浮かべていたり（笑）。

ポケモンカードの「これから」は？

――話は変わりますが、ふだんみなさんが使っているデッキについて教えてください。この本を読んでくれている読者も、そこに興味があると思いますのでぜひ。
三浦　僕はただ強いだけじゃなくて、たとえばカビゴンを中心に、ベトベトンやラフレシアなどがサポートをする「くさい、汚い、重たいデッキ」（爆笑）のように、楽しくプレイすることにこだわっています。だけど、それは負けてもいいってわけじゃなくて、変なことをしながら、それでも強いんだ！　かっこいいだろ！　といえるようなデッキを作っているんですよ。実際はなかなか勝てないですけどね（笑）。そうやって自分だけじゃなく、対戦相手も楽しませたいという感じですね。でもやっぱり、負けるとくやしいけどね。特にウッチーに負けると（笑）。
内山　最近は『拡張シート』シリーズをまんべんなく入れた多色デッキを使っています。そう考えると私は、新しいもの好きかもしれませんね。新しいカードが出るたびにどんどんとデッキに入れるし。
大山　それはね、正しいですよ。
赤羽　僕も最近は『拡張シート』シリーズを入れたデッキですね。なるべくたくさんの種類のカードを入れるんですよ。あとは「ものまねデッキ」かな。ピッピやピクシー、そしてメタモンが入っていて、とにかく相手のマネをしまくるデッキなんです（笑）。
大山　僕はメタモンとファイヤーを活かしたデッキをよく使ってましたよ。ファイヤーはいじわるな「やまやき」は使わずに、コイン判定のある「ゴットバード」しか使わないんですよ。だから、すごくスリリングなんです（笑）。それにメタモンが出てくると、お互いのプレイヤーがどうしようかと悩むじゃないですか。そこが楽しいですね。相手がベンチにベトベトンを出してきたりして、メタモンはただのメタモンのまま。ワザも使えず、どうしよーとかね（笑）。
赤羽　いろいろなカードが入ってるデッキって楽しいんですよ。気にいってるカードを入れようとすると、どうしても同じカードが4枚になりがちですよね。そうしないで、カードをあえてバラバラに入れるんです。そうすると対戦のたびに違った展開があって、新鮮で面白いですよ。そういうデッキって、スターターパック2個と拡張パックが2～3個あれば、2つくらい簡単に作れるんです。おすすめですね。
大山　スターターパックを2人でわけて、30枚のデッキで戦うのも面白いかもね。
赤羽　『ポケモンジム』にも40枚の初心者用練習デッキが登場したしね。そんな風に自由に遊んでも全然オーケーなんですよ。
――最後にポケモンカードのこれからの展開のお話と、読者へのメッセージをお願いします。
赤羽　女の子が参加しやすい「かわいいポケモン」大会を開催したいですね。
三浦　これからの公式トーナメントは、その背景にストーリーがある方向にしようと考えています。決められた設定の中で、工夫してデッキを作って対戦するんです。たとえば次回のカメックスメガバトルだと、オーキドはかせのパソコンが暴走してしまったので、デッキにはトレーナーカードの「パソコン通信」は入れられないんです。その代わりに「パソコン大暴走！」をお互いに1枚ずつ入れるという感じですね。
大山　僕はちょっと話が違うんだけど、せっかくポケモンカードで遊んでくれるのなら、ぜひ知らない子とも対戦してみてほしいと思います。隣の街へ足を伸ばしたりね。そこで対戦した相手とカードにサインをしあって交換をする。これは最近、僕が実際にしていることなんだけど（笑）。そうすると友だちが増えるんじゃないかな。それと、相手と会話を楽しみながら遊んでほしいなあ。
内山　10月20日はポケモンカードが発売された日なんですよ。今年はちょうど2年目になるので、記念となる楽しいイベントやグッズなどを企画したいですね。



メディアファクトリー ポケモンカードゲーム事業部
プロモーション担当
profile
内山雅子さん
メディアファクトリーでポケモンカードの商品企画を担当。また「ウッチー」の愛称で、テレビ東京系『おはスタ』他、テレビ、雑誌でポケモンカードの宣伝役を務める。



ポケットモンスターカードゲーム
『ロケット団』ゲームデザイナー
profile
三浦明彦氏
ゲームデザイナー。『MOTHER2』『MOTHER3』他、多数のテレビゲームを制作。ポケモンカードでは第4弾『ロケット団』のゲームデザインに加え、カードのテキスト、ルールの監修役を務める。

脚注

①第1回目のイベント
ポケモンカードの記念すべき第1回目のイベントは、小学館コロコロコミックが主催する第5回次世代ワールドホビーフェア内で行われた。メディアファクトリーの女性スタッフが交代でピカチュウのきぐるみに入ったり、クリーチャーズやゲームフリークの主要スタッフがティーチングをするなど、手作り感覚に溢れていた。





②イマクニ？
その後、ニョロゾのきぐるみは、イマクニ？の身長にあわせて作られたという事実も発覚。ポケモンカードでは「第1弾」のポリゴンと「とりかえっこプリーズ！」のイラストを担当している。



③ブースのデザイン
ブースだけでなく、案内板も大山氏の手による。柔らかなタッチが、初心者向けのティーチングブースなどにマッチングしていた。この案内板は第2回公式トーナメントの神戸や東京大会会場などで見られた。



④NINTENDOスペースワールド97
97年11月22～23日、幕張メッセで行われた任天堂主催のゲームショー。メディアファクトリーは『ロケット団』をテーマにブースをデザイン。ロケット団のシャツを着たトレーナーたちとの対戦コーナーが大反響を呼んだ。



⑤公式イベントスタッフブック
ポケモントレーナー専用のスタッフブック。各コーナーの運営要領や指導方法、詳細なルール解説などが掲載されている。表紙にはナンバリングがなされ、スタッフ以外の人の手に渡らないよう、厳重な管理がなされている。



⑥Dr.オーヤマ
コロコロコミックのポケモンカードページの案内役として、ゲームデザイナー大山功一氏が自ら演じるキャラクター。最近のイベントではイマクニ？との掛け合いが見ものだった。



ポケットモンスターカードゲームの歴史

1994—1998

'96年10月20日。『ポケットモンスターカードゲーム』は発売されるやいなや、大反響を巻き起こした。その面白さは口コミでさらに広がって、現在では子どもから大人まで幅広い層のファンに支えられている。また各種のイベントでは、さまざまなドラマが生まれてきた。1年と半年に及ぶ、その軌跡を追いかけてみよう。

94

11月 クリーチャーズ設立

95

11月 石原恒和プロデューサーのもと、大山功一氏、赤羽卓美氏のメンバーで、ポケモンカードの制作がスタートする。

96

1月 ※注1 テストカードが完成し、ポケモンカードの制作が本格化する。

2月 ゲームボーイソフト『ポケットモンスター赤』『緑』同時発売

7月 15日 コロコロコミック誌上でポケモンカードの記事が掲載される

8月 次世代ワールドホビーフェア会場で「製造快調!」と書かれた予告チラシ※注2を配布する

10月
15日 コロコロコミックに「ピカチュウ」「プリン」のおまけカードがふろくとしてつく。大反響を巻き起こす

20日 ポケモンカード全国発売!『スターターパック』※注3と『第1弾拡張パック』を同時発売

11月 30日 『すぐわかるポケモンカードの遊びかた』※注4発売

12月 12日 『ギフトパック』※注5発売
第5回次世代ワールドホビーフェアではじめてのポケモンカードのイベントが行われる

97

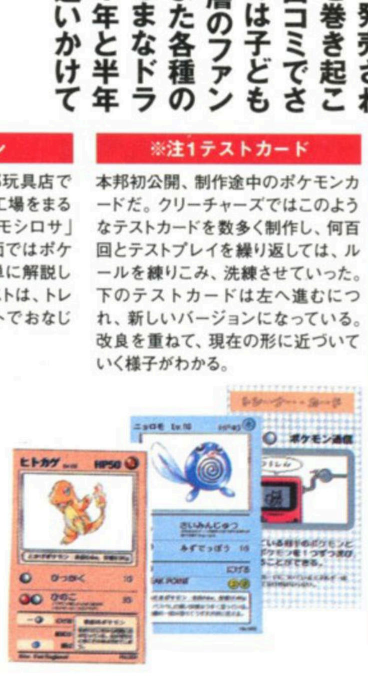
1月 31日 『スターターパック』50万パック、『第1弾拡張パック』120万パック出荷

ポケットモンスターの動向

脚注

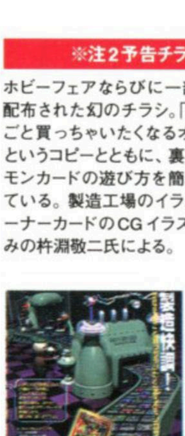
※注1テストカード

本邦初公開、制作途中のポケモンカードだ。クリーチャーズではこのようなテストカードを数多く制作し、何百回とテストプレイを繰り返しては、ルールを練りこみ、洗練させていった。下のテストカードは左へ進むにつれ、新しいバージョンになっている。改良を重ねて、現在の形に近づいていく様子がわかる。



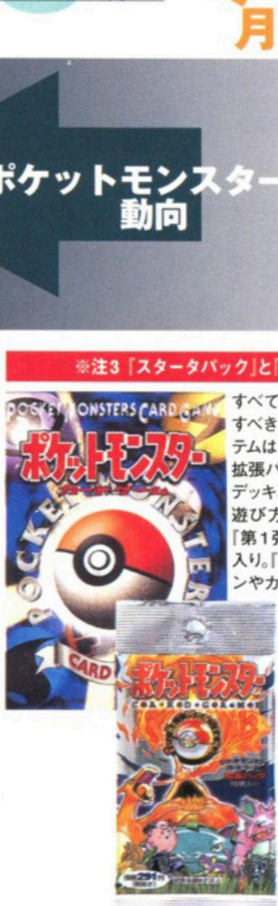
※注2予告チラシ

ホビーフェアならびに一部玩具店で配布された幻のチラシ。「工場をまるごと買っちゃいたくなるオモシロサ」というコピーとともに、裏面ではポケモンカードの遊び方を簡単に解説している。製造工場のイラストは、トレーナーカードのCGイラストでおなじみの杵淵敬二氏による。



※注3『スタータパック』と『拡張パック第1弾』

すべてはここからはじまった。記念すべきポケモンカードの第1弾アイテムは『スターターパック』と『第1弾拡張パック』。『スターターパック』は、デッキとして使える60枚のカードと遊び方説明書などが入っている。『第1弾拡張パック』はカード10枚入り。『第1弾』のカードにはリザードンやカメックスなどの人気のポケモンが多く、またトレーナーカードの種類が豊富のため、根強い人気を誇っている。カードの種類はエネルギーカードをふくめて、全102種類。



※注4:『すぐわかるポケモンカードの遊びかた』

写真とイラストをふんだんに添え、ポケモンカードのルールと遊びかたを分かりやすく解説したガイドブック。ピカチュウとプリンカードがおまけとしてついてくる。
※現在('98年8月)、'98年の新ルールにあわせた改訂版を制作中。



3月

5日 拡張パック第2弾
※注6『ポケモンジャングル』発売
※注7『カウンターセット』発売

9日 イトーヨーカドー春日部店にてミニイベント
（埼玉県／参加人数約100名）

20日 ※注8『大人にもわかるポケモンカード戦略』発売

30日 ブックス新京都宇治店にてミニイベント
（参加人数約100名）

4月

27日 ※注9 イトーヨーカドー和光店にてミニイベント
（埼玉県／参加人数約150名）
イトーヨーカドー春日部店にてミニイベント
（埼玉県／参加人数約150名）

5月

2日 ※注10『プレイマット』発売

3日 イトーヨーカドー津田沼店にてミニイベント
（千葉県／参加人数約150名）

4日 イトーヨーカドー東久留米店にてミニイベント
（東京都／参加人数約150名）

5日 イトーヨーカドー恋ヶ窪店にてミニイベント
（東京都／参加人数約150名）

18日 イトーヨーカドー鶴見店にてミニイベント
（神奈川県／参加人数約150名）

30日 『スターターパック』110万パック、『拡張パック』合計540万パック出荷

6月

5日 ※注11 ポケモンカード公式マガジン『ポケモンカードファンクラブ VOL.1』創刊
「公式ルール第2版」発表

8日 ヤング文具店にてミニイベント
（神奈川県／参加人数　約100名）

13日 ※注12『公式カードファイル』発売

14日 第1回ポケモンカード公式トーナメント（幕張メッセ）

15日 第1回ポケモンカード公式トーナメント（幕張メッセ）

20日 拡張パック第3弾
※注12『化石の秘密』発売

28日 ポケモンCD第1弾『ポケットモンスター』発売。ポケモンカードCMソング『ポケモン言えるかな？』を収録

7月

13日 ヤング文具店にてミニイベント（神奈川県）
ブックスコスモスにてミニイベント（埼玉県）

19日 イトーヨーカドー春日部店にてミニイベント
（埼玉県／参加人数約100名）

20日 イトーヨーカドー和光店にてミニイベント
（埼玉県／参加人数約100名）

25日 JR東日本ポケットモンスタースタンプラリー開催。賞品は「なみのりピカチュウ」と「ミュウLV.2」カード

26日 日本橋三越にてミニイベント
（参加人数　約200名）

27日 日本橋三越にてミニイベント
（参加人数　約200名）

8月

1日 イトーヨーカドー恋ヶ窪店にてミニイベント
（東京都／参加人数約100名）

2日 日本橋三越（参加人数　約200名）

3日 日本橋三越（参加人数　約200名）

9日 イトーヨーカドー東久留米店にてミニイベント
（東京都／参加人数約150名）

10日 イトーヨーカドー春日部店にてミニイベント
（埼玉県／参加人数約150名）

14日 イトーヨーカドー鶴見店にてミニイベント
（神奈川県／参加人数約80名）

31日 『スターターパック』150万パック、『拡張パック』合計1120万パック出荷
イトーヨーカドー新百合ヶ丘店にてミニイベント
（東京都／参加人数約200名）

96年 2月27日 『ポケットモンスター赤』『緑』発売。





3月30日 『ポケットモンスター赤』『緑』、売り上げ本数35万本を突破。

4月15日 コロコロコミック誌上で151匹目のポケモン「ミュウ」のデータプレゼント。20名の当選枠に7万8千通の応募が殺到。

6月 このころから数々の新聞や一般誌で「ポケモンブーム」の特集が組まれるようになる。

9月30日 『ポケットモンスター赤』『緑』、売り上げ本数106万本を突破。

10月15日 『ポケットモンスター青』、小学館（コロコロコミック他）の雑誌8誌で通信販売。

97年 3月30日 『ポケットモンスター赤』『緑』『青』、売り上げ本数316万本を突破。



※注5『ギフトパック』

スターターパック2個とプレイマット、ダメージカウンターとどくマーカー、そして『すぐわかるポケモンカードの遊びかた』が同梱されたパック。すぐにポケモンカードがプレイできるセットとしてファミリーユーザーを中心に売れ、市場に出たとたんに姿を消した。



※注6『ポケモンジャングル』

拡張パック第2弾。水、炎、雷と3つのタイプに進化するイーブイなど、より戦略的に使えるカードが増えている。草ポケモンが多いことから、「ポケモンジャングル」とネーミングされた。開発中は「ポケモンパーク」と呼ばれていた。カードは全48種類。



※注7『カウンターセット』

ポケモンカードのプレイに欠かせないダメージカウンターとどくマーカーのセット。ダメージカウンターは30個、どくマーカーは2枚入っている。



※注8『大人にもわかるポケモンカード戦略』

カード1枚につき1ページをさいて、その特徴から使い方、そして戦術までをくわしく解説した本。編集はクリーチャーズ。カードの正しい解釈が掲載されている、いわば「ポケモンカードの定本」。新シリーズが出るたびに、発行されていく予定。現在は『第1弾』から『化石の秘密』までのカードを掲載した「改訂版」が発売中



※注9ミニイベント

ポケモンカードのルール普及を目的に、全国のイトーヨーカドーや書店などで催されていたイベントのこと。このころはティーチングコーナー、トレーナー対戦コーナー、トレーディングコーナーなどが中心だった。どの店舗でも開店前からファンが長蛇の列を作り、ときには入場制限を行わなければならないほどの人気を集めていた。



※注10プレイマット

バトル場やトラッシュなどカードの置き場所を記したマット。プレイ中のカードの扱いやすさを追求し、素材にスポンジを採用している。色は緑、黒、赤の3色。NBAのコートをモチーフにしたデザインがカッコいい。ヤドン（LV.9）カードがふろくとしてついてくる。



9月

5日 『ポケモンカードファンクラブ VOL.2』発売

14日 イトーヨーカドー鶴見店にてミニイベント（神奈川県／参加人数約300名）

21日 イトーヨーカドー東久留米店にてミニイベント（東京都／参加人数約380名）

27日 イトーヨーカドー春日部店にてミニイベント（埼玉県／参加人数約400名）

28日 イトーヨーカドー和光店にてミニイベント（埼玉県／参加人数約350名）

10月

10日 TOYOTAオートキャンペーンが行われ「ピカチュウLV.16」と「ウィンディLV.34」カードがプレゼントされる。
イトーヨーカドー鳴海店にてミニイベント（愛知県／参加人数約300名）

26日 イトーヨーカドー堺店にてミニイベント（大阪府／参加人数約150名）

30日 『スターターパック』190万パック、『拡張パック』合計1530万パック出荷

11月

8日 第2回ポケモンカード公式トーナメント・マサラカップ（神戸国際展示場）

11日 ※注14『キャリングケース』『デッキケース』発売

18日 『ポケモンカードファンクラブ VOL.3』発売

20日 『大人にもわかるポケモンカード戦略改訂版』発売

21日 ※注15 拡張パック第4弾『ロケット団』発売「公式ルール第3版」発表

22日 NINTENDOスペースワールド97にてイベント（幕張メッセ）

23日 NINTENDOスペースワールド97にてイベント（幕張メッセ）
久留米ミニイベント（参加人数約100名）

12月

ニンテンドウ64「Wゲットだぜ！キャンペーン」開始。「かっこいいポリゴン」と「くいしんぼカビゴン」カードをプレゼント。

7日 第2回ポケモンカード公式トーナメント・トキワカップ（福岡ドーム）

19日 ※注16『ロケット団ギフトパック』発売

20日 『ギフトパック』発売

31日 『スターターパック』250万パック、『拡張パック』合計2250万パック出荷

98

1月

1日 「公式ルール第4版」発表

10日 第2回ポケモンカード公式トーナメント・ニビカップ（幕張メッセ）

11日 第2回ポケモンカード公式トーナメント・ニビカップ（幕張メッセ）

25日 エスパ琴似店にてミニイベント（北海道）

31日 『スターターパック』280万パック、『拡張パック』合計2600万パック出荷

2月

1日 第2回ポケモンカード公式トーナメント・ハナダカップ（大阪ドーム）

8日 第2回ポケモンカード公式トーナメント・シオンカップ（札幌コミュニティドーム）

10日 ポケモンCD第5弾『とりかえっこプリーズ』発売。ポケモンカードCMソング『とりかえっこプリーズ』を収録。
※注17「とりかえっこプリーズ」キャンペーン開始

15日 第2回ポケモンカード公式トーナメント・クチバカップ（ナゴヤドーム）

4月1日 テレビアニメ『ポケットモンスター』放送開始

6月13日 『ポケットモンスター青』、小学館（コロコロコミック他）の雑誌13誌で通信販売。付属の申込書を使用して、ローソンで独占

9月21日 ニンテンドウ64「なみのりピカチュウ」データプレゼントキャンペーン開始

9月30日 『ポケットモンスター赤』『緑』『青』、売り上げ本数694万本を突破。

11月8日 TVアニメ『ポケットモンスター』視聴率18・6%を記録

12月5日 『ポケットモンスター青』、全国のローソン全店で予約販売開始。

98年 2月28日 『ポケットモンスター青』、全国のローソン全店で予約販売。

3月27日 『ポケットピカチュウ』発売



3月30日 『ポケットモンスター赤』『緑』『青』、売り上げ本数884万本を突破。

5月27日

※注11『ポケモンカードファンクラブ』

ポケモンカード公式マガジン。最新カードの紹介やルール解説をはじめ、イベントレポートや各界著名人のデッキ自慢、大山功一氏によるデッキ診断コーナーなどの企画が盛りだくさん。オリジナルのデッキケースなど毎号趣向を凝らしたおまけがついてくる。



※現在(98年8月)はリニューアル創刊準備中。

※注12『公式カードファイル』

コレクションに最適なカードファイル。カードポケットの数は104。全シリーズ中、カードの種類が最も多い『第1弾』が1冊に収まるという設計。エレブー(LV.20)のカードがおまけとしてついてくる。



※注13『化石の秘密』

拡張パック第3弾。幻のポケモン、ミュウのカードも登場し、151種類すべてのポケモンがここで勢ぞろいする。化石ポケモンや強力なワザを操る伝説のポケモンも登場する。開発中は「グレンじま」とネーミングされていた。カードは全48種類



※注14『キャリングケース』&『デッキケース』

カードの保管、持ち歩きに最適なケース。キャリングケースは、1000枚以上のカードが収納できる。ダメージカウンターなどを入れるのに最適な小物ケースと「マイデッキメモカード」がついてくる。デッキケースは2個のデッキが収納できるコンパクトサイズ。



※注15『ロケット団』

拡張パック第4弾。「わるい」をテーマに制作され、中でもわるいポケモンの登場は、ファンに新鮮なショックを与えた。ポケモンたちのワザは強力だがHPが低くなっているなど、まさに上級者向けのカードぞろい。明かされていない謎も多い。カードは全64種類。



※注16『ロケット団ギフトパック』

『ロケット団』発売を記念して制作されたギフトパック。基本的な内容はギフトパックと同じだが、スターターパックは『ロケット団』カードだけで構成され、プレイマットはブラックなど、すべてがロケット団仕様になっている。なりきりプレイに最適なロケット団バッジ2個とポスターもついてくる。



28日 『ポケモンカードファンクラブ VOL.4』発売

3月

22日 イトーヨーカドー六地蔵店にてミニイベント（京都府／参加人数約300名）

23日 **[※注18]『拡張シート第１弾』(青版)発売**

28日 テレビ熊本主催「TKUの日」にてミニイベント（熊本県）

29日 テレビ熊本主催「TKUの日」にてミニイベント（熊本県）

30日 『スターターパック』320万パック、『拡張パック』合計3320万パック出荷

4月

5日 イトーヨーカドー南大沢店にて親子イベント[※注19]（東京都／親子19組子供56名参加）

11日 イトーヨーカドー津田沼店にて親子イベント（千葉県／親子31組子供56名参加）

12日 イトーヨーカドー鶴見店にて親子イベント（神奈川県／親子32組子供112名参加）

19日 イトーヨーカドー我孫子店にて親子イベント（千葉県）

26日 ポケモンカードゲーム 第１回日本一決定戦リザードンメガバトル

[※注20]ポケモンジムシリーズ『ニビシティジム：タケシ』『ハナダシティジム：カスミ』発売

6月

10日 『ポケモンカードファンクラブ VOL5』発売

13日 第８回次世代ワールドホビーフェアにてイベント。はじめてのシールド戦[※注21]を行う

7月

17日 **『拡張シート第２弾』(赤版)発売**

18日 ポケモンカードファンのためのプレイスペース「ポケモンジムオフィシャル」[※注22]が日本橋ポケモンセンターにオープン

19日 ポケモンカードゲーム第２回公式トーナメントシリーズ・カメックスメガバトル関東大会（パシフィコ横浜）

20日 ポケモンカードゲーム第２回公式トーナメントシリーズ・カメックスメガバトル関東大会（パシフィコ横浜）

25日 **ポケモンジムシリーズ『クチバシティジム：マチス』『タマムシシティジム：エリカ』発売**

26日 ポケモンカードゲーム第２回公式トーナメントシリーズ・カメックスメガバトル中部大会（ポートメッセ名古屋）

30日 『スターターパック』400万パック、『拡張パック』合計4540万パック出荷

8月

1日 ポケモンカードゲーム第２回公式トーナメントシリーズ・カメックスメガバトル九州大会（福岡国際センター）

16日 ポケモンカードゲーム第２回公式トーナメントシリーズ・カメックスメガバトル北海道大会（アクセスサッポロ）

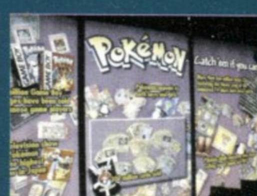
22日 ポケモンカードゲーム第２回公式トーナメントシリーズ・カメックスメガバトル関西大会（国立京都国際会館）

23日 ポケモンカードゲーム第２回公式トーナメントシリーズ・カメックスメガバトル関西大会（国立京都国際会館）

9月

3日 テレビ東京系『64マリオスタジアム』にて、カメックスメガバトル決勝戦の模様が放送される

米国アトランタで行われた「E3ショー」において、アメリカ版ポケモン『POKEMON』、大々的に発表される



7月18日 劇場版ポケットモンスター『ミュウツーの逆襲』『ピカチュウのなつやすみ』全国一斉公開「ポケモンセンタートウキョー」グランドオープン



8月1日 ニンテンドウ64ソフト『ポケモンスタジアム』発売

9月12日 『ポケットモンスターピカチュウ』発売



9月21日 全米でアニメ版『POKEMON』放映開始

9月28日 全米でゲームボーイ版『POKEMON』(赤版、青版)発売

※注17 とりかえっこプリーズキャンペーン

トレーディングをテーマにした大キャンペーン。メディアファクトリーに手持ちのカードを２枚送れば、「フシギバナ」「リザードン」「カメックス」のうちの１枚と、「とりかえっこプリーズ」カードと交換できた。全国のプレイヤーから応募が殺到した。

※「とりかえっこプリーズ」キャンペーンはすでに終了しています。

※18『拡張シート』シリーズ

1シートに３枚のカードというスタイルで、ジャンボカードダスマシンで発売されている新シリーズ。オリジナルマーカーを生かした新しいワザや、大勢のイラストレーターによる個性的なイラストなど、これまでのシリーズとは違った魅力に溢れている。現在は第２弾赤版が発売中。

※注19 親子イベント

親子でチームを組んで対戦する新しい遊び方「ガルーラルール」による親子向けのイベント。同時にティーチングも行われ、ポケモンカードの遊び方を知らないお父さん、お母さんたちから好評を博した。参加者にはもれなくガルーラルール専用カード「タッチ交代!」がプレゼントされる。

※注20「ポケモンジム」シリーズ

あらかじめデッキが組まれた新スターターパック。デッキは、ポケモントレーナーたちが好んで使うポケモンを中心に構成されている。同梱の説明書のガイドに従ってプレイを進めると、ルールからデッキの組み立てまでをマスターできる。

※注21 シールド戦

『ポケモンジム』を使った遊び方のひとつ。プレイヤーには『ポケモンジム』がひとつ貸し出され、制限時間内に64枚のカードの中から好きなカードを選び出し、40枚のデッキを作る。そうして組んだデッキで対戦をする。プレイのテクニックだけでなく、デッキを作るテクニックも重要な遊び方だ。

※注22「ポケモンジムオフィシャル」

日本橋にある「ポケモンセンタートウキョー」2Fにオープンした、ポケモンカードをはじめたい人のためのティーチングスペース。おもに日曜や祝祭日にオープンしている(日曜、祝日にもオープンしていない日もあり)。













ポケットモンスターカードゲーム
第2回公式トーナメント大会

全参加者リスト

総参加人数
804名
開催期間
97年11月8日
98年4月26日

マサラカップ

会場●神戸国際展示場
開催日時●97年11月8日(土)
参加人数●165名

ジュニアリーグ (午前の部)

阿部 壮太
阿部 祐希
安部 元宏
荒井 裕也
一井 翔太
岩村 真行
今西 徹
石村 篤志
石田 泰也
榎本 武朗
奥 かなえ
岡本 圭弘
尾崎 拓郎
加重 順考
河原 健
門田 真大
吉祥 晋太郎
城戸 拓哉
北安 健吾
久保田 悟朗
国分 荘輔
児島 祐貴
佐野 真希
坂本 佳子
坂本 喬央
坂本 剛史
貞方 勇祐
下浦 純也
志賀 功一
柴原 昭一
新垣 達也
白鳥 一輝
杉元 友樹
杉本 小百合
高木 偉織
竹本 豊
富本 浩己
中谷 裕一
中島 準也
中尾 知幸
中野 健太
西野 雅幸
橋本 昌樹
平川 佑介
平田 たかし
古市 真一朗
藤本 淳志
二見 陽平
冨士 哲平
福田 耕
福田 祐貴
福田 翔平
廻本 惇史
松川 太郎
松尾 優
松葉 啓生
前田 裕介
宮崎 浩平
宮田 康平
光武 美穂
三倉 彩果
三木 崇司
三木 正士
三輪 顕正
水谷 勇太
水落 惇
森 康人
山根 文崇
山崎 慎一
山添 弘晃
山田 悠介
山田 裕貴
山田 隆太
山内 雅博
山本 圭一
山本 拓矢
八木 孝幸
八木 康一郎
八木 秀樹
柳田 達郎
吉岡 靖裕
和田 太郎
(82名)

ジュニアリーグ (午後の部)

東 嵩之
井出 有亮
岩田 伊代
魚住 昌良
大井 勇人
大熊 秀美
大石 正義
大竹 伸幸
長 太平
尾崎 貴章
織田 昇平
方 良樹
木村 学
木村 龍也
久我 透
久保 雅哉
日下 恵二郎
小谷 久寿
阪本 弦城
坂本 剛史
坂本 太治
勝瑞 浩史
十二里 拓哉
鈴木 一弘
鈴木 翔
竹丸 由高
武村 佳仁
田澤 悠
田中 慎一郎
辻元 勇紀
鶴田 麻依子
戸尾 全利
冨着 一宏
中岡 佑斗
中島 健一
中田 康友
中野 優
中村 祐子
中山 充晃
西川 知宏
西村 裕樹
西田 貴生
原田 拓生
長谷川 綾子
畑澤 佑太
服部 敬太
浜口 聖士
原田 拓生
藤井 源也
藤川 琢帆
藤田 雅人
藤本 将春
松村 祐貴
宮村 雄太
山口 知紀
山村 潤
山本 拓哉
吉田 智明
和田 なつみ
(59名)

シニアリーグ

浅間 隆太
岩木 大輔
角崎 望
笠浪 祐貴
梶 孝行
粕谷 有
岸脇 愛香
木挽 謙一
黒木 康彦
佐藤 文勇
高杉 和孝
高田 康行
竹原 裕介
巽 敏博
田原 稔史
東畑 優太
中西 義彦
中村 仁
鳴宮 隆馬
西山 裕二
前川 貴志
松尾 勇樹
宮原 正智
吉見 旬平
(24名)

トキワカップ

会場●福岡ドーム
開催日時●97年12月7日(日)
参加人数●108名

シニアリーグ

阿部 航
安徳 仁
井口 裕介
池上 晃央
池田 英正
伊藤 竜馬
江上 祐治
小田 稔也
大山 賢太郎
加藤 久尚
加藤 雄一
兼丸 崇宏
河津 武史
河埜 司
小坂 直路
小島 清
後藤 理人
坂口 裕紀
坂田 亮平
坂本 光二
坂本 竜一
佐藤 裕太
渋田 永一
清水 孝洋
白木 裕介
白藤 丈博
鈴山 裕輔
高橋 優太
筒井 孝昭
藤 真一郎
富安 要介
友田 光彦
中尾 紀士
永岡 秀未
中村 賢一
中村 光佑
中村 仁
永原 国広
野間 裕司
則松 隆志
花田 充
平野 大志
藤田 祐也
藤原 大樹
舟越 智治
堀江 宏一郎
松尾 一謹
松本 恵太
溝上 健太
光井 大樹
山内 裕輔
湯浅 剣士郎
若宮 欣也
和田 義史
(54名)

ジュニアリーグ

青木 美穂
荒巻 吉孝
諌山 良太
石崎 祐希
伊藤 大毅
井上 雄太
今村 誠一
上野 康孝
大西 弘将
岡 光洋
緒方 翔一朗
尾鶴 亮
小野 亘
河野 秀也
久家 祐希
小池 雅人
坂井 智達
佐々木 亮一
白石 裕人
園田 薫
高橋 照彦
高倉 一旨
田中 宏明
谷 智世
田原 亮太
常岡 詠一
鶴 拓也
永石 智彦
中園 弘哉
中野 慧
中村 尚登
野中 亮
野正 雄亮
箸本 佳純
橋本 央護
浜田 恭平
平本 大典
廣内 淳
廣幡 充典
福田 達也
牧本 隆
馬淵 真弓
見谷 泰章
光延 幸紘
三宅 亮輔
宮崎 敬彰
元森 菜央
矢岡 一真
山崎 優
山崎 有起
山辺 将也
山本 新
山本 貴大
鷲尾 恵一
(54名)

ニビカップ

会場●幕張メッセ
開催日時●98年1月10日(土)～11日(日)
参加人数●211名

ジュニアリーグ (10日午前の部)

相田 真武
浅倉 誓
浅見 勇介
芦塚 勝也
壹岐 孝昭
石井 一樹
石原 隆史
今井 雄太
岩井 玲
江成 大輝
大石 渉
大胡 尚
太田 洵司
大沼 宏江
大原 直輝
小笠原 哲
小川 雄太郎
小幡 勇太郎
鹿島 亮太
金沢 真人
刈込 和行
窪 慎太郎
黒田 恵
児玉 厚
斉藤 友希
阪田 臣耶
芝本 卓也
新海 良太
寒川 大
代古 良隆
高橋 佳佑
高橋 聡史
田口 健一
千葉 俊亨
土田 真弘
常本 雄太
富樫 樹保
成澤 光治
新田 佑介
八田 直也
林 広徳
藤本 幸作
古越 祐斗
本間 智希
増田 裕昇
松木 翔太郎
丸茂 洋介
宮沢 恭平
森 ソームシャイー
柳井 聡
吉野 直樹
米須 雄基
渡辺 剛
(53名)

ジュニアリーグ (10日午後の部)

秋元 雄太
新井 健介
磯田 祥一
猪巻 妹利安
今出 慶佑
上田 翼
内山 智春
大阿久 健太
岡本 晃幸
小川 敦史
小野 祐一
加瀬 将仁
門脇 慧
金澤 和博
金谷 祥寛
河合 俊輔
川上 貴史
神立 雅裕
菊地 渉
北野 裕士
櫛橋 絵里子
小宮 光寿
小桧 光弘
小山 たいし
佐藤 正和
佐藤 洋平
下村 環太朗
杉田 光
鈴木 優
須山 知則

高井 唯史
高橋 拓海
田中 洋
佃 康司
常見 清次
富谷 拓
中道 和紀
中村 達郎
野田 祥太
花岡 啓太
平野 拓哉
深澤 直人
法花堂 幸治
堀越 俊一
前園 隼人
真野 佑輔
丸山 裕貴
丸山 洋平
美濃輪 航平
宮坂 綾
宮原 宣博
村田 晴信
諸井 亮
安川 優
山田 幻太
横溝 和也
渡辺 拓
（57名）

シニアリーグ（11日）

青木 透
飯野 翔平
石井 亮
石川 真之介
一海 達郎
一ノ瀬 雅彦
伊東 正明
犬塚 尚樹
岩間 洋志
大岡 直記
尾形 貢
岡山 健一
加藤 悟
金子 友樹
国塩 伸之
国広 晃
久保 将仁
斎藤 一樹
佐藤 潤一
佐藤 大輔
佐藤 慶和
更科 充輝
白沢 一器
鈴木 正和
鈴木 将志
宋 政昌
高木 一成
高塚 祐輔
高田 諭志
高橋 広志
舘 雄児
田中 赳友
玉田 秀貴
千田 昌俊
津 啓介
土田 光男
殿岡 直樹
西嶋 勇輔
弘山 智久
藤嶋 紘一郎
藤宮 智弘
堀江 正資
松澤 俊介
宮越 俊介
宮寺 啓祐
宮野 雄一
本江 裕大
柳沢 勇樹
横山 福子
脇田 大輝
（50名）

ジュニアリーグ（11日）

相沢 理恵
相藤 貴之
熱田 昌大
鐙野 邦生
飯干 裕徳
岩崎 亮馬
上坂 翠
上西 拓也
江川 吉光
小嶋 祐樹
粕谷 久矢
加藤 史明
金輪 龍介
川島 功三
神田 一憲
金城 幸彦
國見 由貴
蔵本 俊郎
栗原 慶太
小池 大輔
小林 雄大
坂口 巧
佐久間 翔
佐藤 明日香
佐藤 翔哉
重岡 慎一朗
下川 真実
白石 涼
杉本 和也
鈴木 啓恭
瀬越 章郎
田神 裕介
武井 千恵美
竹中 誠
田中 傑
田部 改
種田 将
玉井 佑弥
土屋 洸
豊臣 亮輔
永野 拓也
中橋 良介
新村 裕己
西巻 純
畠山 彬
平林 誠一郎
町田 敬
松浦 健二郎
水本 照人
森川 貴博
渡辺 宏明
（51名）

ハナダカップ

会場●大坂ドーム
開催日時●98年2月1日(日)
参加人数●110名

シニアリーグ

石川 真士
井上 恵
上村 和也
大木 良平
大原 聖也
大矢 洋
岡本 優祐
奥野 裕
奥村 明
折橋 健太朗
柿本 健一
片岡 正成
川東 幸朗
河村 諭司
北村 康晃
木戸 翼
衣川 真輔
阪口 篤史
坂巻 彰悟
佐野 真吾
新山 義和
杉本 信二
鈴木 勇毅
曽根 悟嗣
平 光太郎
竹腰 信人
巽 敏博
田中 健介
田中 真優子
辻坂 和哉
中江 雅人
中川 憲夫
中田 良作
長橋 純一
中村 公彦
鳴宮 隆馬
西川 仁
西山 裕二
平井 健一
福冨 陽太
藤本 智史
堀江 孝彰
松内 庸至
的場 弘幸
水尾 しのぶ
光藤 雅則
宮崎 啓吾
三好 祐希
村島 宇宙
森 一貴
山口 将
横井 真志
和氣 豊
和田 全俊
（54名）

ジュニアリーグ

有坂 拡
今枝 拓也
上田 晃生
大塚 拓也
岡上 博信
岡本 憲侍
小川 孝弘
尾崎 拓郎
恩地 慶子
神谷 昌宏
岸本 拓也
岸本 慎
清原 宏
楠本 晃
久保田 悟朗
窪田 将
倉本 大輔
栗山 義央
国分 荘輔
後藤 春安
小林 正和
坂本 喬央
里見 麻衣
清水 勇希
上新 太一
新垣 達也
竹下 真希
竹原 沙織
竹村 俊来
谷 沙織
谷村 真一郎
月田 洋介
辻尾 仁司
寺山 槙悟
長坂 和茂
西川 佳孝
橋本 昌樹
長谷川 綾子
林 宏樹
原田 貴壮
平田 峻
福岡 直也
藤井 惇至
古田 純一
松下 雄貴
松島 静香
水谷 勇太
宮井 優一
森浦 智也
安原 盛夫
山口 昌吾
山田 航己
湯浅 祥平
吉川 雅之
吉丸 道仁
米田 鉄平
（56名）

シオンカップ

会場●札幌コミュニティドーム
開催日時●98年2月8日(日)
参加人数●100名

シニアリーグ

安斎 悟郎
石垣 良
市川 祐介
伊藤 沙織
今淵 崇浩
岩窪 雄太
岩田 和之
榎本 壮平
大久保 雅史
岡部 佳生
沖田 友哉
亀山 誠司
河端 裕喜
木村 祐太
工藤 雅史
小長谷 翔
佐々木 崇裕
定政 和隆
佐野 忍
澤田 惇
清水 孝俊
白井 宏明
鈴木 庸平
高島 悠
高橋 翔太郎
谷野 宏彰
地引 翔一
塚田 圭祐
靏田 大介
中川 彰人
中野 甫
西川 潤
野田 康介
久野 秀臣
平藤 悠生
藤森 研伍
松岡 貴之
三上 裕也
湊 政明
宮下 雄磨
村国 拓治
村田 守
安田 総一朗
山崎 将人
山田 拓正
吉尾 伸也
吉田 周史
吉本 尚弘
（48名）

ジュニアリーグ

青山 昂平
青山 翔平
安在 雄祐
家村 貴行
石垣 有花
伊勢 淳一
一戸 康平
今井 淳一
岩窪 剛
氏家 友哉
大谷 竜児
大和田 哲史
加藤 和人
加藤 伸也
工藤 昂志
工藤 雄策
國島 健太
倉沢 岳士
児玉 剛士
小西 雄太
小林 秀一
佐藤 勇希
佐藤 良多
清水 理俊
霜野 翔
菅原 悠太
瀬藤 康弘
高田 竜太
高橋 恭平
高橋 秀徳
武田 理志
舘又 幸介
寺本 優太
中川 恭太
中田 拓
中村 祐介
成田 洋平
長谷川 由樹
平野 透
藤田 航
藤森 勇気
前田 隼
松井 辰憲
村岡 昭人
本迫 英樹
本迫 庸平
森 雅一
柳橋 史成
矢ノ目 崇
山田 和宏
吉田 一樹
吉田 正宏
（52名）

クチバカップ

会場●ナゴヤドーム
開催日時●98年2月15日(日)
参加人数●110名

シニアリーグ

青木 俊樹
秋元 義高
浅井 信吾
新井 伯英
荒木 勇気
飯干 達也
石田 光一
五十川 拓也
市岡 豊大
市川 拓二
井戸 理隆
伊東 丈太
遠藤 雅明
大森 早希子
小田 直輝
片原 尚
加藤 雅男
川口 周二
鬼頭 和秀
木下 鷹
久野 浩彬
後藤 正人
榊原 啓介
佐久間 功介
佐々木 崇
佐藤 愛
柴田 匡
柴山 圭
清水 幹雄
杉本 啓
鈴木 友和
鈴村 大介
田口 峻
竹内 章裕
田辺 祐生
谷 文秀
坪井 祐耶
豊辺 将嘉
永井 歩
縄本 崇大
二村 和敬
野中 聡
花井 雄
馬場 淳平
早川 真人
廣江 正基
本田 智久
松葉 達哉
森 篤史
森山 敏晃
安川 真以
山本 龍一
油井 正幸
吉野 康太
（54名）

ジュニアリーグ

刑部 聡一郎
浅井 俊行
浅井 祐介
荒木 駿
飯島 大輔
飯田 悦礼
伊藤 裕貴
伊藤 寛之
伊藤 勇樹
稲垣 紀彦
稲 慎司
上田 太郎
大谷 挙生
大谷 泰宏
岡 アキラ
小川 淳
小栗 一輝
神谷 優志
川口 亮平
川崎 恭央
坂井 祐介
佐野 祐紀
神藤 礼司
鈴森 勇人
高浦 祐司
高橋 優希
谷口 一平
谷藤 研
田之畑 裕介
手島 康佑
中森 達也
南條 貴洋
深津 良太
古川 大祐
前田 健太郎
松下 麗
松山 俊太郎
水出 亮一
水谷 佑平
宮田 倫寿
三輪 佳宏
毛利 佳之
森 武留
盛岡 良太
柳生 将良
安井 佑
山内 章寛
山下 洸平
山田 修平
山並 直人
山本 高弘
山本 雄太
横山 潤也
吉川 明博
吉本 巧
渡辺 和正
（56名）

来場者からの手紙と声

日本一決定戦リザードンメガバトル終了後、『ポケモンカードファンクラブ』編集部あてに寄せられた感想の手紙や声。それらの中から一部を紹介しよう。

日本一決定戦を見ていて思ったのは、全国のレベルは高いなということです。うちの子どもが名古屋で優勝しても、全国大会のレベルはもっと高いんだなあ、と感じました。

谷口一平くんのお父さん（愛知県）

「第一回ガルーラ親子大会」に参加するまでは、自分の子どもだけとしか対戦ができなかったので、とても面白かったです。対戦した親子の方とお話しをしたんですけど、この日のために特訓されていた親の方もいらっしゃったみたいです。

保村真理さん（千葉県）

日本一決定戦は、ポケモンカードで遊んでいる人たちにとっての頂点ですから、「いつかは自分も」という目標にもなりますし、非常に有意義だと思います。個人的には年齢無制限の部門があるとうれしいですね。

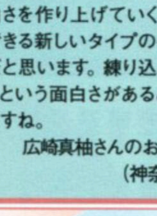
小林秀樹さん（千葉県）

「勝ち抜きコーナー」や、「四天王対戦」、そして何より「日本一決定戦リザードンメガバトル」……どれをとっても本当に楽しかった。メディアファクトリーさんどうもありがとうございました。また同じように楽しい大会を開いてください。

片平直樹くん（千葉県）

ポケモンカードは、自分で面白さを作り上げていくことができる新しいタイプのゲームだと思います。練り込んでいくという面白さがあると思いますね。

広崎真柚さんのお母さん（神奈川県）



巽家の「リザードンメガバトル」騒動記

1998年4月26日　「リザードンメガバトル」

赤いウィンドブレーカーを着た「リザードンメガバトル」参加選手の一団は、スタッフばかりが目に付く会場の中を、試合のコーナーへと向かいました。途中、会場の中央に大きなリザードン、リザード、ヒトカゲのトロフィーが見えました。

今回は4ブロックに分けての総当り戦。確実に実力のある者だけが勝ち残れる。時間がかかりそうだと判断した母は、会場内をウロウロしはじめました。

「まだすいているし、そうだ!　今日は『ポケモンカードゲーム』をマスターしよう。」

急に思い立った母は、ティーチングコーナーへと向かうことにしました。こんな母の相手をする人は大変です。判っているようで判っていない、判っていないようで判っているみたい。何をどう説明すればいいのか……。「オバさんに教えたことないぞ」といった感じで皆困っていました。その中で人身御供になったのは、メガネをかけたポケモンカードトレーナーのお姉さんでした。親切に、しかも根気よく説明をしてくれます。隣では「私も!」とばかりに別のオバサンがレクチャーを受けています。そうそう、ポケモンカード人口を増やすには、オバサンも数のうち、なにせオバサンはハマルとすごいんですから。

これでゲームの流れが判断できると気を良くした母は対戦コーナーへ帰りました。ところがチビ（敏博くん）はどうも押されているらしい。「ガンバレ念力」を飛ばそうにも、周囲の騒音の中、母の念力はあまりにも非力でした。チビはジリジリと負けがこんでいます。

結果としてシニアリーグのチビのブロックは一海くんが勝ち残りました。

昼食を挟み、午後からはトーナメント戦による日本一決定戦が行われました。ジュニア、シニア各ブロックの勝者四名ずつを残し、他の選手たちはここで開放されました。

母は一生の思い出にするのだと、ポケモンカードトレーナーの吉田さんにサインをもらいに行き、父はリザードントロフィーを持って帰らなくて済むとホッとし、チビはちょっと悔しい思い出を胸にしまってまだまだ熱い幕張メッセを後にしました。

これからも、子どもたちの夢、いえ少しは大人たちの夢も混ぜて、大いにご活躍されることを期待しております。

1998年　5月5日

巽敏博くんのお母さん

ガルーラ親子大会体験記

「第1回ガルーラ親子大会」へのご招待の連絡をいただいたときは「ヤッター!」と大喜びでした。送っていただいた「デッキの作り方」を見ながら、私たち親子の好きなバタフリーカードを中心に作ったデッキを持って、会場にうかがいました。

息子はとても緊張していたのか、朝、昼ともほとんど食事もとれない状態でした。ところが、デッキチェックをしてくださった方がイトーヨーカドーで対戦してくれたトレーナーさんだったためか、緊張もほぐれた様子。受付時には、お姉さんにお腹を出して見せ「頑張ってね」と声をかけていただき、頑張る頑張る。思いもよらぬ3勝1敗に付き添った母もびっくり。大喜びで帰ってきました。

おみやげのガルーラの大きなドラ焼きは、とてもかわいらしく、うれしい参加賞でした。4歳の弟は、口いっぱいにほおばって「オイシイ、オイシイ」とあっという間に食べてしまいました。そして、「今度は4歳でも参加できる大会を開いてほしい」と申しております。また、このような機会があれば「いいなー」と思っております。

この大会を企画運営して下さった方々、本当にありがとうございました。

1998年4月26日

浜石大樹くん　美子さん

「イラストレーターギャラリー」を見て「もしや」と思ったのですが、ひょっとして『第1弾』のポリゴンの絵を描いたのってイマクニ?ですか?

勘米良裕太くん（東京都）

ポケモンカードの面白さは、いろいろなお友だちの輪ができるということでしょうか。うちの子も神戸の大会の後で、お友だちができて手紙のやりとりをするようになりました。

中田康友くんのお母さん（大阪府）

「フリー対戦コーナー」で10人ぐらいと対戦しました。「リザードンメガバトル」の決勝戦は、とてもカッコ良かった。僕もいつか出場してみたいと思います。

山上祐介くん（東京都）

「第1回ガルーラ親子大会」はとても楽しめました。ただ、あの時のルールではタッチ交代すると子どもは子どもどうし、親は親どうしでの戦いとなっていたので、他の家のお子さんとも対戦してみたかったですね。なかなか自分の子ども以外の相手とは対戦できないんですけど、今回のような大会に参加すると、攻撃の仕方やデッキの作り方がまったく違っていて、そこがとても面白かったです。

細川誠さん（東京都）

日本一決定戦では、ずっと会場で「ガンバレ!ガンバレ!」って応援していて、試合結果の勝敗表に○とか×が描きこまれるたびに、一喜一憂してしまいました。帰りの新幹線の中で知紀もすごく喜んでいましたし、また大会に出てみたいと言っていました。

山口知紀くんのお母さん（兵庫県）

巽敏博くんのお母さん、浜石大樹くん、美子さんからは、長文による力作をいただきましたが、紙面の都合上、一部割愛させていただきました。（編集部）

● 『ポケモンスタンプ』は小学館の商品です。『ポケモンスタンプ』は切手として郵便物には使えません。
任天堂・クリーチャーズ・ゲームフリーク公認スタンプ
●監修／ポケモンだいすきクラブ



プレイヤーのみなさまへ

『ポケットモンスターカードゲーム』は、
優れたゲームだと思います。
子どもたちは誰に教わるわけでもなく、
自分たちでさまざまなテクニックを発見し、
友だちと情報交換を重ねながら、
ゲームをマスターしているようです。
そのコミュニケーションの広がりが本当に素晴らしい。
数々のドラマが生まれた日本一決定戦の中で、
最も印象に残ったシーンは表彰式でした。
石原プロデューサーからトロフィーを受け取ったとき
選手たちの表情は実に誇らしげに輝いていました。
たかがゲームなのかもしれないけれど、
誇りを感じてもらえるゲームなんだ。
ポケモンカードゲームを世に送り続けてきて、
本当に良かったと感じた瞬間でした。
これからも『ポケットモンスターカードゲーム』を
応援してください。



メディアファクトリー
代表取締役 坂本 健

リザードン メガバトルから

リザードンメガバトルの興奮冷めやらぬまま
新たな公式トーナメントシリーズがスタートした。
その名も「カメックスメガバトル」。
北海道、横浜、名古屋、京都、そして福岡と
全国の５大地区を網羅するスケールで
'98年の夏休み期間中に開催されている。
数多くの選手が日本一への夢をかけて、
公式トーナメントにチャレンジしている。
その中にはリザードンメガバトル出身の
選手も少なくはない。



第1回 日本一決定戦

リザードン・メガバトル

ポケットモンスター™ カードゲーム

1998.04.26

カメックスメガバトルへ

見事、一位の座を獲得する選手がいる。
予選突破を果たせなかった選手もいる。
その一方で、公式トーナメント初出場の選手が
新しいカードを活かしたデッキで優勝を飾っている。
また女の子の健闘も光っている。
今、再び新しいドラマが生まれようとしている。





1998.07.19—09.03

Publisher 坂本　健
General Manager 鶴　宏明
Planning Manager 伊藤憲二郎
Producer 内山雅子
Project staff 高山正寛／寺山みずほ／磯部智寿／中野さおり／川口類／青木聡
Sales Manager 小安宏幸／堺啓一
Salesperson 福永晋／林竜三／山下善久／和泉博志／小野寺晶子
Cover Design ミルキィ・イソベ（ペヨトル工房）
Design バナナグローブスタジオ
Editor-in-Chief 元宮秀介（ワンナップ）
Editors 志田英邦（ワンナップ）
依田智雄（ワンナップ）
みついりゅう
ツユキノリコ（ワンナップ）
高橋伸哉（クリーチャーズ）
Photograph リクルートフォトプランニング課
田口哲也
松本朋之
赤松伸哉
高根知明
畑山亮太
伊藤　誠
町川秀人
坂本浩康
早崎太郎
内海明啓
鈴木慶子

赤羽卓美（クリーチャーズ）

山田崇博（山田崇博写真事務所）



Illustration イマクニ？
proofreading ブレーンドット
Special Thanks（敬称略） 石原恒和（クリーチャーズ）
川村久仁美（クリーチャーズ）
赤羽卓美（クリーチャーズ）
大山功一（火星工房）
三浦明彦
戸田昭吾（クリーチャーズ）
たなかひろかず
前田政昭（タンク）
任天堂
ゲームフリーク
小学館「コロコロコミック」
小学館プロダクション
エスピーブレイン
テレビ東京「おはスタ」
トミー
スターコーポレーション
第一企画
国新産業
バーゼル
蛸八
ポケモンセンタートウキョー
永田勝治（メディアファクトリー）
松本浩（メディアファクトリー）
三木靖城（メディアファクトリー）
辻ともこ（メディアファクトリー）

リザードンメガバトル出場選手ならびにご家族の皆さま

編集後記

ポケモンカードは面白い。そして、ポケモンカードのイベントにはドラマがある。発見がある。感動がある。ただそれだけを伝えたくて制作した本です。この本がポケモンカードをもっと楽しむためのヒントになったり、みなさまがイベント会場に足を運ぶきっかけとなることを、心から願っています。

ポケモンカードのイベントの運営に携われた皆さま、本書の制作にご協力いただいた皆さまにお礼を申し上げます。そして何より、取材に快くご協力いただいた出場選手、ならびにご家族の皆さまに最大限の感謝を捧げたいと思います。本当にありがとうございました。

ちなみに4月26日当日、編集スタッフが幕張メッセを駆けずり回った歩数を『ポケットピカチュウ』で計測してみると、3万9007歩でした。

（編集スタッフ一同）



ポケットモンスターカードゲーム日本一決定戦
リザードンメガバトル公式ドキュメントブック
めざせ！ ポケモンカードマスター
元宮秀介＆ワンナップ編著
クリーチャーズ監修

1998年10月20日 初版第1刷 発行

発行：株式会社メディアファクトリー
〒104-8001 東京都中央区銀座8-4-17
印刷・製本：大日本印刷株式会社

●定価はカバーに表示してあります。
ISBN-4-88991-606-7　C0076
1998　Printed in japan
●乱丁本・落丁本はお取り替えいたします。

ISBN4-88991-606-7

C0076 ¥1300E

9784889916065

1920076013003

定価：本体1300円（税別）

メディアファクトリー

